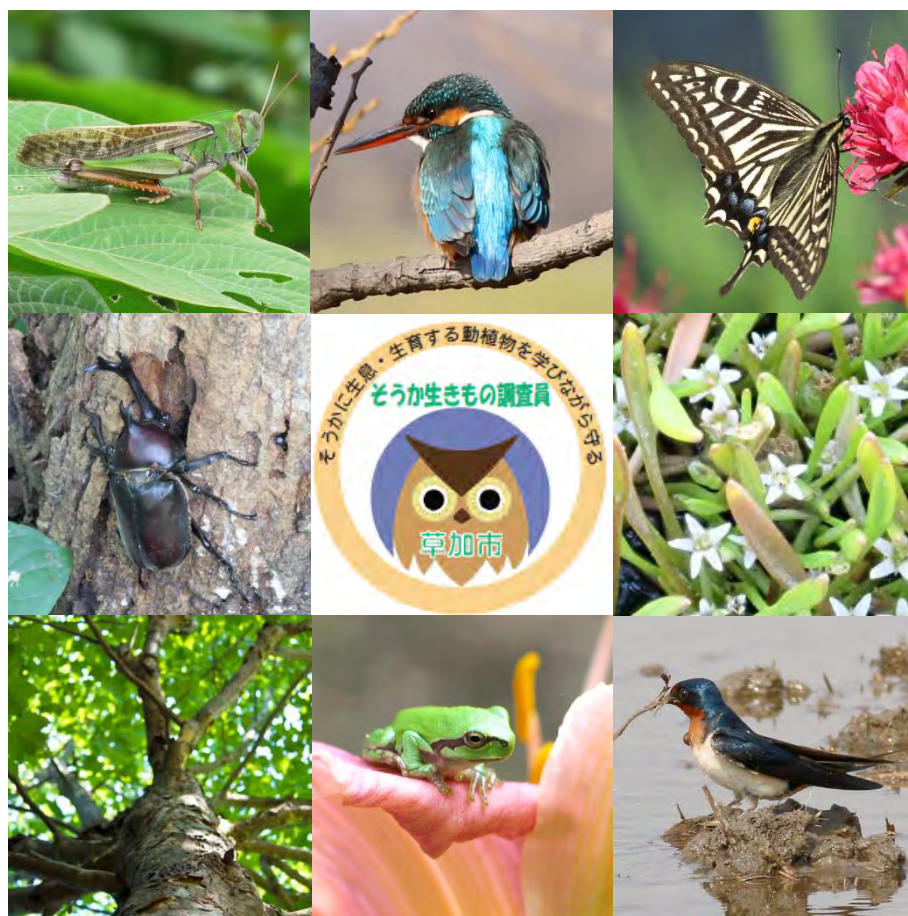


そうか生きもの調査報告書

2016-2020



草加市

令和4年（2022年）5月

目次

第1章 そうか生きもの調査報告書について.....1	⑱ カルガモ.....25
1 はじめに.....1	⑲ カワセミ.....26
2 そうか生きもの調査とは.....1	⑳ コゲラ.....27
(1) 個別調査.....2	㉑ ツバメ.....28
(2) 集合調査.....2	㉒ ツバメの巣.....29
3 調査報告のまとめ方について.....2	㉓ ハクセキレイ.....30
(1) そうか生きもの調査報告書について.....2	㉔ モズ.....31
(2) 調査指標42種について.....3	㉕ ツグミ.....32
4 調査結果について.....4	㉖ オオヨシキリ.....33
(1) そうか生きもの調査への参加者数について4	㉗ シジュウカラ.....34
(2) 調査結果の概要.....4	㉘ オナガ.....35
(3) 総括.....4	㉙ モンシロチョウ.....36
第2章 そうか生きもの集合調査について.....6	㉚ アゲハチョウ.....37
第3章 調査指標42種類の解説と分布について.....8	㉛ アオスジアゲハ.....38
① 在来タンポポ.....8	㉜ ナガサキアゲハ.....39
② セイヨウタンポポ.....9	㉝ ツマグロヒョウモン.....40
③ セイタカアワダチソウ.....10	㉞ アカボシゴマダラ.....41
④ カントウヨメナ.....11	㉟ カブトムシ.....42
⑤ キタミソウ.....12	㊱ ニイニイゼミ.....43
⑥ スミレ類.....13	㊲ クマゼミ.....44
⑦ ミゾソバ.....14	㊳ ツクツクボウシ.....45
⑧ イヌタデ.....15	㊴ オオカマキリ.....46
⑨ ツユクサ.....16	㊵ シオカラトンボ.....47
⑩ ヨシ(アシ).....17	㊶ トノサマバッタ.....48
⑪ ハンノキ.....18	㊷ ニホンアマガエル.....49
⑫ エノキ.....19	第4章 調査指標42種以外の生きものリスト50
⑬ クヌギ.....20	1 植物(木本類).....50
⑭ 幹回り2m以上の樹木.....21	2 植物(草本類).....52
⑮ メジロ.....22	3 鳥類.....61
⑯ キジバト.....23	4 昆虫・その他.....63
⑰ コサギ.....24	

第1章 そうか生きもの調査報告書について

1 はじめに

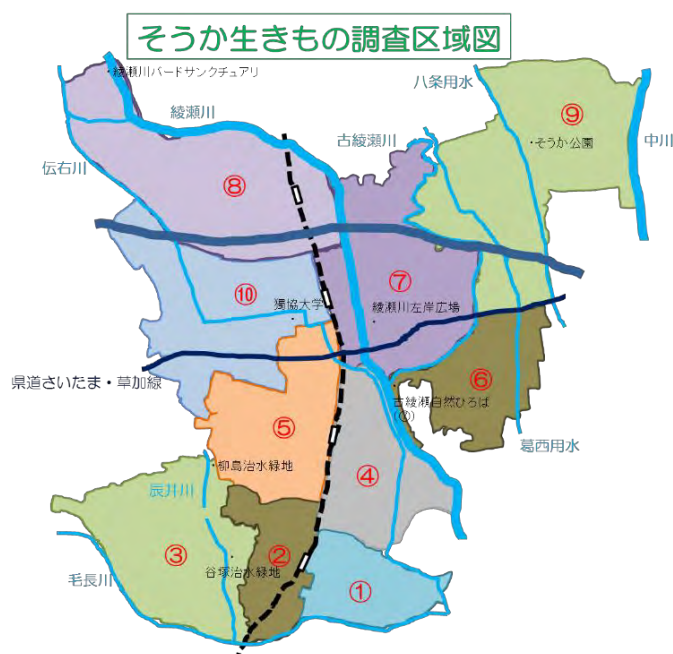
そうか生きもの調査は、草加市の生物多様性保全の取組を進める上での基礎情報を収集するために、平成28年度から市内に生息・生育する動植物について、市民参加による「生きもの調査」を行っています。そうか生きもの調査員に登録した方を中心に、草加市内に生息・生育する動植物について、個別調査又は集合調査に参加していただきました。得られた動植物の情報を草加の生きものデータベースとして蓄積して、今後の生物多様性保全の取組を進める上での基礎情報として活用しています。

本書は、平成28年度～令和2年度までの調査指標42種の報告結果を集計し、まとめています。また、調査指標42種以外の生きものについては、生きものリストを掲載しました。本書を通じて、市内に生息する生きものを知っていただき、身近な自然環境について考えるきっかけとしていただけると幸いです。

2 そうか生きもの調査とは

草加市を10区域に分けて、その区域で確認できた生きものを報告していただきました。この調査では、調査種がどこに「いた、見た、見つけた」かについて調査区域の番号で報告します。

番号	調査区域名称
1	谷塚東部
2	谷塚中央
3	谷塚西部
4	草加東部
5	草加西部
6	草加稲荷
7	新田東部
8	新田西部
9	草加川柳
10	草加安行



図表 1-2-1 そうか生きもの調査区域図及び区域名称

(1) 個別調査

身近な場所で、調査指標42種を中心に探すもので、調べる時間や回数は自由です。月ごとに見つけた生きものと場所を報告書に記入し、提出します。

(2) 集合調査

「そうか生きもの調査会」に参加して、市内の希少生物や野生生物が多く生息する場所で、市民講師と一緒に、生きもの名前や特徴などを学びながら参加者全員で調査を行います。

3 調査報告のまとめ方について

(1) そうか生きもの調査報告書について

そうか生きもの調査報告書には、月ごとに確認できた調査種と発見場所（地域の調査区域番号、発見年月日、具体的な発見場所など）を報告していただきました。また、報告書裏面には調査指標42種以外の生きものについて報告していただきました。

調査指標42種については、調査区域ごとに報告数を集計し、地図上に落とし込みました。平成28年度～令和2年度の報告数を色の濃さで表しています。地図上で報告がなかった区域について、その区域に「調査種がいなかった、確認することができなかった」と厳密に判断することはできませんが、調査指標42種の分布図に近いものとして判断できます。

1 そうか生きもの調査報告書 FAX:048-922-1030

【記入例】 調査日：令和3年4月分

※ 原則、調査種42種の生きものを調査してください。

氏名： 草加 松子

区分	No.	調査種	発見区域	日付	備考	発見区域	日付	備考
植物	1	在来タンポポ						
	2	セイヨウタンポポ						
	3	セイカタデワダチソウ	9	20, 20	そうか公園	10	23	
	4	カントウヨメナ						
	5	キタミソウ						
	6	スミシロ	6, 7	29		6, 7	25	左岸広場
	7	ミソソバ						
	8	イヌタデ						
	9	ツユクサ						
	10	ヨシ(アシ)						
	11	ハンノキ						
	12	エノキ						
	13	クヌギ						
	14	幹周径2m以上の樹木						
鳥	15	メジロ						
	16	キシバト						
	17	コササギ						
	18	カルガモ						
	19	カワセミ						
	20	コウノボ						
	21	ツバメ						
	22	ツバメの巣						
	23	ハクセキレイ						
	24	モズ						
	25	ツグミ						
	26	オオヨシキリ						
	27	シジュウカラ						
28	オナガ							
昆虫・蝶・その他	29	モンシロチョウ						
	30	アゲハチョウ						
	31	アオスジアゲハ						
	32	ナガサキアゲハ						
	33	ツマゲロヒヨウモン						
	34	アカボシゴマダラ						
	35	カブトムシ						
	36	ニイニイゼミ						
37	クマゼミ							
38	ツツクボウシ							
39	オオカマキリ							
40	シオカラトンボ							
41	トノサマバッタ							
42	アマガエル							

※発見区域は、区域図の○数字番号を記入してください。
 ※備考には、詳細な発見場所を記入できる場合は記入してください。
 ※上記以外の生きものを発見した場合は、別紙に記入してください。

2 別紙 そうか生きもの調査報告書 FAX:048-922-1030

【記入例】

★ そうか生きもの調査は、原則、調査種42種の調査をしていただくものですが、調査種以外の生きものを発見した場合に、この用紙を使用してください。

調査日：令和3年4月分

氏名： 草加 松子

【調査種以外の生きもの】

区分	生きもの名	発見区域	日付	備考	発見区域	日付	備考
植物	ハハコグサ	8	22	新築団地			
鳥	オオルリ	9	20	田んぼ			
昆虫・蝶・その他	ナツアカネ	8	22	黒瀬川河川敷			

図 1-3-1 調査報告書（調査指標 42 種及びその他の生きもの）

(2) 調査指標42種について

植物14種・鳥類14種・昆虫その他14種の合計42種です。調査種をA～Dの区分に分け、得られた動植物の情報を草加市の「生きものデータベース」として蓄積し、今後の生物多様性保全の取組を進める上での基礎情報として活用します。

表1-3-1 調査指標42種の区分について

No.	植 物	区分	No.	鳥	区分	No.	昆虫・蝶・その他	区分
1	在来タンポポ	A	15	メジロ	A	29	モンシロチョウ	A
2	セイヨウタンポポ	C	16	キジバト	A	30	アゲハチョウ	A
3	セイタカアワダチソウ	C	17	コサギ	A	31	アオスジアゲハ	A
4	カントウヨメナ	A	18	カルガモ	A	32	ナガサキアゲハ	D
5	キタミソウ	B	19	カワセミ	B	33	ツマグロヒョウモン	D
6	スマレ類	A	20	コゲラ	A	34	アカボシゴマダラ	C
7	ミゾソバ	A	21	ツバメ	A	35	カブトムシ	B
8	イヌタデ	A	22	ツバメの巣	A	36	ニイニイゼミ	A
9	ツユクサ	A	23	ハクセキレイ	A	37	クマゼミ	D
10	ヨシ(アシ)	A	24	モズ	A	38	ツクツクボウシ	A
11	ハンノキ	B	25	ツグミ	A	39	オオカマキリ	A
12	エノキ	A	26	オオヨシキリ	A	40	シオカラトンボ	A
13	クヌギ	A	27	シジュウカラ	A	41	トノサマバッタ	A
14	幹回り2m以上の樹木	B	28	オナガ	A	42	アマガエル	B

※区分について

A：普通に見られるもの

C：外来種（残したくないもの）

B：ぜひ残したいもの（少なくなったもの） D：気候変動により分布域が広がったもの

4 調査結果について

(1) そうか生きもの調査への参加者数について

令和2年度末現在で222名がそうか生きもの調査員に登録していただき、個別調査や集合調査に参加していただきました。

(2) 調査結果の概要

個別調査からの調査指標42種報告数の総数は、7,612件となりました。調査区域別では、草加川柳区域1,398件、新田西部区域1,241件、草加東部区域903件が報告数上位3区域となりました。また、最も報告数の少なかった区域は、谷塚中央区域272件でした。

調査指標42種の中では、キジバトが最多で453件報告されています。全調査種の報告数に占める割合は約6%です。次いで多かったのはハクセキレイで411件（約5%）、3番目はセイヨウタンポポで403件（約5%）でした。

調査指標42種の中で最も報告数の少なかったのは、カブトムシで17件でした。

(3) 総括

今回の調査結果では、キジバトやハクセキレイ、オナガといった鳥類の報告が多くなっています。将来に残したい種としているカワセミの報告数も多く、年度ごとの報告数も増加傾向にあります。植物では、報告数の上位がセイヨウタンポポやセイタカアワダチソウといった外来種となっており、在来タンポポ等の普通に見られる種としていた植物が減少傾向にあります。昆虫では、外来種であるアカボシゴマダラが報告されていますが、減少傾向にあります。

このように、草加市内では都市化が多くの生きものに影響を与えていると考えられます。もともと生きものが住んでいた場所が減少したことによって、報告数が減った生きものもいれば、都市化に適応し報告がされるようになった生きものもいると考えられます。

また、ナガサキアゲハやツマグロヒョウモン、クマゼミについては、年度によって報告数に変動はありますが、地球温暖化等の気候変動による影響を受けていると考えられます。

今後も自然環境が変化していくことが想定される中で、『生物多様性そうか戦略』の基本理念「草加の自然の恵みを次世代に引き継ぐ」ために、市民の皆様とともに取り組んでいきたいと考えています。

表 1-4-1 調査指標 4 2 種区域別報告状況

番号	指標生物名／区域	01_谷塚 東部	02_谷塚 中央	03_谷塚 西部	04_草加 東部	05_草加 西部	06_草加 稻荷	07_新田 東部	08_新田 西部	09_草加 川柳	10_草加 安行	合計
1	在来タンポポ	8	9	10	10	2	6	9	23	13	10	100
2	セイヨウタンポポ	35	23	37	38	24	55	40	52	50	49	403
3	セイトカアワダチソウ	15	16	26	18	7	22	19	43	34	22	222
4	カントウヨメナ	25	3	11	19	3	32	13	38	19	3	166
5	キタミソウ	0	0	0	0	0	0	0	0	25	0	25
6	スマレ類	15	11	9	17	4	16	6	18	32	11	139
7	ミゾソバ	6	6	5	17	9	5	3	17	6	0	74
8	イヌタデ	23	14	21	30	15	26	13	34	27	21	224
9	ツユクサ	31	14	23	23	14	35	18	38	30	27	253
10	ヨシ	18	7	29	16	4	22	10	35	37	12	190
11	ハンノキ	0	1	19	4	0	2	2	15	32	6	81
12	エノキ	1	1	20	19	0	9	4	12	34	3	103
13	クヌギ	0	2	4	12	3	1	3	17	33	7	82
14	幹周り2m以上の樹木	5	4	19	24	3	2	6	6	29	3	101
15	メジロ	28	6	25	31	5	15	11	35	44	22	222
16	キジバト	57	16	41	56	15	53	45	57	56	57	453
17	コサギ	23	2	30	40	5	26	7	49	56	6	244
18	カルガモ	41	8	46	52	15	41	26	57	57	39	382
19	カワセミ	11	1	8	27	5	40	7	49	51	7	206
20	コゲラ	2	1	0	1	0	2	7	28	54	9	104
21	ツバメ	22	10	22	23	10	18	17	31	34	25	212
22	ツバメの巣	20	5	4	23	2	2	22	10	14	18	120
23	ハクセキレイ	47	8	44	51	12	47	40	54	56	52	411
24	モズ	12	2	5	20	4	10	2	41	45	5	146
25	ツグミ	26	6	22	17	4	15	11	28	35	15	179
26	オオヨシキリ	2	1	4	1	1	1	0	19	16	0	45
27	シジュウカラ	51	6	26	44	9	55	25	57	57	50	380
28	オナガ	56	9	38	54	9	50	32	56	55	38	397
29	モンシロチョウ	43	13	34	40	19	37	29	49	46	37	347
30	アゲハチョウ	32	10	22	32	15	33	23	35	35	30	267
31	アオスジアゲハ	22	12	11	29	13	23	18	29	31	23	211
32	ナガサキアゲハ	10	5	7	8	0	4	3	10	18	6	71
33	ツマグロヒョウモン	19	10	9	36	7	25	18	36	31	19	210
34	アカボシゴマダラ	9	4	3	6	1	7	5	28	33	5	101
35	カブトムシ	1	3	1	1	0	0	1	0	9	1	17
36	ニイニイゼミ	11	7	9	13	6	9	9	12	13	11	100
37	クマゼミ	1	3	3	2	0	2	6	5	12	10	44
38	ツクツクボウシ	11	5	7	13	6	13	7	16	18	13	109
39	オオカマキリ	2	3	1	8	8	6	7	22	30	8	95
40	シオカラトンボ	20	3	21	22	10	20	15	26	31	19	187
41	トノサマバッタ	2	2	6	4	10	3	3	19	22	4	75
42	アマガエル	0	0	6	2	2	23	6	35	38	2	114
	合計	763	272	688	903	281	813	548	1241	1398	705	7612

第2章 そうか生きもの集合調査について

市内の希少生物や野生生物が多く生息する場所で、市民講師と一緒に、生きもの
の名前や特徴などを学びながら参加者全員で調査を行いました。集合調査会は毎年度、
谷塚地区のミニ調査会を含む全7回実施しています。平成28年度～令和2年度までに一
般市民の方を含め、累計1,042名の方に参加していただきました。ありがとうございました。

第1回 春の野草を観察しよう

時期：4月

場所：柿木田んぼ

内容：春の野草を中心に観察



第2回 シギ・チドリを観察しよう

時期：5月

場所：柿木田んぼ

内容：シギ・チドリ類を中心に観察



地区別ミニそうか生きもの調査会 谷塚治水緑地周辺を観察しよう

時期：6月

場所：谷塚治水緑地周辺

内容：生物全般を観察



第3回 いろいろな生きもの 見つけてみよう

時期：7月

場所：そうか公園・中川河川敷周辺

内容：生物全般を観察



第4回 いろいろな生きものを見つけてみよう

時期：8月

場所：獨協大学・松原団地記念公園

内容：生物全般を観察、魚類調査も実施



第5回 綾瀬川の野鳥を観察しよう

時期：12月

場所：綾瀬川～バードサンクチュアリ

内容：冬の野鳥を観察



第6回 キタミソウを観察しよう

時期：2月

場所：葛西用水

内容：キタミソウの観察



第3章 調査指標42種類の解説と分布について

① 在来タンポポ キク目キク科



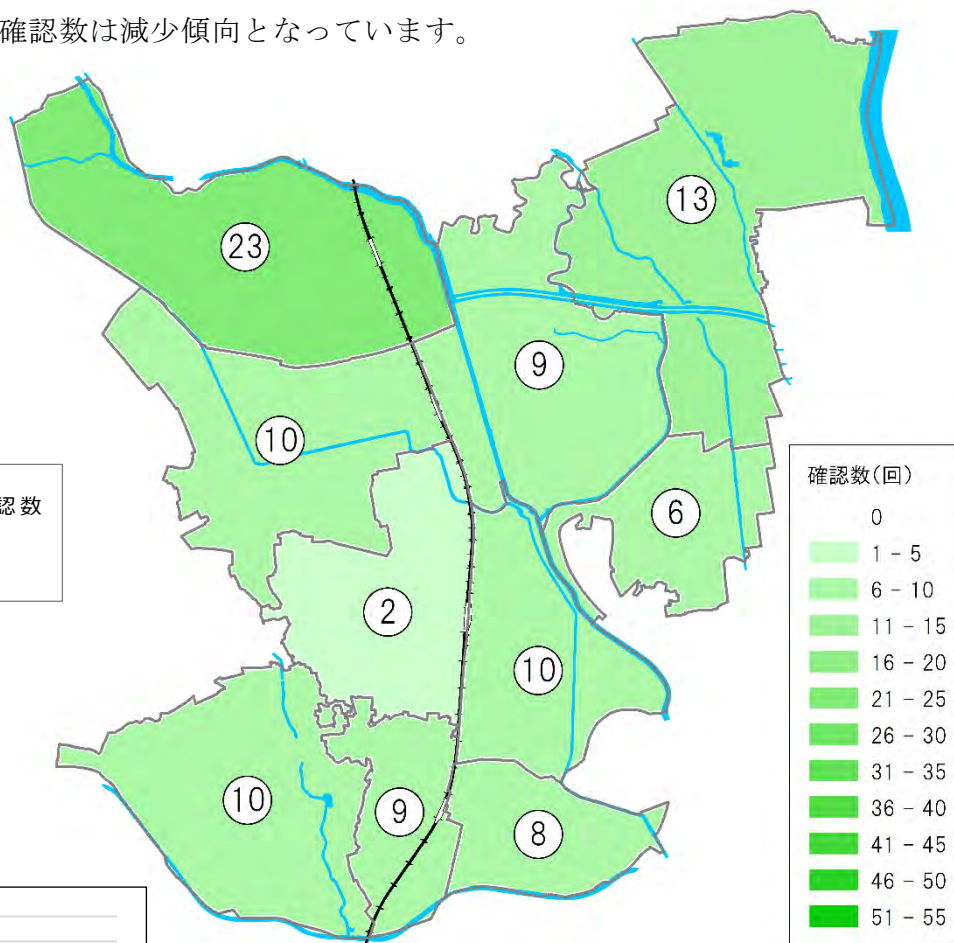
■概要：春に咲き、同じ種類の他の株から花粉をもらい、種子をつくります。日本に古くから自生しています。特徴は、花びらの下の^{がく}のような総苞外片^{がいへん}が完全に直立する点です。これによりセイヨウタンポポと区別ができます。

■観察環境：土手など日当たりの良い所

■開花時期：3～5月

■花の色：黄色または白色

市北部の新田西部や草加川柳地区で多く確認されています。綾瀬川や中川の河川敷で多く確認されているものと推察します。他区域では確認数が10回前後と概ねどの区域でも同程度の確認数となりました。年度ごとの確認数は減少傾向となっています。



※○内の数値は確認数(回)を示します。

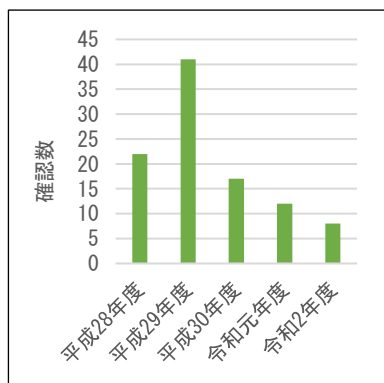


表1-① 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	在来 タンポポ	1	3	1	2	1	8
2		4	4	1	0	0	9
3		2	6	2	0	0	10
4		3	4	1	2	0	10
5		2	0	0	0	0	2
6		1	5	0	0	0	6
7		1	3	4	0	1	9
8		4	9	3	5	2	23
9		3	3	2	2	3	13
10		1	4	3	1	1	10
合計		22	41	17	12	8	100

図1-① 年度別確認数

② セイヨウタンポポ キク目キク科



■概要：ヨーロッパ原産の多年草です。ほとんど一年中見られ、道端などによく咲いているタンポポは、多くがこの種のもので、花びらの下の萼のような総苞外片が反り返るので、在来タンポポと区別できます。

■観察環境：道端など、どこでも

■開花時期：3～10月

■花の色：黄色

在来タンポポと比較すると、確認数は圧倒的に多くなっています。市内のタンポポは外来種であるセイヨウタンポポ及び在来タンポポとの交配種が増加していると考えられます。市内全体的に確認されていますが、特に市北部で多く確認されています。年度ごとの確認数は増加傾向にあります。

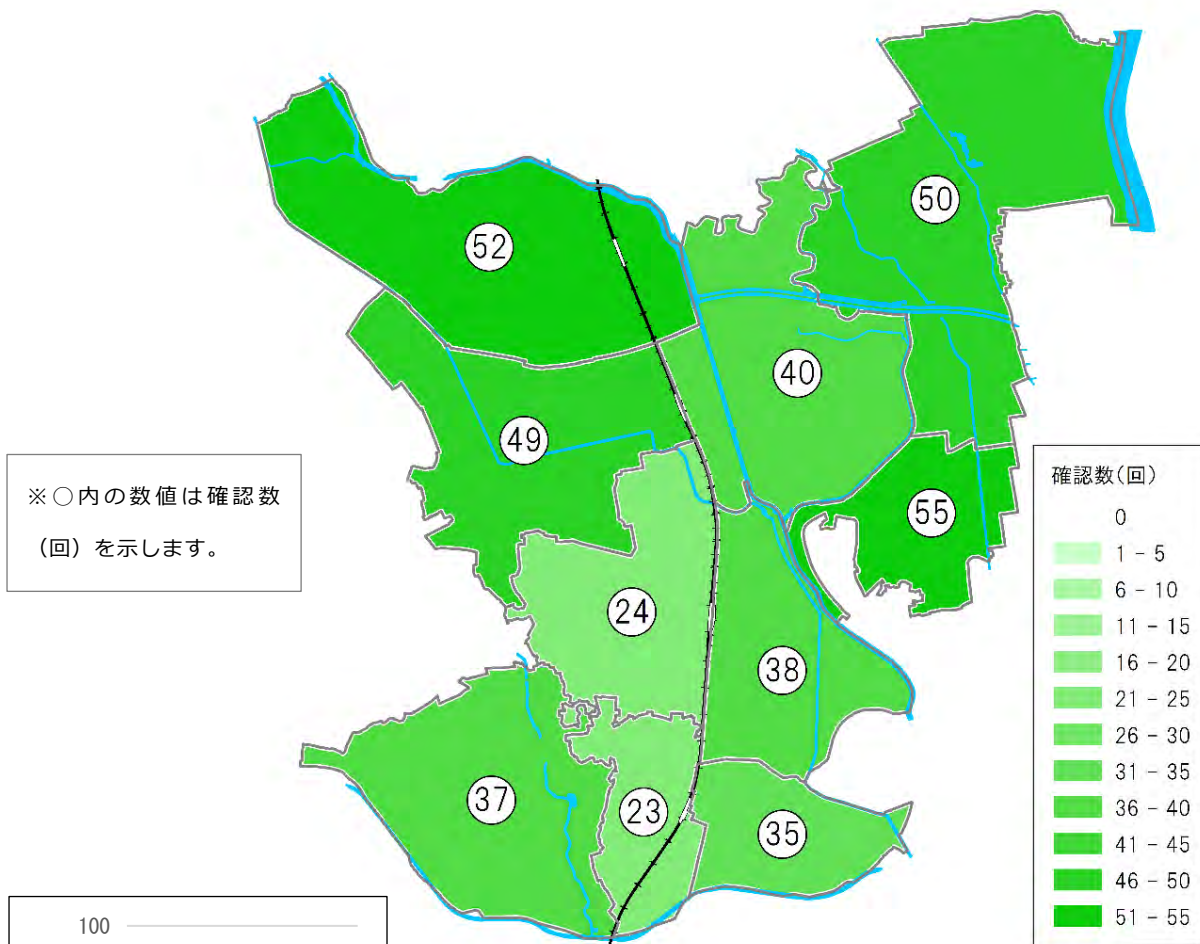


表1-② 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	セイヨウタンポポ	4	5	9	8	9	35
2		7	6	4	1	5	23
3		6	11	8	5	7	37
4		5	8	8	9	8	38
5		3	3	4	5	9	24
6		9	12	10	12	12	55
7		4	12	12	4	8	40
8		9	12	10	11	10	52
9		9	10	11	9	11	50
10		3	11	11	12	12	49
合計		59	90	87	76	91	403

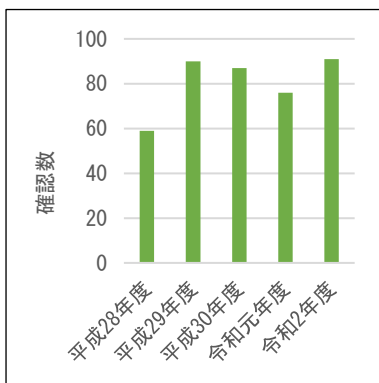


図1-② 年度別確認数

③ セイタカアワダチソウ キク目キク科



■概要：北米原産の外来植物です。川の土手や荒地など、一度破壊された土地に群生し、地下茎を伸ばして増えます。繁殖力が高く、草刈りがされていない土地などに良く見られます。

■観察環境：土手や荒地など

■開花時期：10～11月

■花の色：黄色

市北部の新田西部や草加川柳地区で多く確認されています。セイタカアワダチソウは、河川敷で群落を作ることがあるため、綾瀬川や中川河川敷で多数確認されたものと推察します。年度ごとの確認数は減少傾向にありますが、令和2年度ではやや増加しています。

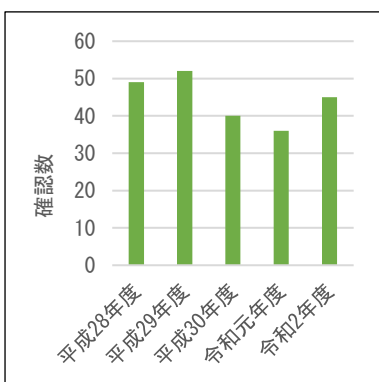
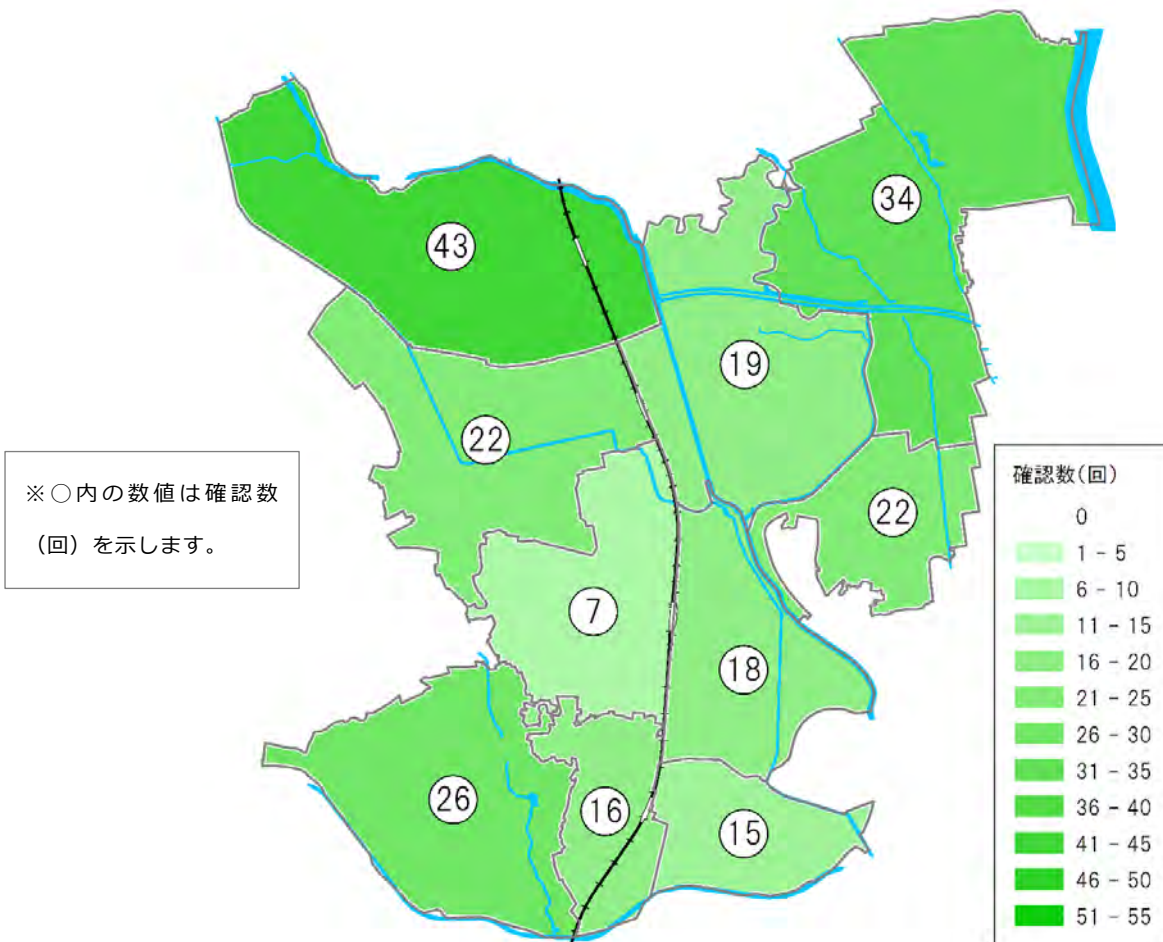


表1-③ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	セイタカアワダチソウ	4	3	3	3	2	15
2		5	3	3	0	5	16
3		6	9	7	2	2	26
4		6	4	3	1	4	18
5		1	0	0	3	3	7
6		5	5	5	4	3	22
7		3	4	5	4	3	19
8		9	10	4	10	10	43
9		9	10	5	4	6	34
10		1	4	5	5	7	22
合計		49	52	40	36	45	222

図1-③ 年度別確認数

④ カントウヨメナ キク目キク科



■概要：地下茎を伸ばして増え、茎の上部で枝分かれした花柄の先に直径3cmほどの花をつける多年草です。^{わかなつみ}若菜摘で有名なヨメナは中部地方以西に分布しますが、このカントウヨメナも“ヨメナ”と呼んで摘まれます。

■観察環境：田んぼや畔^{あぜ}や川べりなどの湿地

■開花時期：8～11月

■花の色：淡青紫色

新田西部地区等の市北部や東部で多く確認されていますが、市西部の草加西部や谷塚中央地区ではあまり確認されていません。これは市街化区域であること及び河川等の湿地環境が少ないことが理由であると推察されます。年度ごとの確認数は減少傾向となっています。

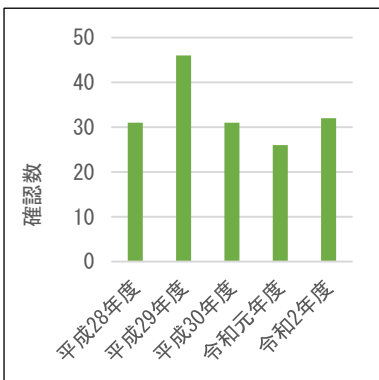
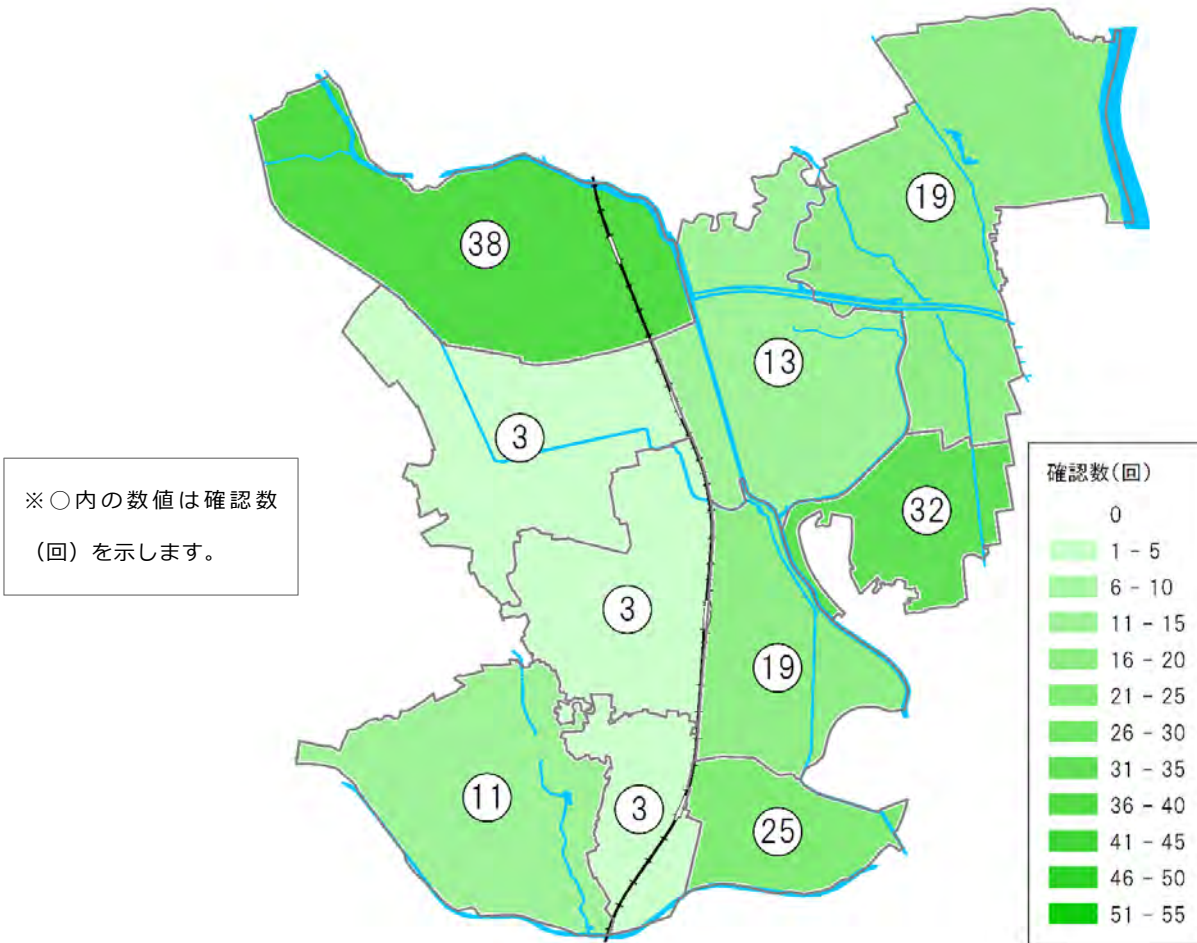


図1-④ 年度別確認数

表1-④ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	カントウヨメナ	5	6	5	4	5	25
2		0	1	1	0	1	3
3		3	5	2	0	1	11
4		4	5	5	3	2	19
5		1	2	0	0	0	3
6		5	7	5	7	8	32
7		1	6	4	0	2	13
8		6	10	7	8	7	38
9		5	3	2	4	5	19
10		1	1	0	0	1	3
合計		31	46	31	26	32	166

⑤ キタミソウ シソ目オオバコ科



■概要：埼玉レッドデータ絶滅危惧1B類、埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例による指定種^{せき}になっています。堰の上流や用水の脇など湿り気があり、冬季には水がなくなり、夏場は冠水する特殊な場所を好んで生育します。草加市内では、葛西用水だけに生育しています。

■観察環境：葛西用水

■開花時期：10～12月、3～4月

■花の色：白色

本市におけるキタミソウは、葛西用水沿いの一部のみで自生していることから、草加川柳地区のみで確認されています。年度ごとの確認数は、やや減少傾向となっていることから、他部局と連携して、引き続き保全に努めてまいります。

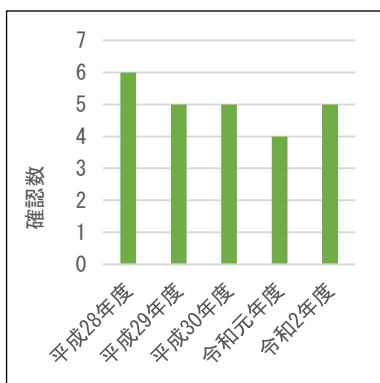
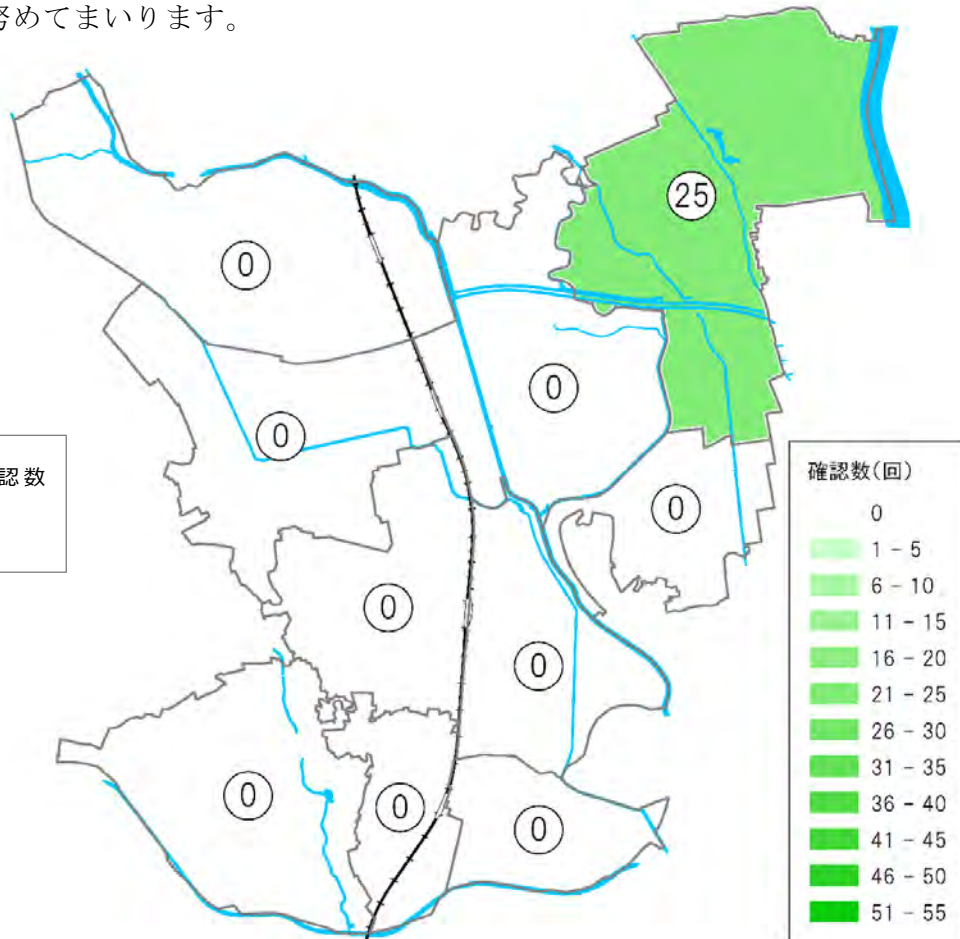


表1-⑤ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	キタミソウ	0	0	0	0	0	0
2		0	0	0	0	0	0
3		0	0	0	0	0	0
4		0	0	0	0	0	0
5		0	0	0	0	0	0
6		0	0	0	0	0	0
7		0	0	0	0	0	0
8		0	0	0	0	0	0
9		6	5	5	4	5	25
10		0	0	0	0	0	0
合計		6	5	5	4	5	25

図1-⑤ 年度別確認数

⑥ スミレ類 キントラノオ目スミレ科



■概要：明るい雑木林のふち、人間が草を短く刈っている土手や田畑の畔^{あぜ}などに生えることが多い植物です。根は茶色、茎はごく短く、葉は根もとに固まって生えます。葉柄の上部にひれのような翼があり、花の側弁の基に白い毛があります。

■観察環境：土手や田畑の畔など

■開花時期：4～5月

■花の色：濃紫色、薄紫色、白色

田畑が残る柿木地区や河川が流れる区域での確認数が多くなっています。一方で、草加西部区域や新田東部区域内の河川の流れていない区域や市街化区域では、確認数が少なくなっています。年度ごとの確認数は減少傾向となっています。

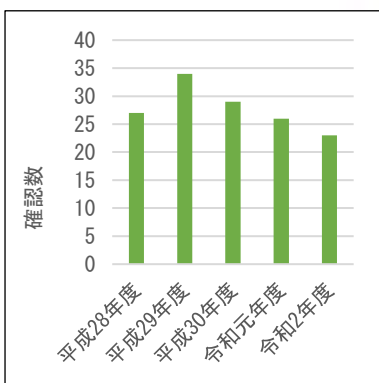
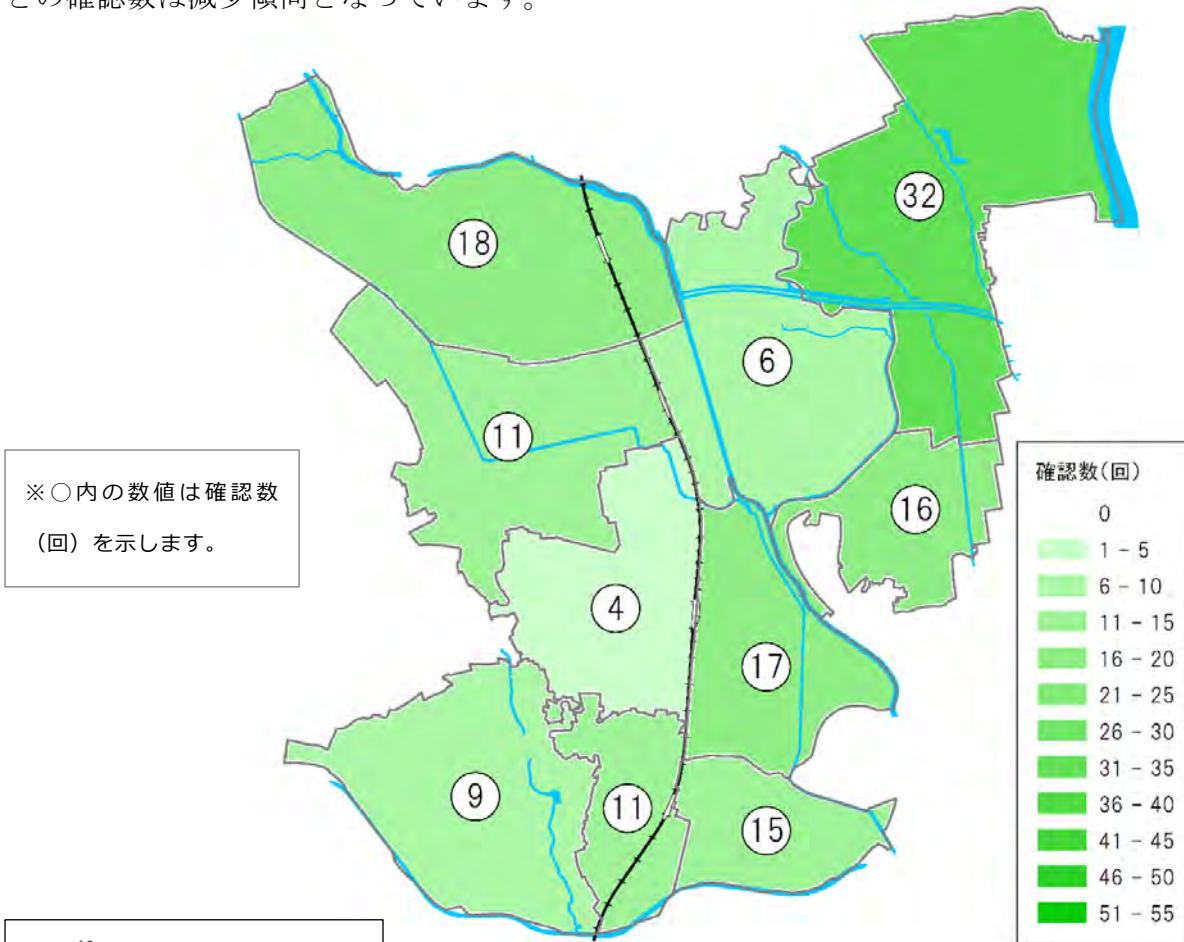


図1-⑥ 年度別確認数

表1-⑥ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	スミレ類	4	3	2	3	3	15
2		4	6	1	0	0	11
3		3	2	3	0	1	9
4		2	5	4	4	2	17
5		0	1	0	2	1	4
6		3	2	3	5	3	16
7		0	1	1	1	3	6
8		4	4	4	3	3	18
9		5	9	8	5	5	32
10		2	1	3	3	2	11
合計		27	34	29	26	23	139

⑦ ミゾソバ ナデシコ目タデ科



■概要：花びらは5つに分かれ、枝先に10数個集まってつき、ソバの花に似ています。茎には下向きの刺があり、下部は地面をはい、多数枝分かれして密生します。葉は長さ4～10cmの卵状ほこ形で先が鋭くとがっています。

■観察環境：田の畔や水辺など、湿った所に群生

■開花時期：7～10月

■花の色：淡紅色、白色

全体的に確認数は少なく、草加安行区域では確認されていません。年度ごとの確認数も減少傾向にあります。草加東部や新田西部区域での確認数が最も多く、他区域は都市化の進行によって減少していると考えられます。

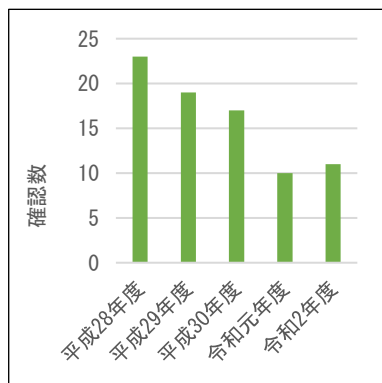
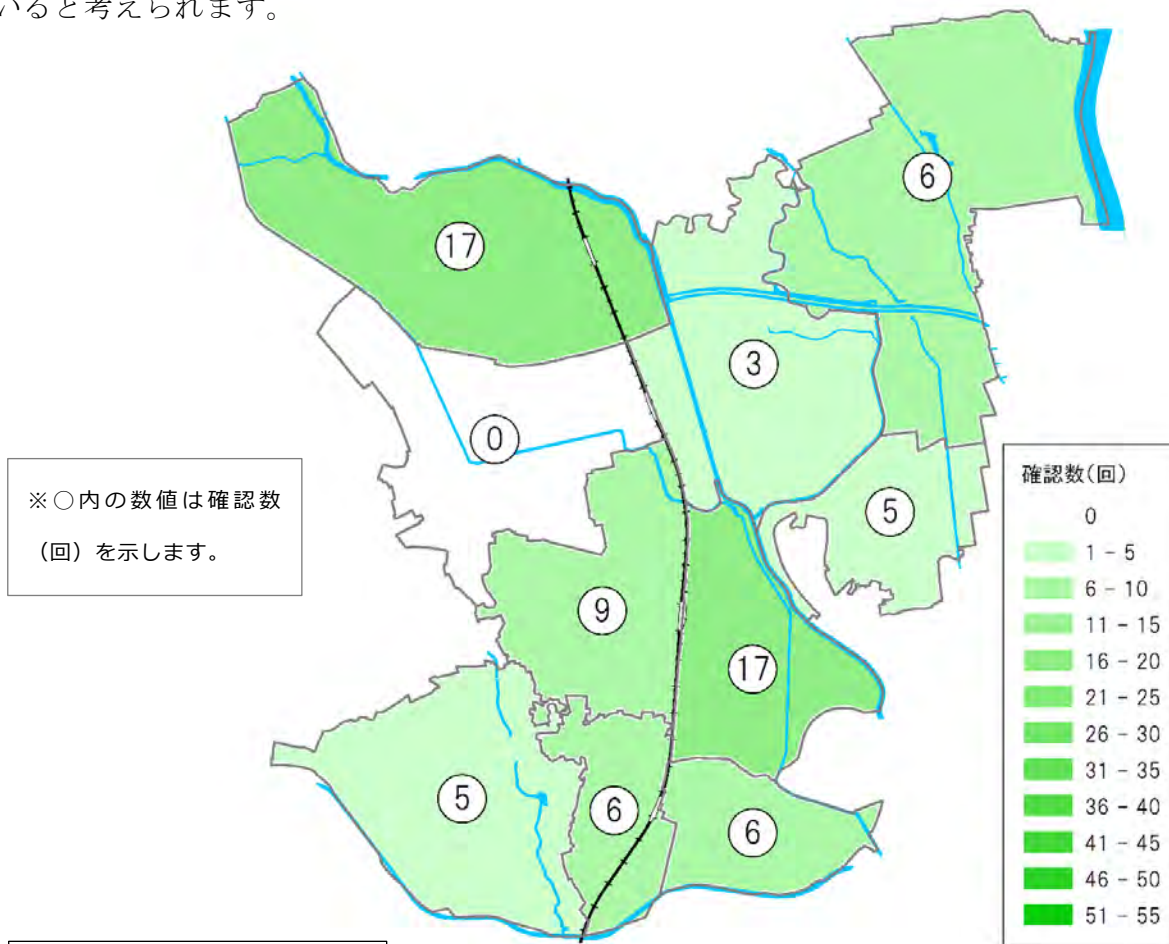


図1-⑦ 年度別確認数

表1-⑦ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	ミゾソバ	0	3	0	0	3	6
2		2	2	2	0	0	6
3		1	2	2	0	0	5
4		2	3	6	5	1	17
5		0	3	4	2	0	9
6		3	1	0	0	1	5
7		0	0	1	0	2	3
8		5	3	2	3	4	17
9		5	1	0	0	0	6
10		5	1	0	0	0	6
合計		23	19	17	10	11	80

⑧ イヌタデ ナデシコ目タデ科



■概要：葉は、^{ごせい}互生で葉の両端がとがり、葉先に向かってだんだん細くなります。茎の基部は横にはい、まっすぐか斜めに傾いて伸び、多く枝分かれして小さな集団を作ります。

■観察環境：野原や道端、畑など

■開花時期：6～11月

■花の色：紅紫色

市内全体で確認されていますが、新田西部や草加東部区域での確認数が最も多くなっています。年度ごとの確認数については、やや減少傾向となっています。

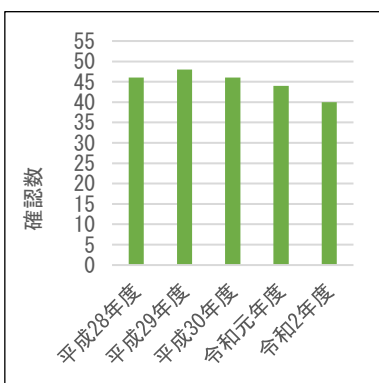
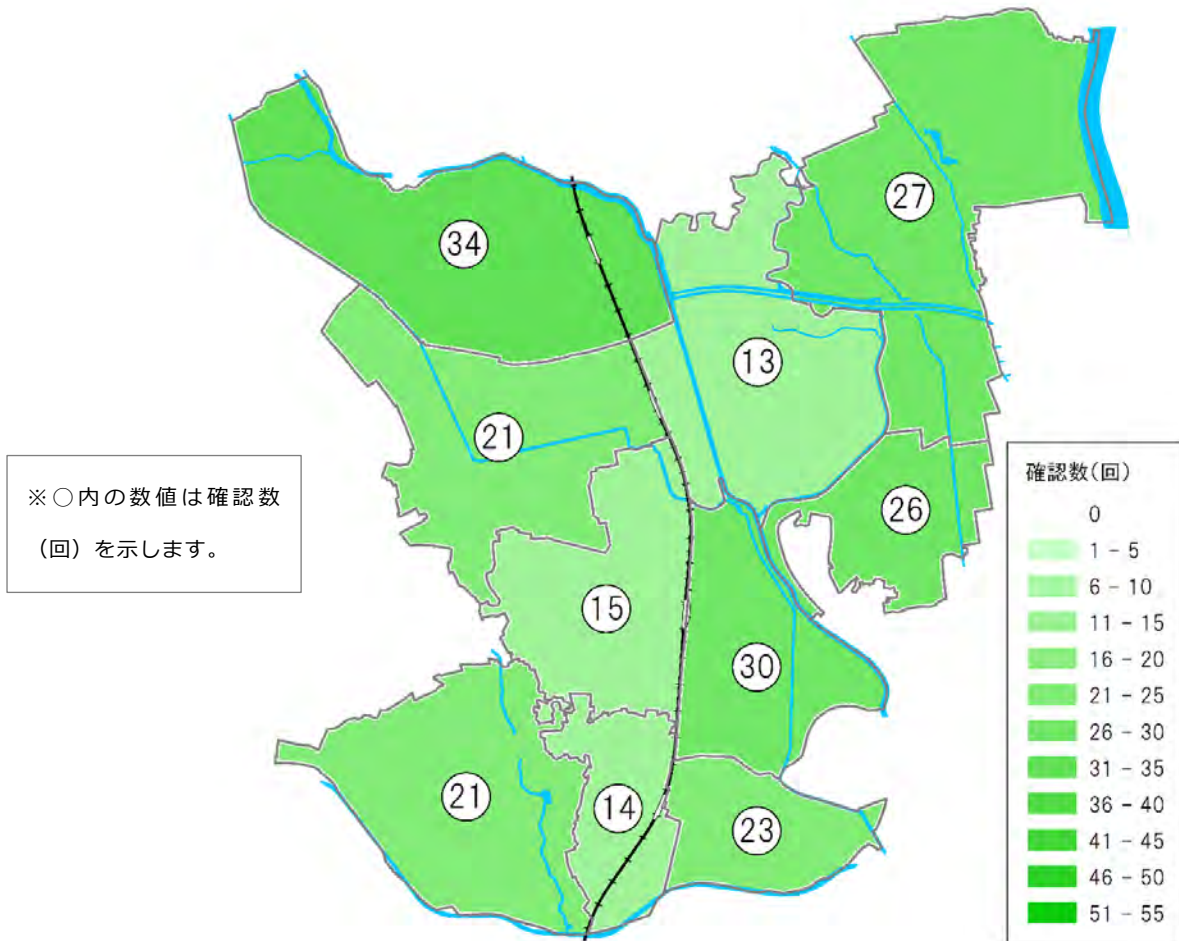


図1-⑧ 年度別確認数

表1-⑧ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	イヌタデ	5	4	5	4	5	23
2		6	3	2	0	3	14
3		5	7	6	1	2	21
4		6	7	6	7	4	30
5		3	5	2	1	4	15
6		5	7	4	6	4	26
7		2	2	4	4	1	13
8		6	7	8	8	5	34
9		7	2	3	7	8	27
10		1	4	6	6	4	21
合計		46	48	46	44	40	224

⑨ ツユクサ ツユクサ目ツユクサ科



■概要：道端、草地、畑地などに生える一年草です。平地に群生します。茎は地をはい、良く分枝し、上部は斜上して高さ30～50cmになります。葉は互生し、長さ5～8cm、幅1～3cmの卵状披針形です。基部は膜質の鞘があります。

■観察環境：道端や草地、畑など

■開花時期：6～9月

■花の色：青色

新田西部や草加稲荷区域など市の北部および東部での確認数が多くなっていますが、草加西部及び谷塚中央区域での確認数は多くありませんでした。年度ごとの確認数はほぼ横ばいとなっています。

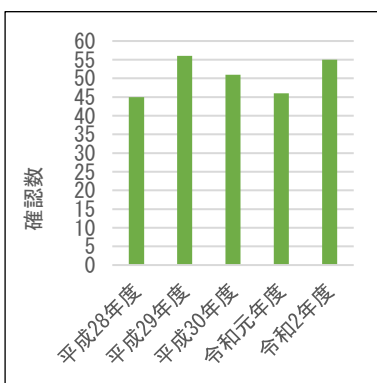
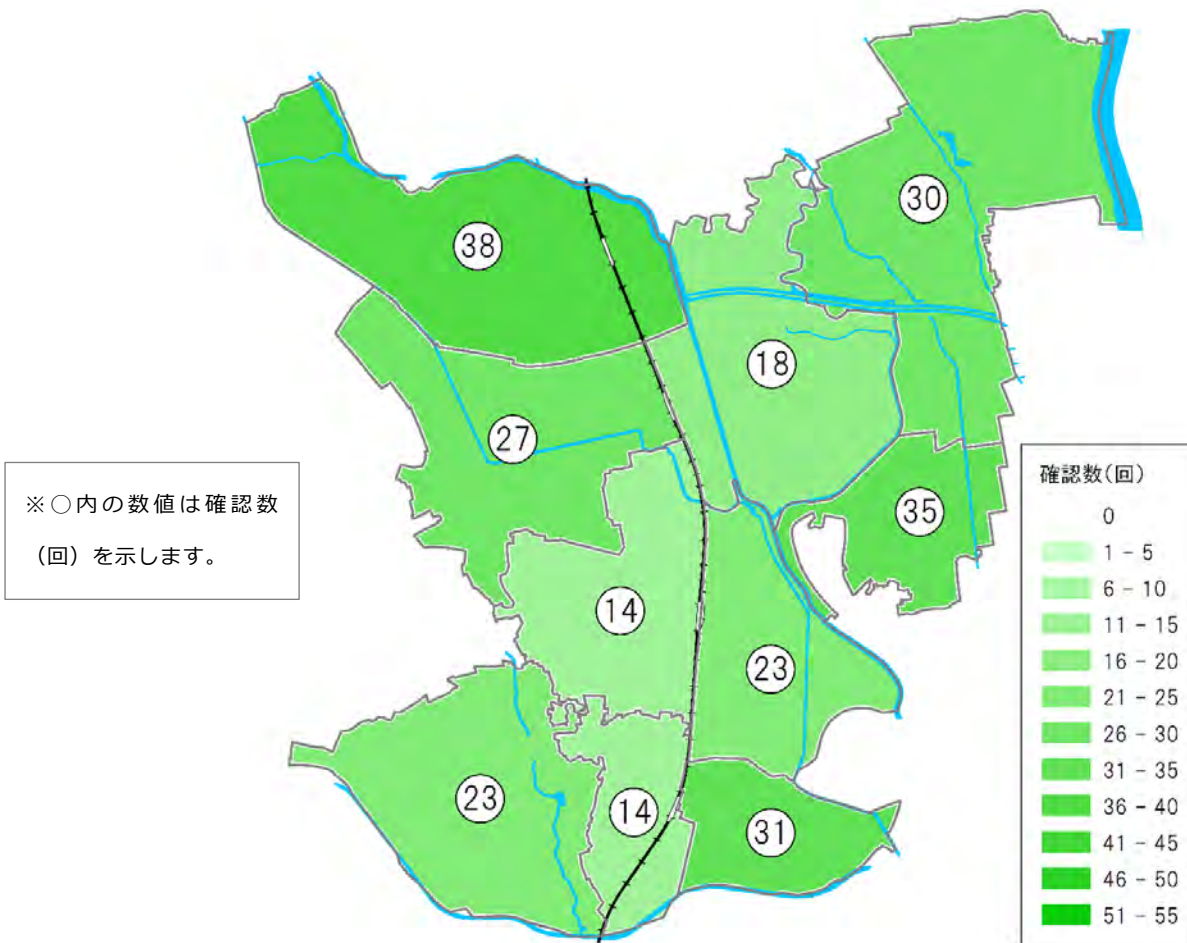


表1-⑨ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	ツユクサ	5	7	7	6	6	31
2		5	4	2	0	3	14
3		6	6	4	2	5	23
4		4	4	5	5	5	23
5		3	3	2	1	5	14
6		5	8	7	7	8	35
7		2	5	5	3	3	18
8		6	9	7	9	7	38
9		5	6	6	6	7	30
10		4	4	6	7	6	27
合計		45	58	51	46	55	253

図1-⑨ 年度別確認数

⑩ ヨシ（アシ） イネ目イネ科



■概要：世界各地の沼、川岸に大群落をつくります。茎は太くて固く、茎はヨシズになります。葉は2列に互生し、長さは20～50cm、幅は2～4cmの線形で、先端は垂れています。

■観察環境：池や沼、川岸など

■開花時期：8～10月

■花の色：20～40cmの円錐状で、淡紫色の小穂をつけます

新田西部や草加川柳区域のほか、河川が流れる区域での確認数が多くなっています。草加西部及び谷塚中央区域での確認数が最も少なくなっています。年度ごとの確認数は減少傾向となっています。

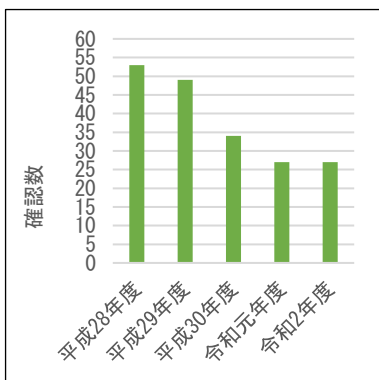
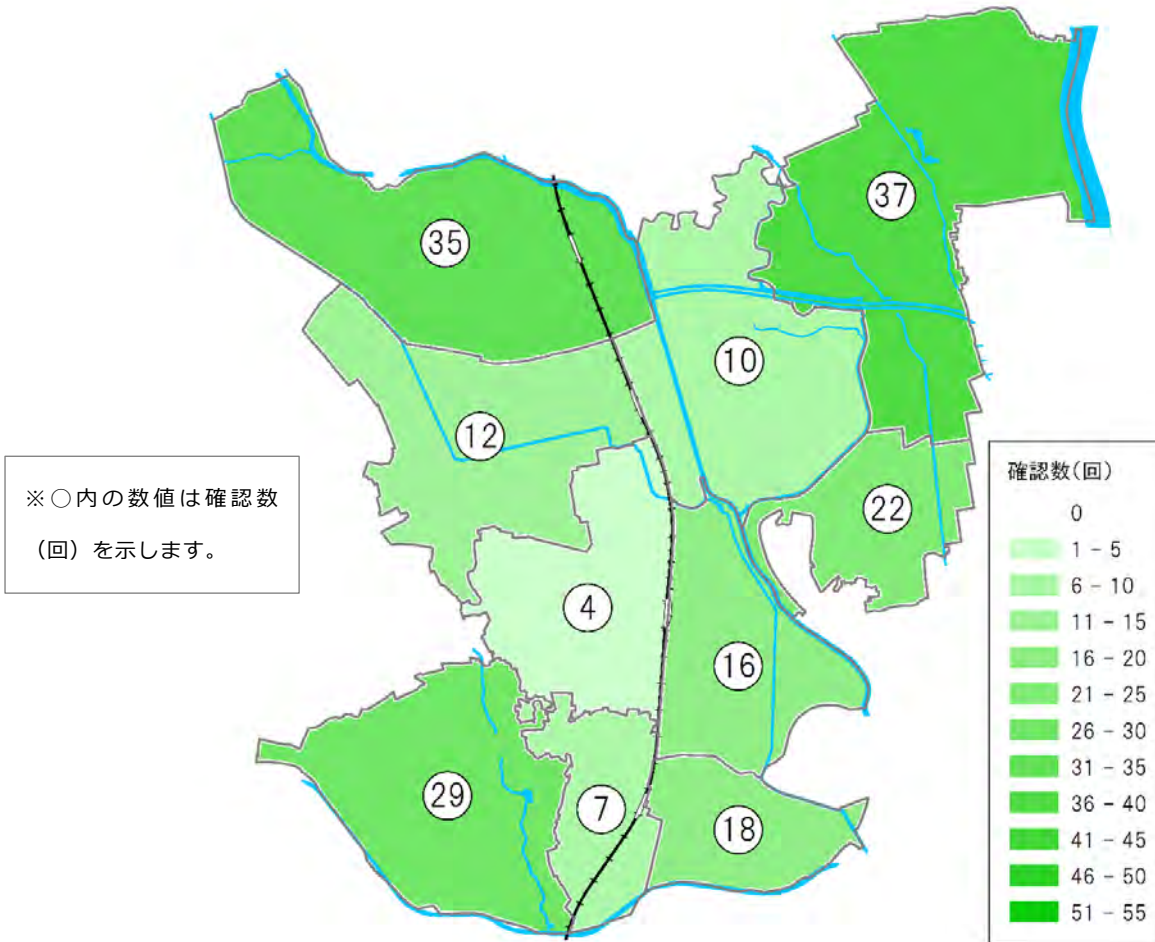


表1-⑩ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	ヨシ(アシ)	5	5	4	1	3	18
2		6	0	0	0	1	7
3		9	10	6	0	4	29
4		4	6	2	2	2	16
5		1	1	0	1	1	4
6		5	4	4	5	4	22
7		4	2	2	1	1	10
8		9	8	5	8	5	35
9		9	11	8	6	3	37
10		1	2	3	3	3	12
合計		53	49	34	27	27	190

図1-⑩ 年度別確認数

⑪ ハンノキ ブナ目カバノキ科



■概要：高さ15～20mの落葉樹です。花は2～3月、葉の出る前に開き、^{おすかじよ}雄花序は枝先に2～5個つき、尾状に垂れています。樹皮は暗灰褐色で、不規則に浅く裂けてはがれます。葉は^{ごせい}互生し、長さ5～13cmの^{ちようだえん}長楕円状卵形で、ふちには浅い^{きよし}鋸齒があります。県の蝶であるミドリシジミの幼虫が葉を食べます。

■観察環境：川辺や低地の湿ったところなど

■実の時期：10月

■実の特徴：1.5～2cmの松ぼっくり状

草加川柳区域での確認数が最も多く、次いで谷塚西部、新田西部区域となっています。草加西部や谷塚東部区域での確認はなく、市街化区域での確認数は少なくなっています。年度ごとの確認数は、減少傾向となっており、新規植樹は少ないものと推察されます。

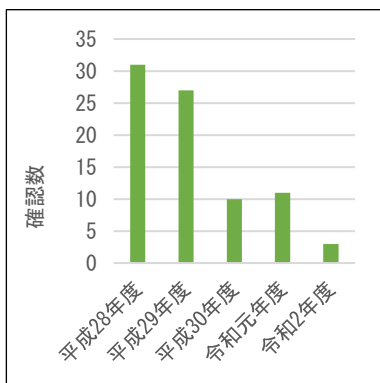
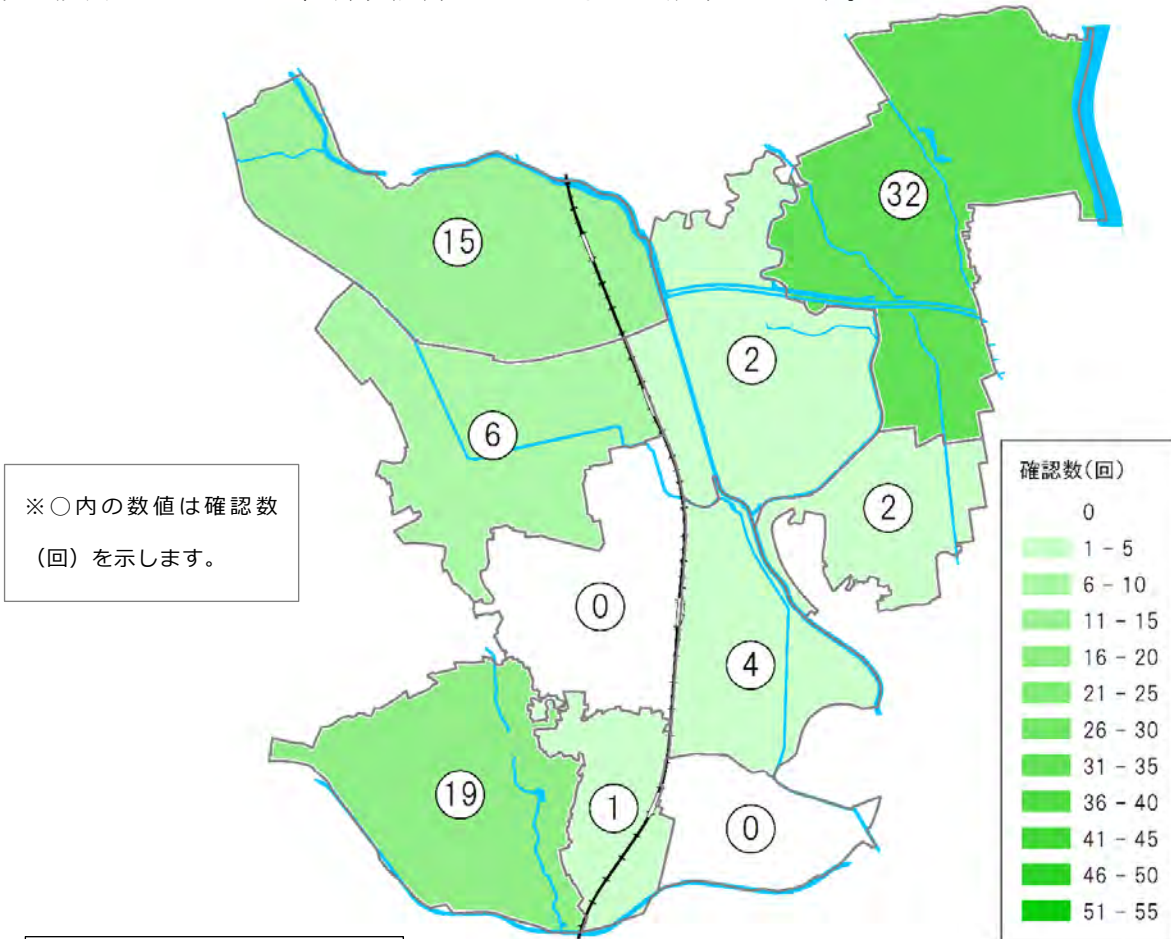


表1-⑪ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	ハンノキ	0	0	0	0	0	0
2		1	0	0	0	1	2
3		9	9	1	0	0	19
4		1	0	3	0	0	4
5		0	0	0	0	0	0
6		2	0	0	0	0	2
7		0	1	1	0	0	2
8		9	2	0	4	0	15
9		8	12	5	6	1	32
10		1	3	0	1	1	6
合計		31	27	10	11	3	82

図1-⑪ 年度別確認数

⑫ エノキ バラ目アサ科



■概要：高さ20mの落葉樹です。樹皮は厚く灰黒褐色です。葉は互生し、長さ4～9cmの卵形又は長楕円形で、先は尾状にのびています。先端まで葉脈が発達しておらず、丸みを帯びています。オオムラサキやゴマダラチョウの幼虫が葉を食べます。

■観察環境：道路、社寺の境内、山地など

■実の時期：10月

■実の特徴：直径5～6mmの球形

草加川柳区域での確認数が最も多く、次いで谷塚西部、草加東部区域となっています。草加西部区域での確認はなく、市街化区域での確認数は少なくなっています。年度ごとの確認数は、減少傾向となっており、ハンノキと同様に新規植樹は少ないものと推察されます。

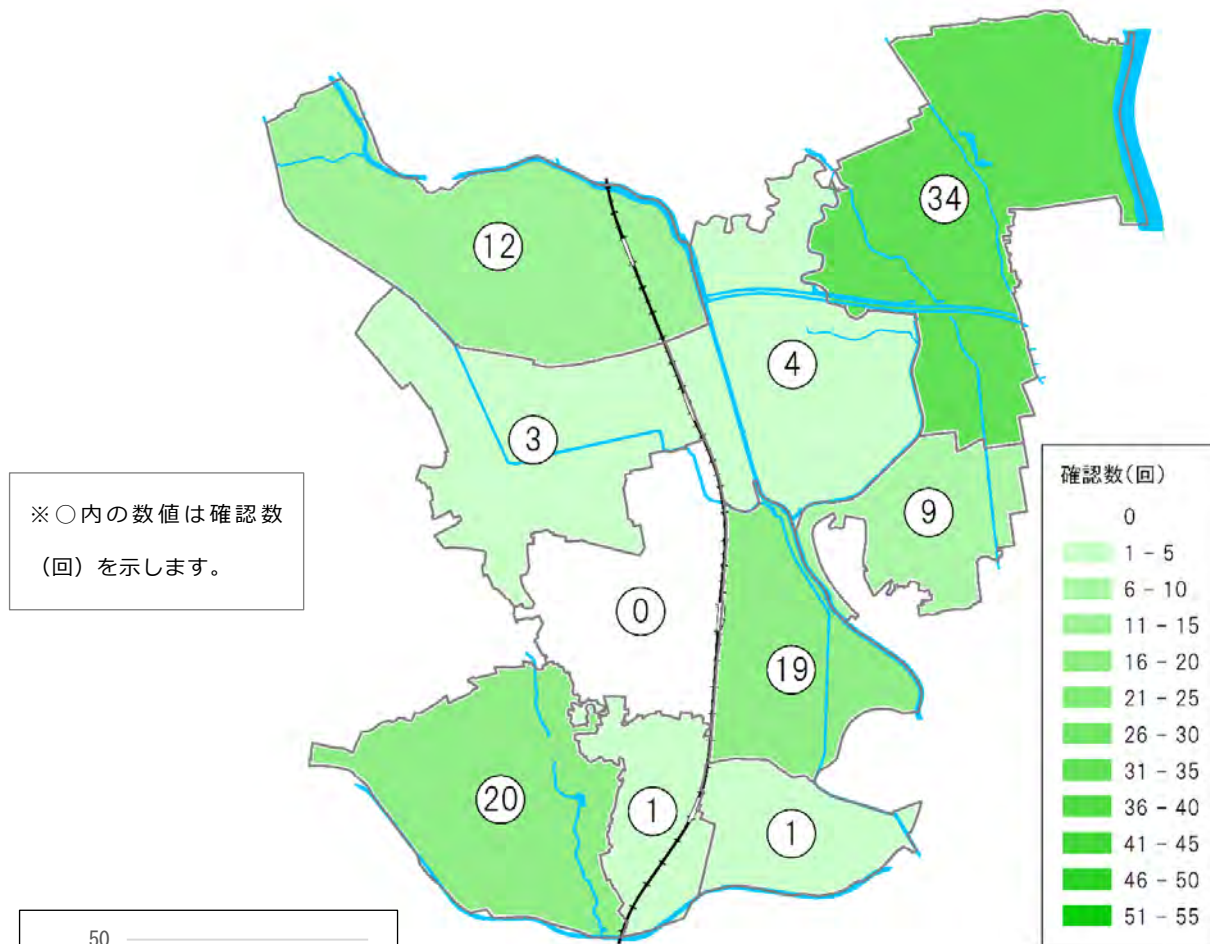


表1-⑫ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	エノキ	1	0	0	0	0	1
2		1	0	0	0	0	1
3		9	9	2	0	0	20
4		7	5	5	0	2	19
5		0	0	0	0	0	0
6		6	1	1	0	1	9
7		1	2	1	0	0	4
8		9	2	1	0	0	12
9		9	12	6	6	1	34
10		1	2	0	0	0	3
合計		44	33	16	6	4	103

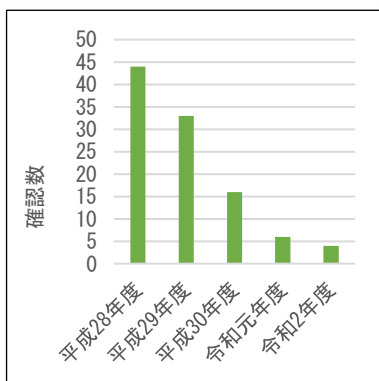


図1-⑫ 年度別確認数

⑬ クヌギ ブナ目ブナ科



■概要：高さ10～15mの落葉樹です。樹皮は灰褐色で厚く、縦に不規則な裂け目があります。ここから出る樹液に、多くの昆虫たちが集まります。葉は互生し、長さ7～15cmの長楕円状披針形です。鋸歯があり、先端は針状になります。4～5月ごろ、枝の下部から黄褐色の7～8cmの雄花序が垂れています。

■観察環境：低い山地など

■実の時期：10月

■実の特徴：直径1.5～2cmの球形。いわゆるドングリ。

草加川柳区域での確認数が最も多く、次いで新田西部区域となっています。谷塚東部区域での確認はなく、市街化区域での確認数は少なくなっています。年度ごとの確認数は、減少傾向となっており、ハンノキと同様に新規植樹は少ないものと推察されます。

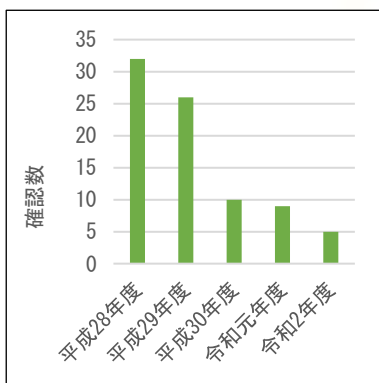
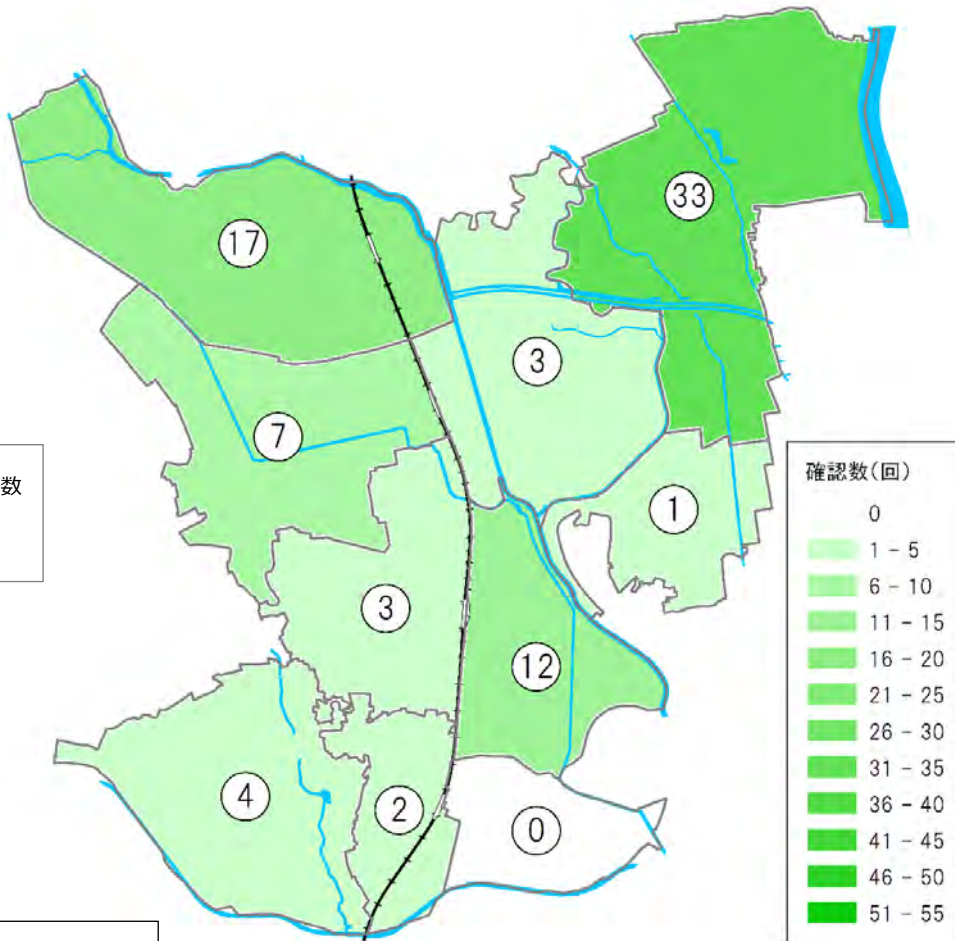


表1-⑬ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	クヌギ	0	0	0	0	0	0
2		2	0	0	0	0	2
3		3	1	0	0	0	4
4		5	5	1	0	1	12
5		3	0	0	0	0	3
6		0	1	0	0	0	1
7		1	2	0	0	0	3
8		9	2	2	2	2	17
9		8	12	6	6	1	33
10		1	3	1	1	1	7
合計		32	26	10	9	5	82

図1-⑬ 年度別確認数

⑭ 幹回り2m以上の樹木



■概要：長い時を経て育まれた巨木は、良好な景観の形成や野生動物の生息環境、地域のシンボルとして人々の心のよりどころとなるなど、保全すべき自然として重要なものです。

そうか生きもの調査では、原則として地上から1.3mの高さで、幹周り2m（直径64cm）以上の樹木を対象にして調査を行いました。

古くから残る屋敷林や社寺林などの樹木が大木となることが多いと考えられます。また、近年では公園や街路樹へ植栽される場合もあります。これらの樹木、樹林は生きものにとって貴重な環境となっています。引き続き生物多様性に配慮し、樹木の保全に努めてまいります。

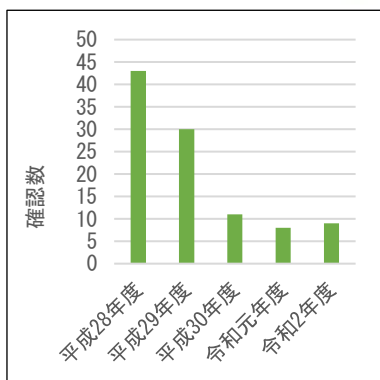
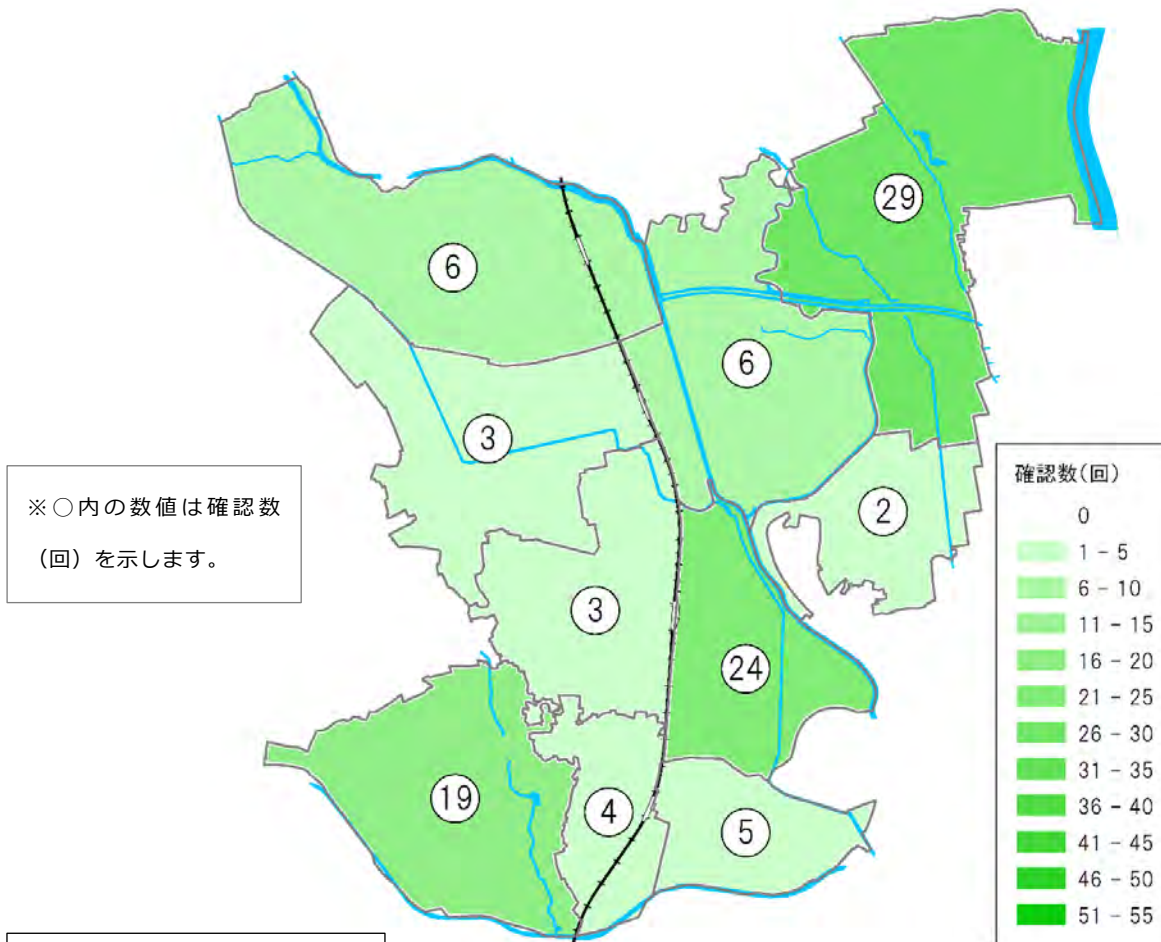


表1-⑭ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	幹回り2m以上の樹木	2	2	0	0	1	5
2		3	1	0	0	0	4
3		9	9	1	0	0	19
4		8	7	3	1	5	24
5		3	0	0	0	0	3
6		1	0	0	0	1	2
7		4	0	1	0	1	6
8		5	0	0	1	0	6
9		6	10	6	6	1	29
10		2	1	0	0	0	3
合計		43	30	11	8	9	101

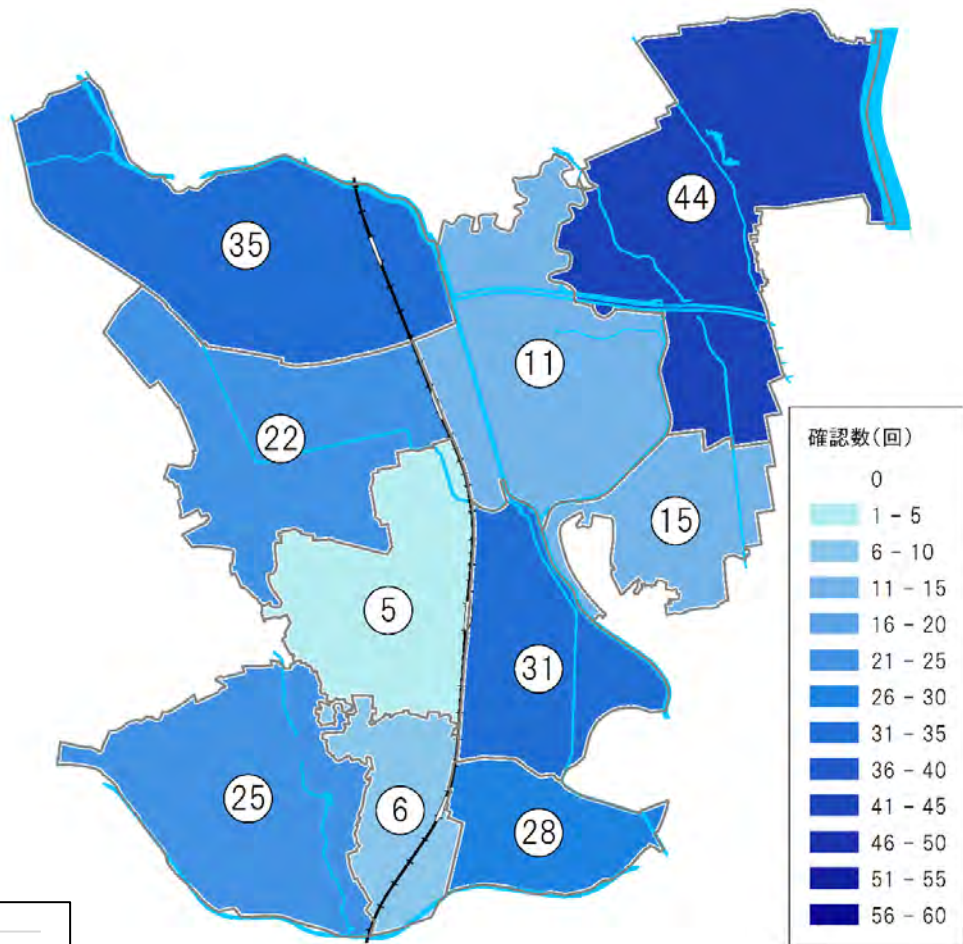
図1-⑭ 年度別確認数

⑮ メジロ スズメ目メジロ科



- 概要：緑がかった背と目の周りの白い輪が特徴です。
非繁殖期ひはんしよくきは山地から平地に移動し、群れで行動することが多いです。繁殖期はつがい^{つがい}で分散し、2羽で鳴き交わしながら花から花へと飛び回る様子がよく観察されます。市街地の緑地のある公園や庭でもよく見かけます。
- 観察環境：市街地の公園や庭の木でもよく見かけられます
- 観察時期：留鳥なので一年中見られます
- 鳴き声：チィチィ

市北部の草加川柳地区で最も多く確認されています。同様に市北部の新田西部でも多く確認されているほか、南部の草加東部や谷塚東部地区でも多く確認されています。しかし、年度ごとの確認数は減少傾向にあります。



※○内の数値は確認数(回)を示します。

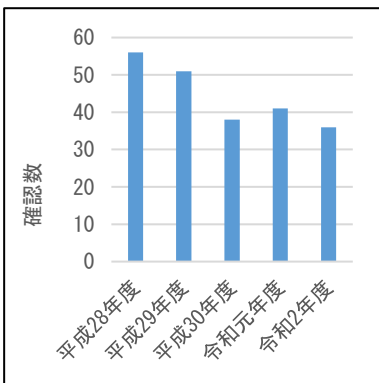


表2-⑮ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	メジロ	7	6	5	5	5	28
2		4	1	1	0	0	6
3		7	9	3	3	3	25
4		6	8	5	6	6	31
5		4	1	0	0	0	5
6		5	3	1	4	2	15
7		2	1	3	4	1	11
8		7	8	7	7	6	35
9		8	9	10	9	8	44
10		6	5	3	3	5	22
合計		56	51	38	41	36	222

図2-⑮ 年度別確認数

①⑥ キジバト ハト目ハト科



■概要：ドバトより少し小さく背中が灰褐色、頭から胸腹にかけては淡い褐色をしています。首の横には灰青色のしま模様があります。「ヤマバト」とも呼ばれています。低い山地や林にすんでいます。近年は市街地の公園や庭でもよく見かけます。

■観察環境：低い山地のほか、市街地の公園や庭など

■観察時期：留鳥なので一年中見られます

■鳴き声：ゼゼッポポー、ゼゼッポポー

市内全体的に確認されていますが、草加西部及び谷塚中央区域での確認数は、他の区域と比較して半分以下となりました。また、年度ごとの確認数は横ばいとなっています。

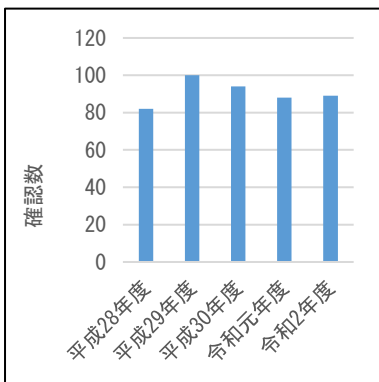
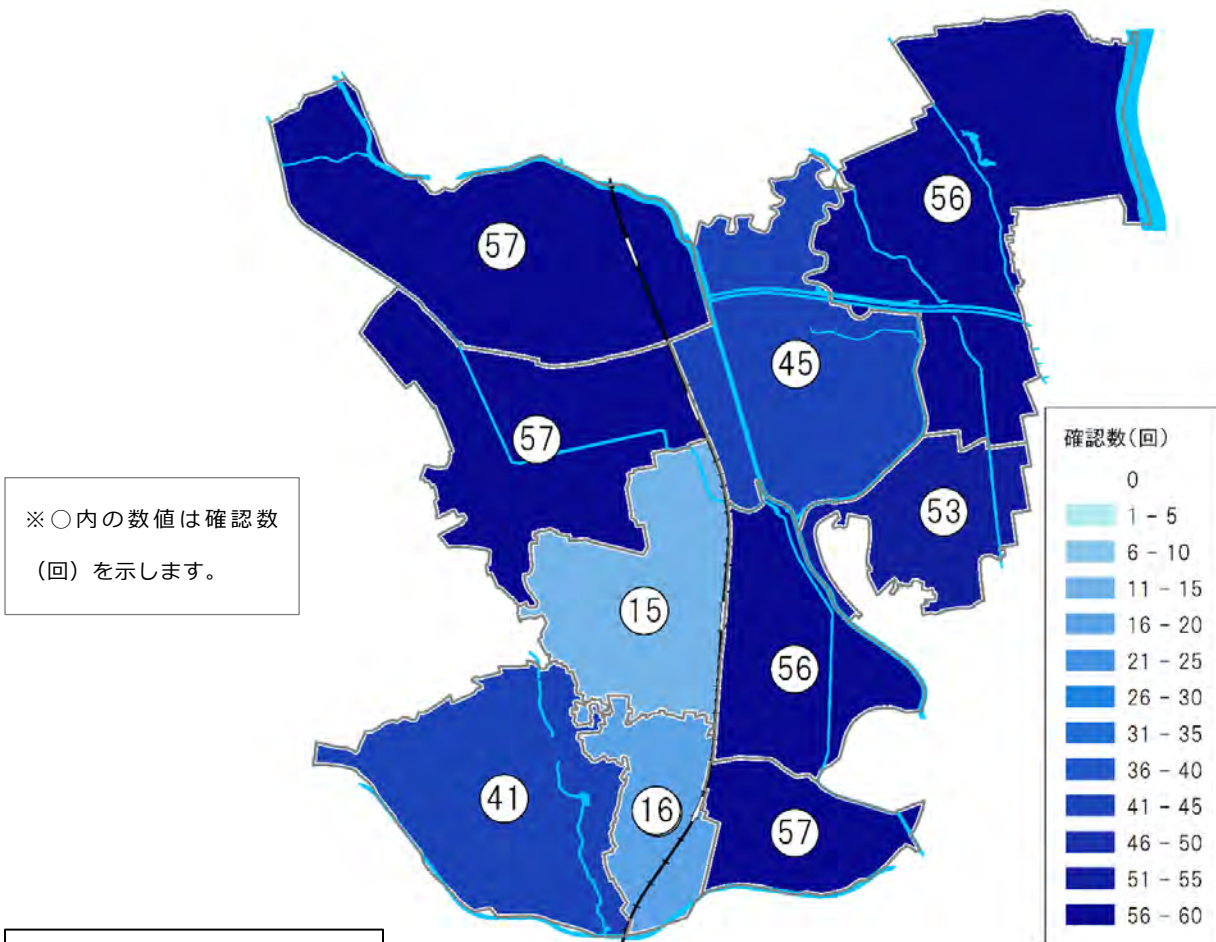


表2-①⑥ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	キジバト	9	12	12	12	12	57
2		6	4	4	1	1	16
3		8	12	8	6	7	41
4		9	12	12	12	11	56
5		5	3	3	2	2	15
6		9	12	11	11	10	53
7		9	9	9	8	10	45
8		9	12	12	12	12	57
9		9	12	11	12	12	56
10		9	12	12	12	12	57
合計		82	100	94	88	89	453

図2-①⑥ 年度別確認数

⑰ コサギ ペリカン目サギ科



- 概要：体の全体が白色でくちばしは黒、目先は黄色、足は黒で指は黄色です。夏には、頭部に2本の冠羽^{かんう}、背中にカール状の飾り羽を持っています。水田や池沼、湿地、河川などに生息し、林に集団で営巣^{えいそう}し繁殖します。
- 観察環境：水田や池沼、湿地、河川など
- 観察時期：留鳥なので一年中見られます
- 鳴き声：グワァ、グワァ

市北部の新田西部や草加川柳地区で多く確認されています。そのほか、河川や湿地の多い草加東部や谷塚西部区域でも多く確認されています。年度ごとの確認数はほぼ横ばいとなっています。

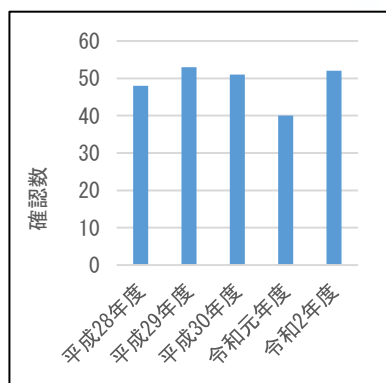
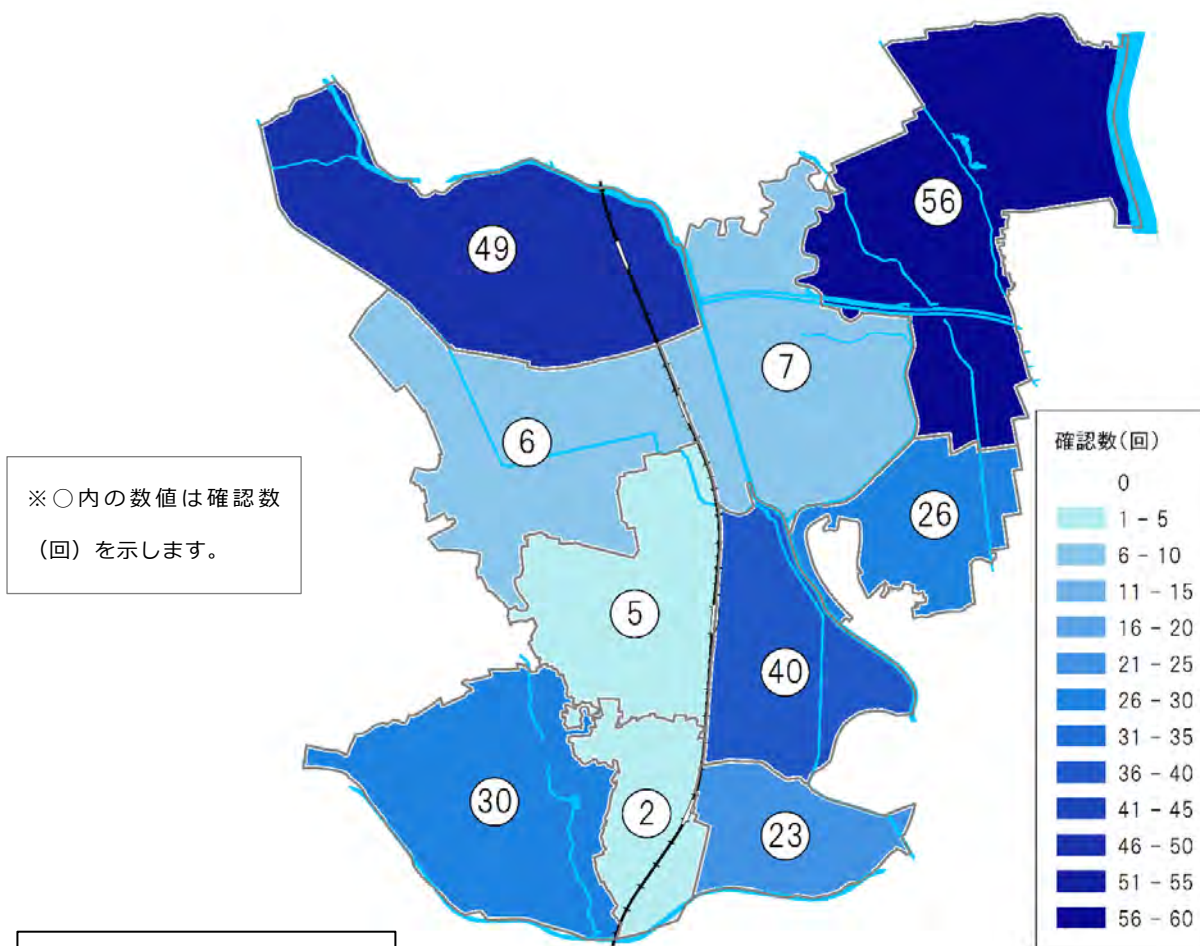


表2-⑰ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	コサギ	6	1	5	3	8	23
2		1	1	0	0	0	2
3		5	10	9	0	6	30
4		9	11	5	7	8	40
5		0	1	0	1	3	5
6		6	5	6	5	4	26
7		3	1	1	1	1	7
8		9	11	9	10	10	49
9		9	12	11	12	12	56
10		0	0	5	1	0	6
合計		48	53	51	40	52	244

図2-⑰ 年度別確認数

⑱ カルガモ カモ目カモ科



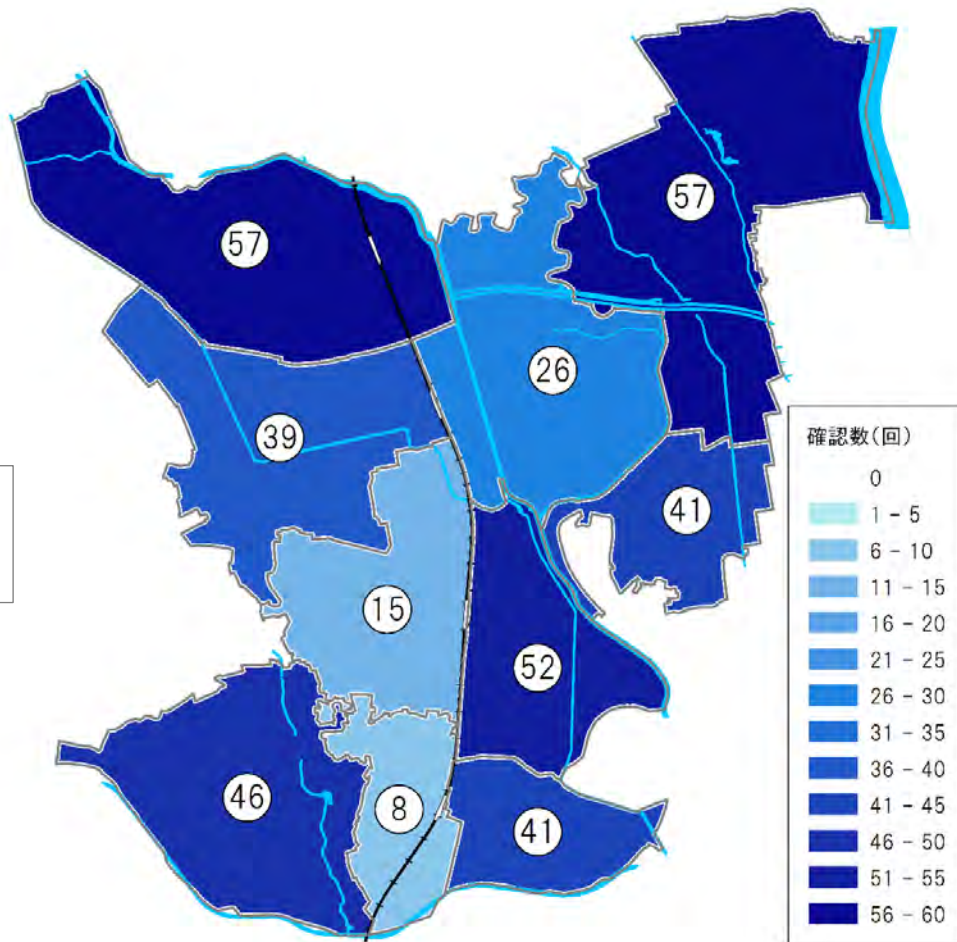
■ 概要：足は鮮やかなオレンジ色をしています。全体にこっかっしょく黒褐色で頭は白っぽく、顔には2本の黒褐色の線があります。くちばしは黒色で先端部が黄色、オスとメスが同じ色です。

■ 観察環境：河川や水田、湿地など

■ 観察時期：留鳥なので一年中見られます

■ 鳴き声：グェッ、グェッ

市内全体的に確認されており、新田西部と草加川柳区域で最多となっています。一方で、草加西部及び谷塚中央区域での確認数は、他の区域と比較して半分以下となりました。また、年度ごとの確認数は減少傾向となっています。



※○内の数値は確認数(回)を示します。

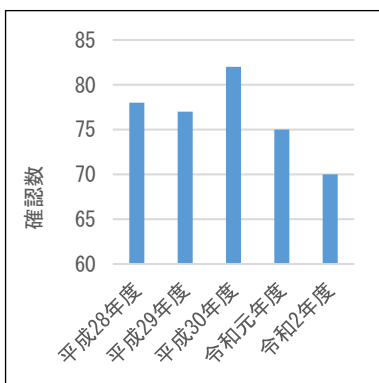


表2-⑱ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	カルガモ	7	6	10	8	10	41
2		6	0	2	0	0	8
3		9	12	11	7	7	46
4		9	12	10	11	10	52
5		6	2	1	5	1	15
6		9	9	8	7	8	41
7		9	5	6	3	3	26
8		9	12	12	12	12	57
9		9	12	12	12	12	57
10		5	7	10	10	7	39
合計		78	77	82	75	70	382

図2-⑱ 年度別確認数

⑱ カワセミ ブッポウソウ目カワセミ科



■概要：くちばしが長い分、スズメより大きく見えます。翼は金属光沢のある緑色、背中コバルトブルー、正面から見ると胸から腹のオレンジ色が目立ちます。水辺にすみ、ダイビングして小魚を獲ります。低空を一直線に飛びます。

■観察環境：河川や沼池などの水辺

■観察時期：留鳥なので一年中見られます

■鳴き声：チー

市北部区域や草加稲荷区域での確認数が多くなっています。最も確認数が少なかったのは谷塚中央区域でした。年度ごとの確認数にばらつきはありますが、やや減少傾向となっています。

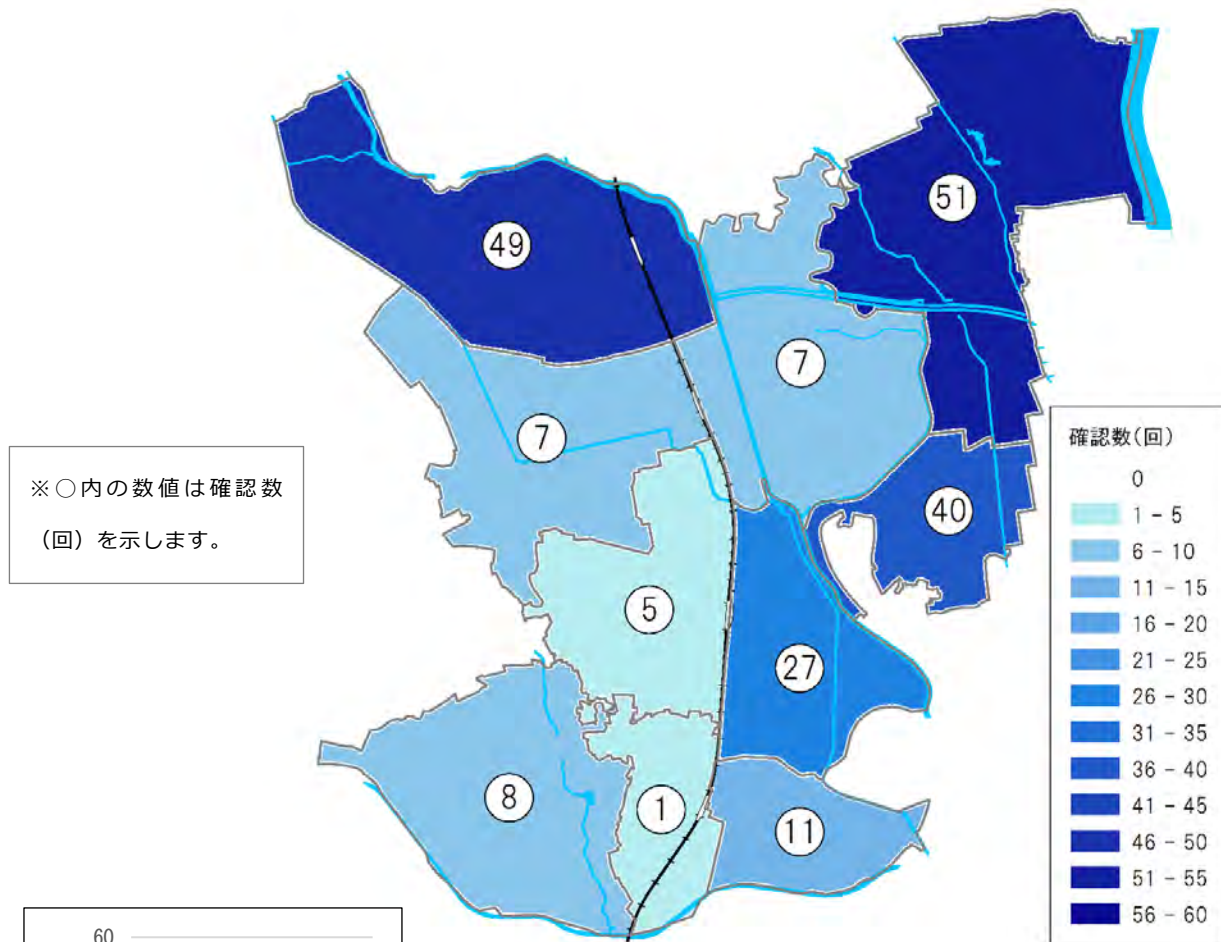


表2-⑱ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	カワセミ	2	3	3	0	3	11
2		1	0	0	0	0	1
3		1	1	3	0	3	8
4		7	8	4	1	7	27
5		2	1	0	0	2	5
6		8	11	8	7	6	40
7		2	3	1	1	0	7
8		9	10	10	11	9	49
9		9	12	10	10	10	51
10		1	2	0	2	2	7
合計		42	51	39	32	42	206

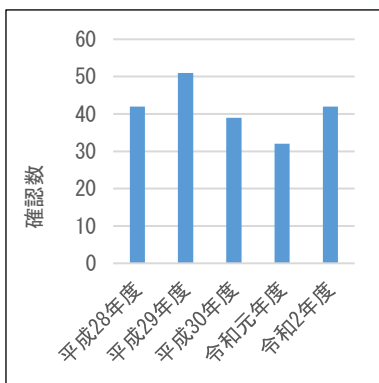


図2-⑱ 年度別確認数

⑳ コゲラ キツッキ目キツッキ科



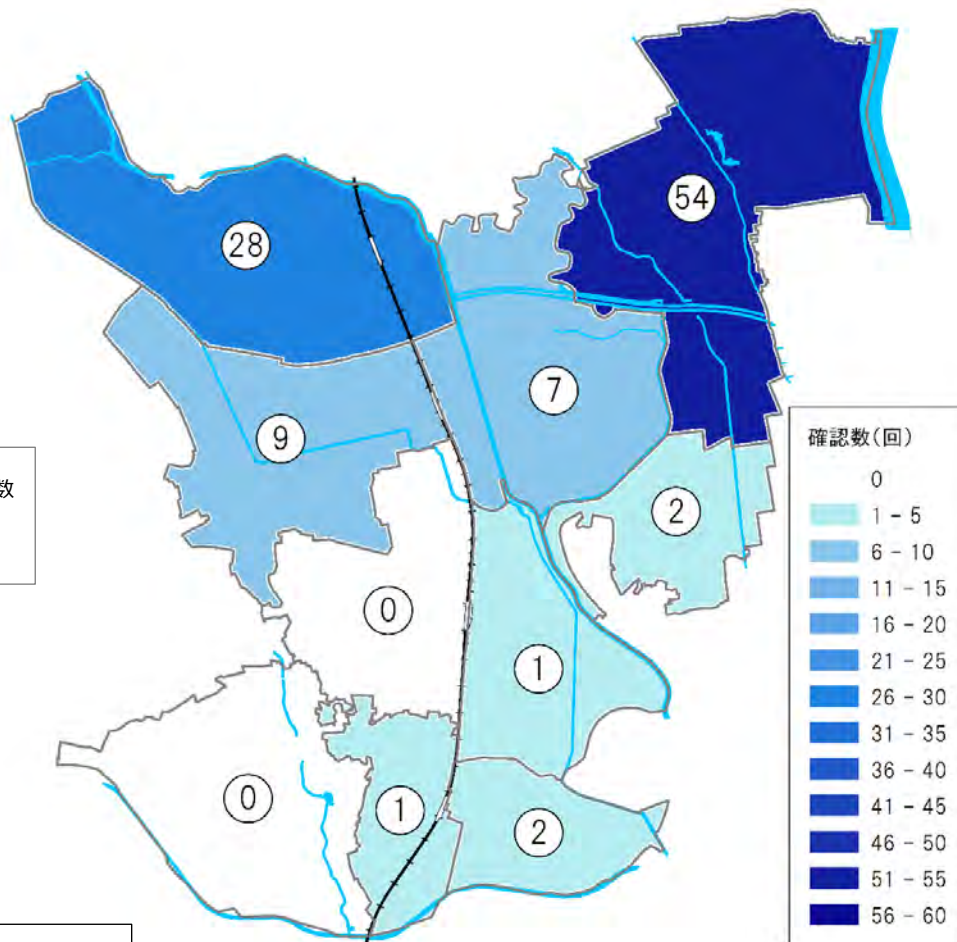
■概要：一番小さなキツッキの仲間で、スズメくらいの大きさです。背は黒褐色と白の横じま模様です。くちばしで木を強く連続して叩いて音を出すドラミングも行います。繁殖期にはキーキッキキッと鋭く鳴きます。枯れ木に穴を掘って営巣しますが、近年、市街地でもその例が増えています。

■観察環境：低山地のほか、市街地の公園等でも見られます

■観察時期：留鳥なので一年中見られます

■鳴き声：ギー、ギー

市北部の新田西部及び草加川柳区域以外の調査区域ではほとんど確認されませんでした。市街地での公園でも観察できますが、確認数は少ない結果となりました。年度ごとの確認数は減少傾向となっています。



※○内の数値は確認数(回)を示します。

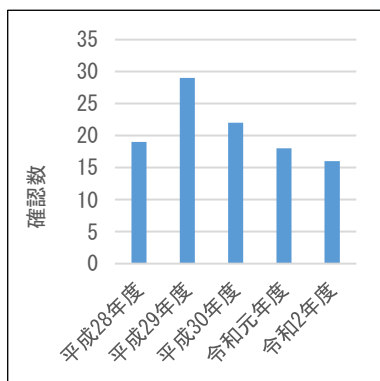


表2-⑳ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	コゲラ	0	1	1	0	0	2
2		1	0	0	0	0	1
3		0	0	0	0	0	0
4		0	1	0	0	0	1
5		0	0	0	0	0	0
6		1	1	0	0	0	2
7		0	3	3	1	0	7
8		6	9	5	3	5	28
9		9	12	10	12	11	54
10		2	2	3	2	0	9
合計		19	29	22	18	16	104

図2-⑳ 年度別確認数

⑳ ツバメ スズメ目ツバメ科



■概要：頭と背中^{ひたい}は黒色、^{のど}額と咽は赤褐色、尾は2本に分かれている燕尾型^{えんびけい}が特徴です。飛んでいる虫を空中で捕らえる姿をよく見ます。人家の軒下^{のきした}に土と枯れ草で巣をつくります。ねぐらは河原のヨシ原等です。

■観察環境：住宅地や草地など。

■観察時期：夏鳥（3～10月）

■鳴き声：ピチュピチチュピチュピリリリ

市北部での確認数が多くなっていますが、市内全体的に確認されています。草地だけでなく、住宅地や駅などの施設に巣をつくっているからであると推察されます。年度ごとの確認数はやや増加傾向となっています。

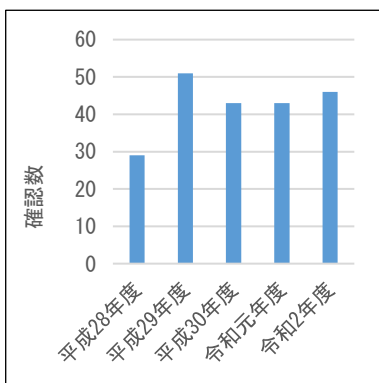
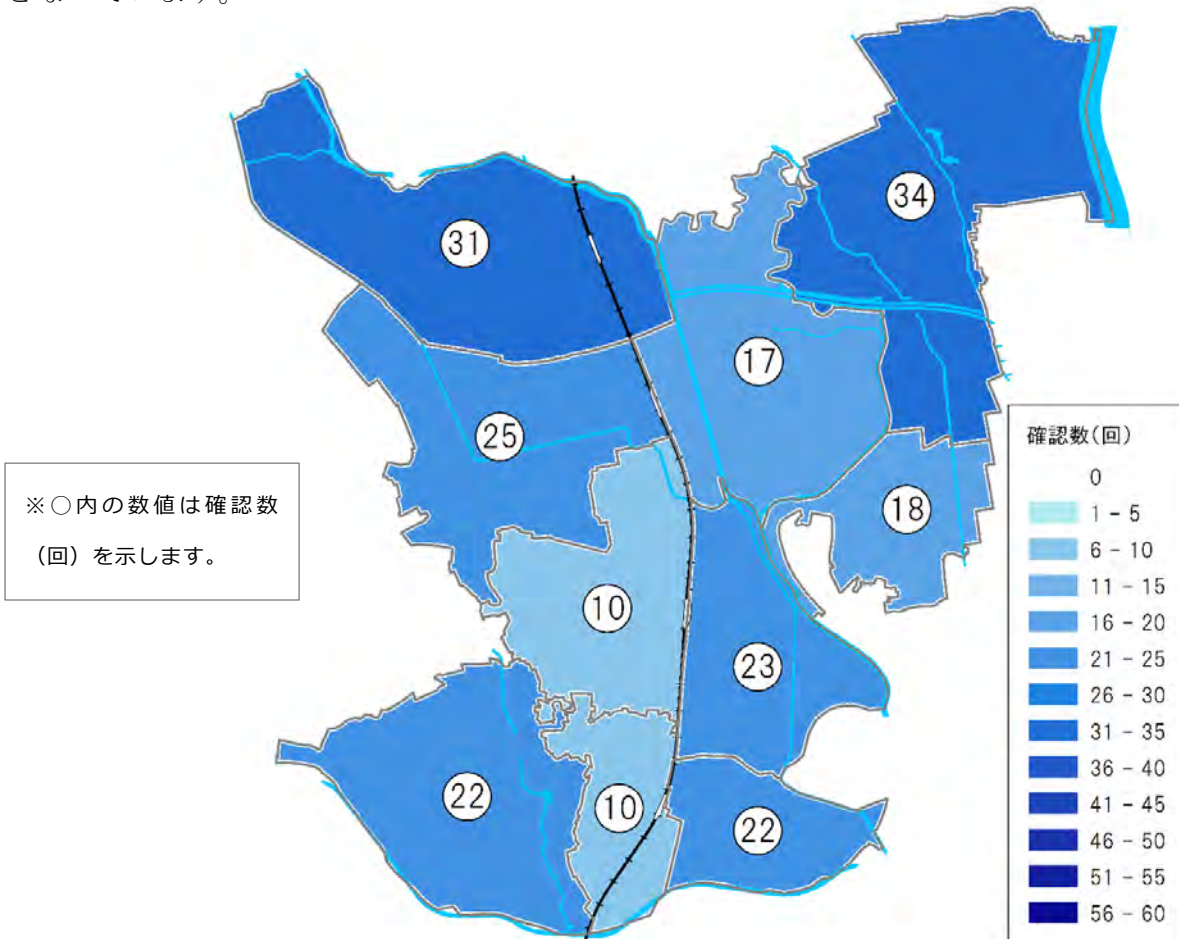


表2-⑳ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	ツバメ	2	6	4	5	5	22
2		3	3	3	0	1	10
3		3	6	4	5	4	22
4		2	6	5	5	5	23
5		2	2	3	0	3	10
6		3	4	1	6	4	18
7		2	5	3	2	5	17
8		4	6	8	7	6	31
9		6	8	6	7	7	34
10		2	5	6	6	6	25
合計		29	51	43	43	46	212

図2-⑳ 年度別確認数

② ツバメの巣

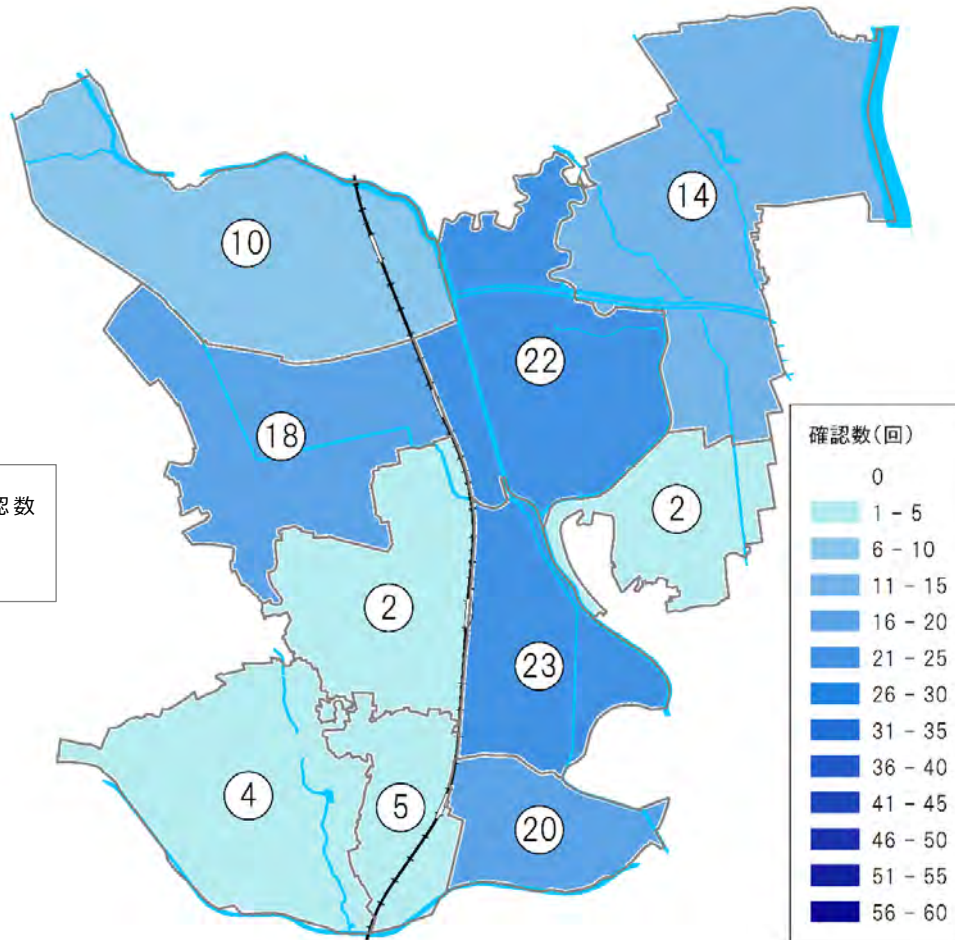


■概要：ツバメの巣は商店の店先、アーケード、駅、住宅の軒下などの壁に直接つくる場合と照明器具などの台の上につくる場合があります。

■材料：土と枯れ草など。

■形状：おわんを割って付けた形

市内全体で確認されており、市街地でも多く確認されています。年度ごとの確認数についてもほぼ横ばいとなっています。



※○内の数値は確認数(回)を示します。

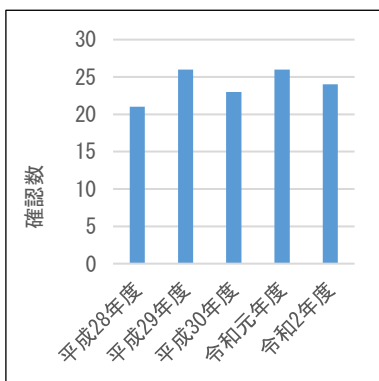


図2-② 年度別確認数

表2-② 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	ツバメの巣	2	4	4	5	5	20
2		3	0	1	0	1	5
3		1	2	0	0	1	4
4		3	6	5	5	4	23
5		1	1	0	0	0	2
6		0	0	0	0	2	2
7		2	3	5	6	6	22
8		3	3	0	4	0	10
9		4	4	2	2	2	14
10		2	3	6	4	3	18
合計		21	26	23	26	24	120

⑳ ハクセキレイ スズメ目セキレイ科



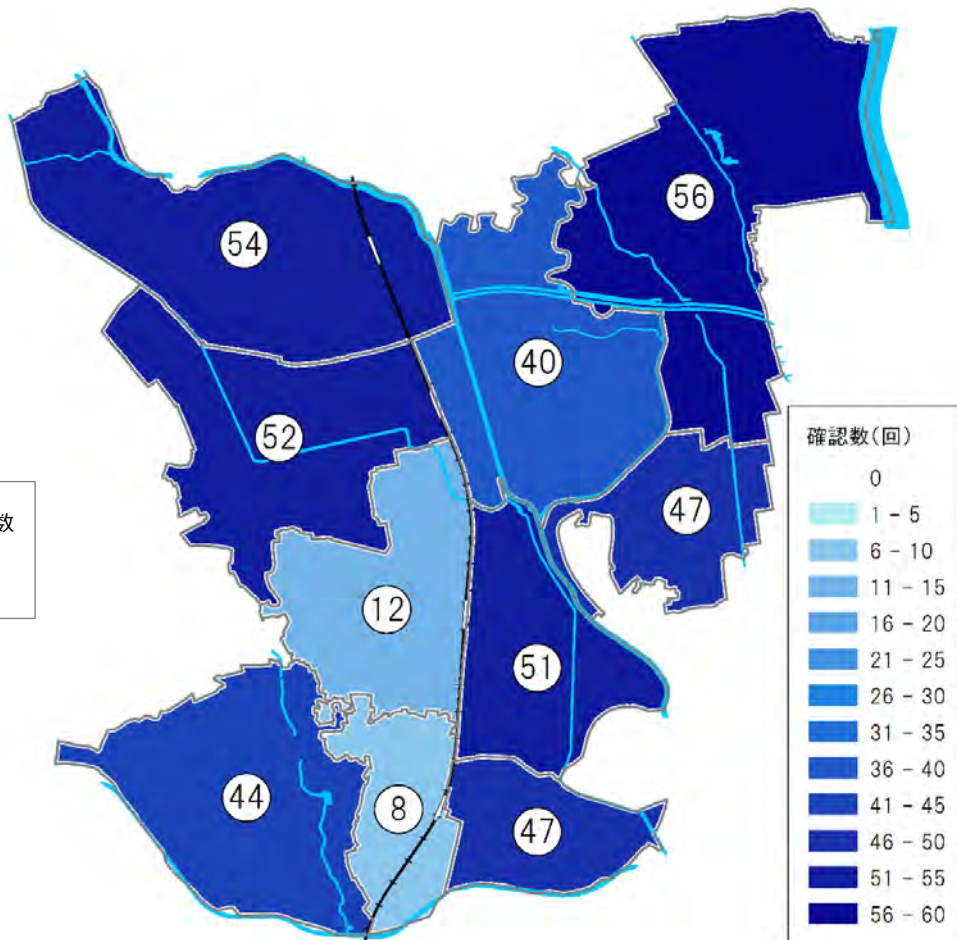
■概要：白と黒色の模様をしていて尾は黒色、外側の尾羽は白色です。また、くちばしと足は黒色です。川岸、水田等、低地の水辺にいて、地上を歩いて昆虫を獲ります。最近では街の中でもよく見かけ、秋や冬には繁華街の街路樹に集団でねぐらをとることがあります。

■観察環境：河岸や水田、市街地など

■観察時期：留鳥なので一年中見られます

■鳴き声：チチッ、チチッ

市内全体的に確認されていますが、草加西部及び谷塚中央区域での確認数は、他の区域と比較して半分以下となりました。また、年度ごとの確認数はやや増加傾向となっています。



※○内の数値は確認数(回)を示します。

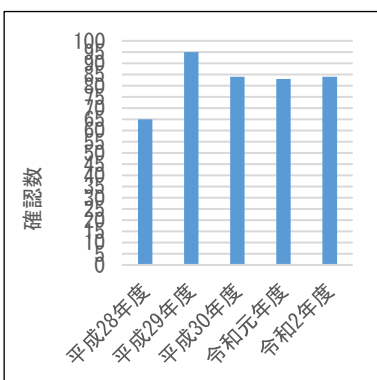
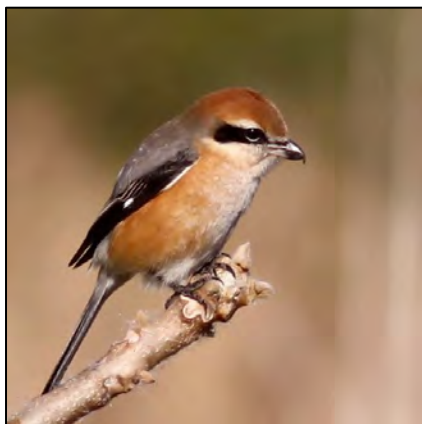


表2-⑳ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	ハクセキレイ	6	9	10	12	10	47
2		4	4	0	0	0	8
3		9	12	10	6	7	44
4		9	12	11	9	10	51
5		2	3	2	3	2	12
6		7	10	8	12	10	47
7		4	10	10	6	10	40
8		9	12	11	11	11	54
9		9	12	11	12	12	56
10		6	11	11	12	12	52
合計		65	95	84	83	84	411

図2-⑳ 年度別確認数

⑳ モズ スズメ目モズ科



■概要：スズメより大きく、くちばしや足が黒っぽく、頭が大きく、目を通る黒い帯があります。くちばしはタカのようにカギ型をしており、小鳥を捕えることもあります。昆虫やトカゲ等の獲物を、木の枝につきさしておく習性があり、これを「モズのはやにえ」といい、冬によく見られます。

■観察環境：林や畑、公園など

■観察時期：漂鳥（季節によって短距離の移動をします。）

■鳴き声：キィーキィー、キチキチ、キュンキュン

新田西部と草加川柳区域以外の調査区域ではほとんど確認されませんでした。市街地では、林や畑など生息環境が整っていないことから、確認数が少なくなったと推察されます。年度ごとの確認数は減少傾向となっています。

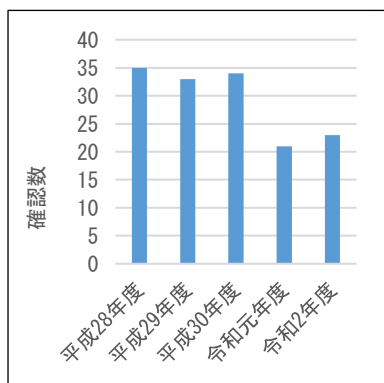
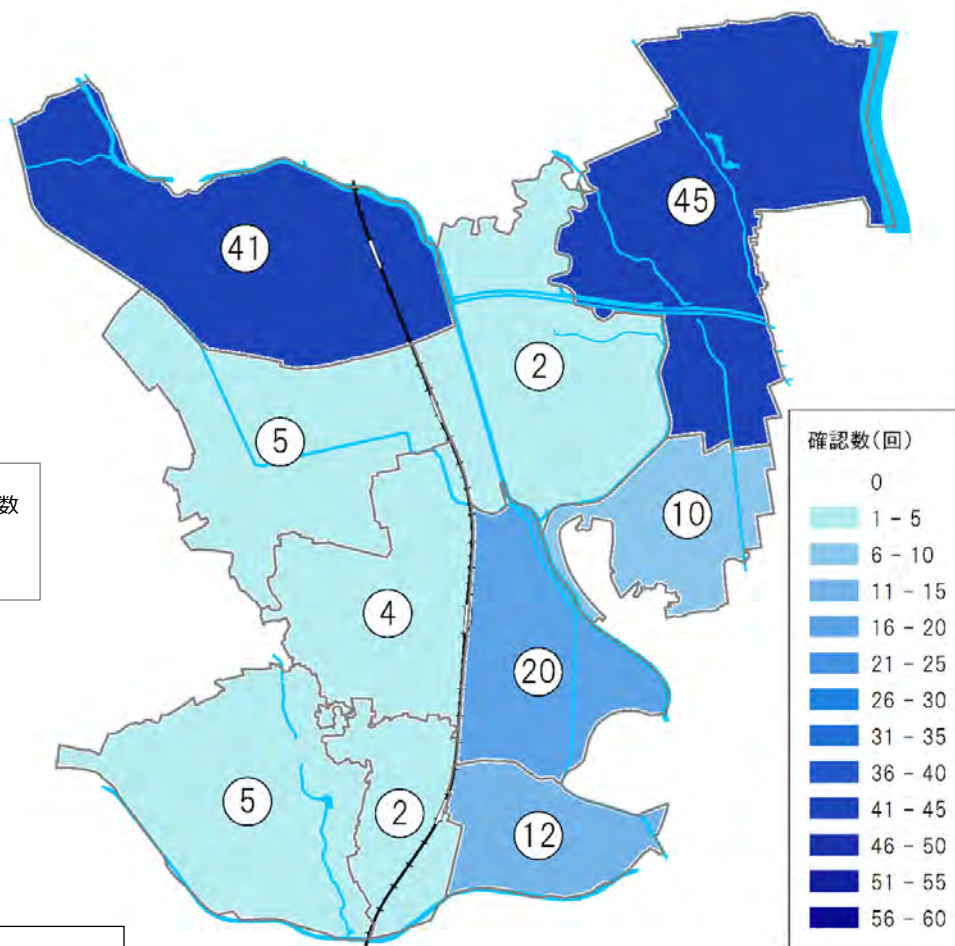


表2-⑳ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	モズ	3	2	3	2	2	12
2		0	1	1	0	0	2
3		2	0	3	0	0	5
4		6	5	6	1	2	20
5		3	0	1	0	0	4
6		4	3	2	0	1	10
7		0	1	0	0	1	2
8		8	8	9	8	8	41
9		8	10	8	10	9	45
10		1	3	1	0	0	5
合計		35	33	34	21	23	146

図2-⑳ 年度別確認数

②⑤ ツグミ スズメ目ヒタキ科



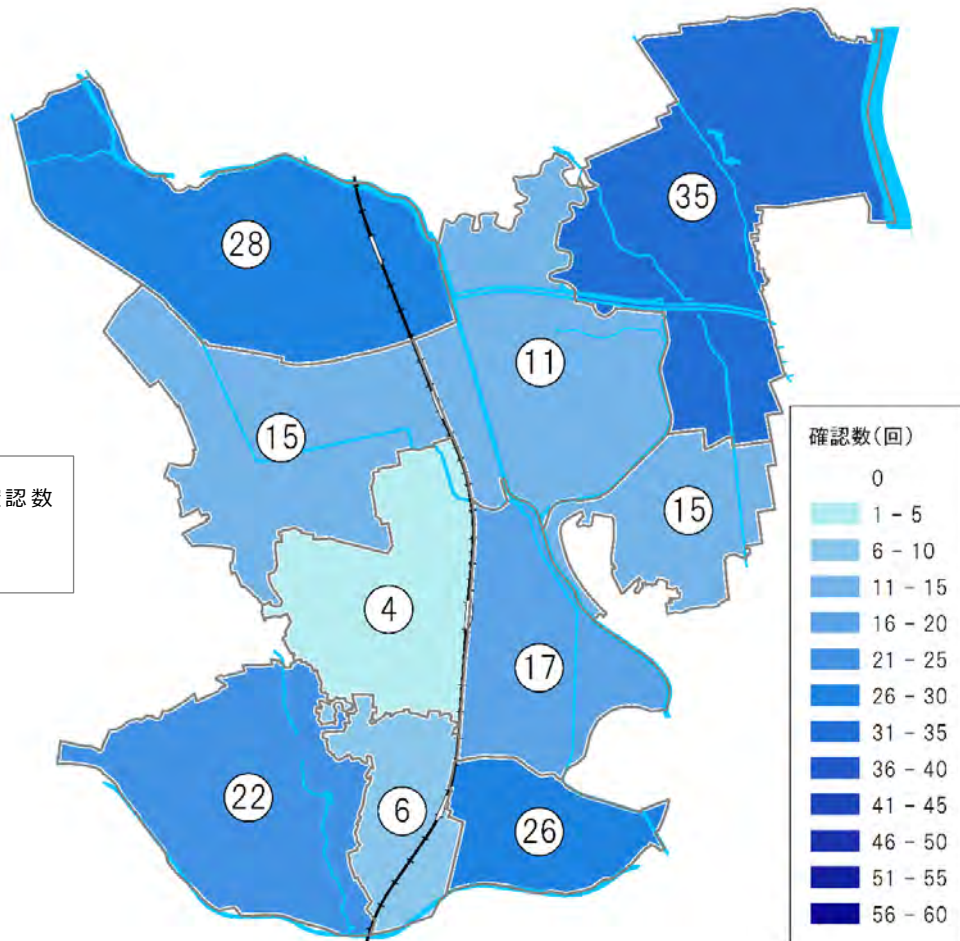
■概要：スズメより大きく、クリーム色の^{まゆ}眉、胸の黒いぼつぼつ、栗色の翼が特徴です。とんとんとはねるように歩き、胸をそらせた姿勢で立ち止まっては餌をついばみ、また歩くという動作をくりかえします。

■観察環境：畑や芝生、草地など

■観察時期：冬鳥（11月～4月）

■鳴き声：クエックエツ

市北部及び南部区域での確認数が多くなっており、住宅地の多い区域では少ない結果となりました。年度ごとの確認数は、やや増加傾向にあります。



※○内の数値は確認数(回)を示します。

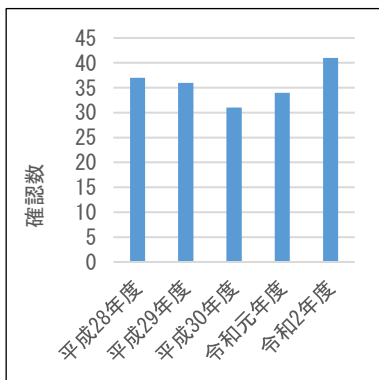


表2-②⑤ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	ツグミ	5	6	4	6	5	26
2		3	2	0	0	1	6
3		7	4	4	3	4	22
4		3	4	3	2	5	17
5		0	1	1	0	2	4
6		3	3	2	4	3	15
7		1	0	3	3	4	11
8		6	5	5	6	6	28
9		7	7	7	7	7	35
10		2	4	2	3	4	15
合計		37	36	31	34	41	179

図2-②⑤ 年度別確認数

②⑥ オオヨシキリ スズメ目ヨシキリ科



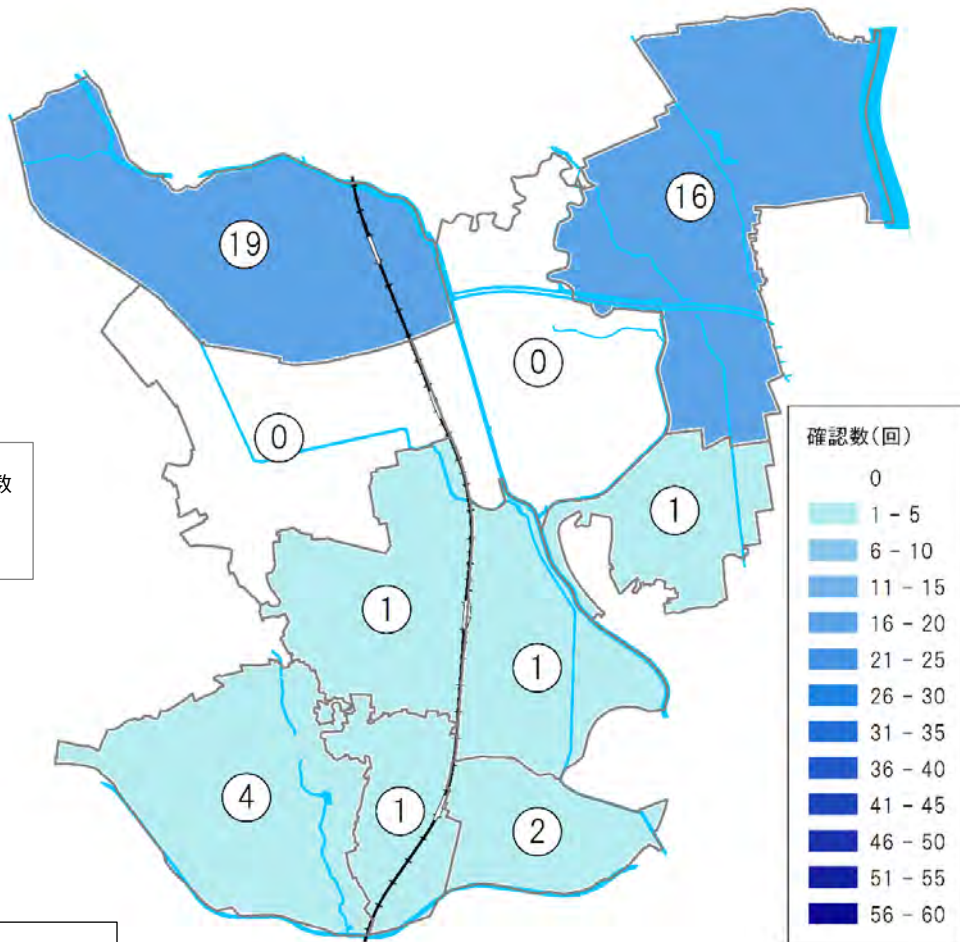
■概要：スズメより大きく、全身薄茶色で口の中が赤いのがよく目立ちます。繁殖期には大きな声でさえずり、昆虫等を食べます。アシの茎を何本か束ねて、^{たば}コップ形の巣をつくります。

■観察環境：河岸や湖沼などのヨシ原

■観察時期：夏鳥（5～10月）

■鳴き声：ギョギョシ

綾瀬川や中川等の河川には大規模なヨシ原が残っていることから、新田西部と草加川柳区域での確認数が多くなっています。他の区域ではほとんど確認されませんでした。年度ごとの確認数はやや減少傾向にあります。



※○内の数値は確認数(回)を示します。

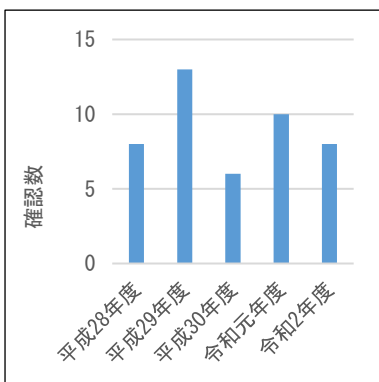


図2-②⑥ 年度別確認数

表2-②⑥ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	オオヨシキリ	0	0	1	0	1	2
2		1	0	0	0	0	1
3		0	4	0	0	0	4
4		0	0	0	1	0	1
5		1	0	0	0	0	1
6		0	1	0	0	0	1
7		0	0	0	0	0	0
8		3	4	4	5	3	19
9		3	4	1	4	4	16
10		0	0	0	0	0	0
合計		8	13	6	10	8	45

②⑦ シジュウカラ スズメ目シジュウカラ科



■概要：スズメより小さく、頬のあたりが白く、胸から腹までのネクタイ状の黒線は、オスは太くはっきりして、メスは細くうすくなっています。庭や公園で見られ肉の脂身や昆虫、種子を好み、巣箱などによく巣をつくります。

■観察環境：庭や公園などの平地から山地

■観察時期：留鳥なので一年中見られます

■鳴き声：チーjuk、チーツ

市北部の新田西部と草加川柳区域のほか住宅地や公園の多い市街地でも多く確認されています。年度ごとの確認数は増加傾向にあります。

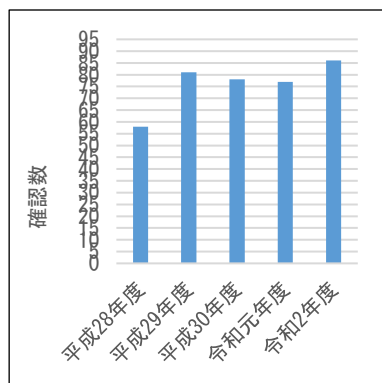
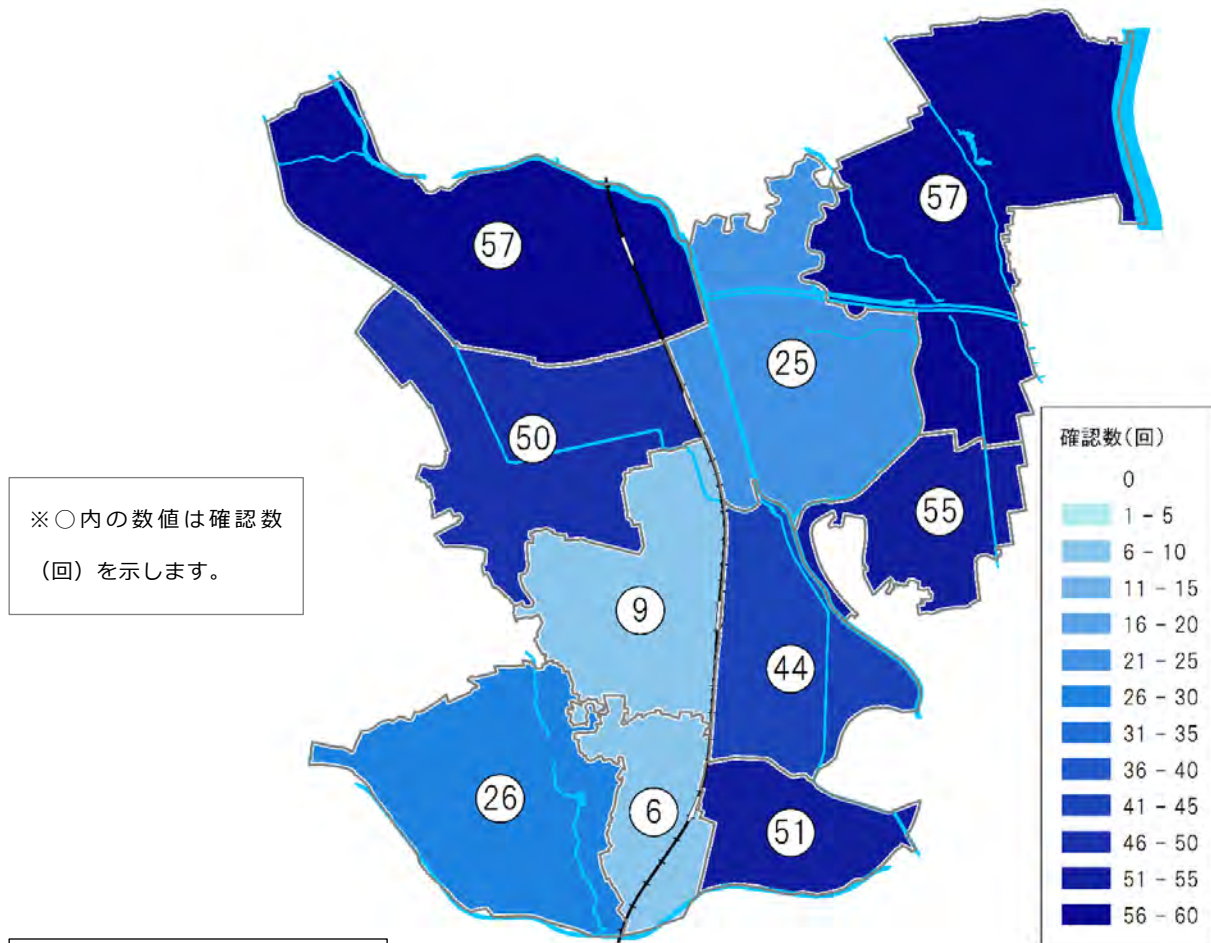


表2-②⑦ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	シジュウカラ	9	11	11	10	10	51
2		1	3	2	0	0	6
3		5	8	5	4	4	26
4		7	9	9	9	10	44
5		4	0	1	0	4	9
6		9	12	11	11	12	55
7		0	4	4	7	10	25
8		9	12	12	12	12	57
9		9	12	12	12	12	57
10		5	10	11	12	12	50
合計		58	81	78	77	86	380

図2-②⑦ 年度別確認数

⑳ オナガ スズメ目カラス科



■概要：ハトより小さくてスマートな鳥です。背と腹は褐色を帯びた灰色で、黒い頭と空色の翼、長い尾が特徴です。公園や庭、給餌台きゅうじだいにも姿を見せ、雑食性です。

■観察環境：庭や公園など

■観察時期：留鳥なので一年中見られます

■鳴き声：グェーイ、グェーイ、ギュイギュイ

市内全体的に確認されていますが、草加西部及び谷塚中央区域での確認数は、他の区域と比較して半分以下となりました。また、年度ごとの確認数はほぼ横ばいとなっています。

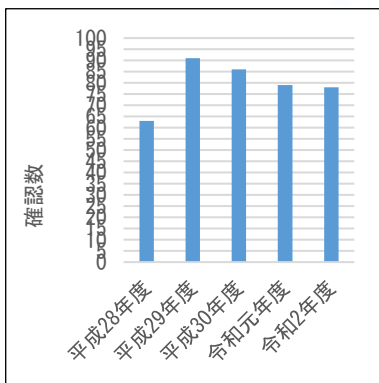
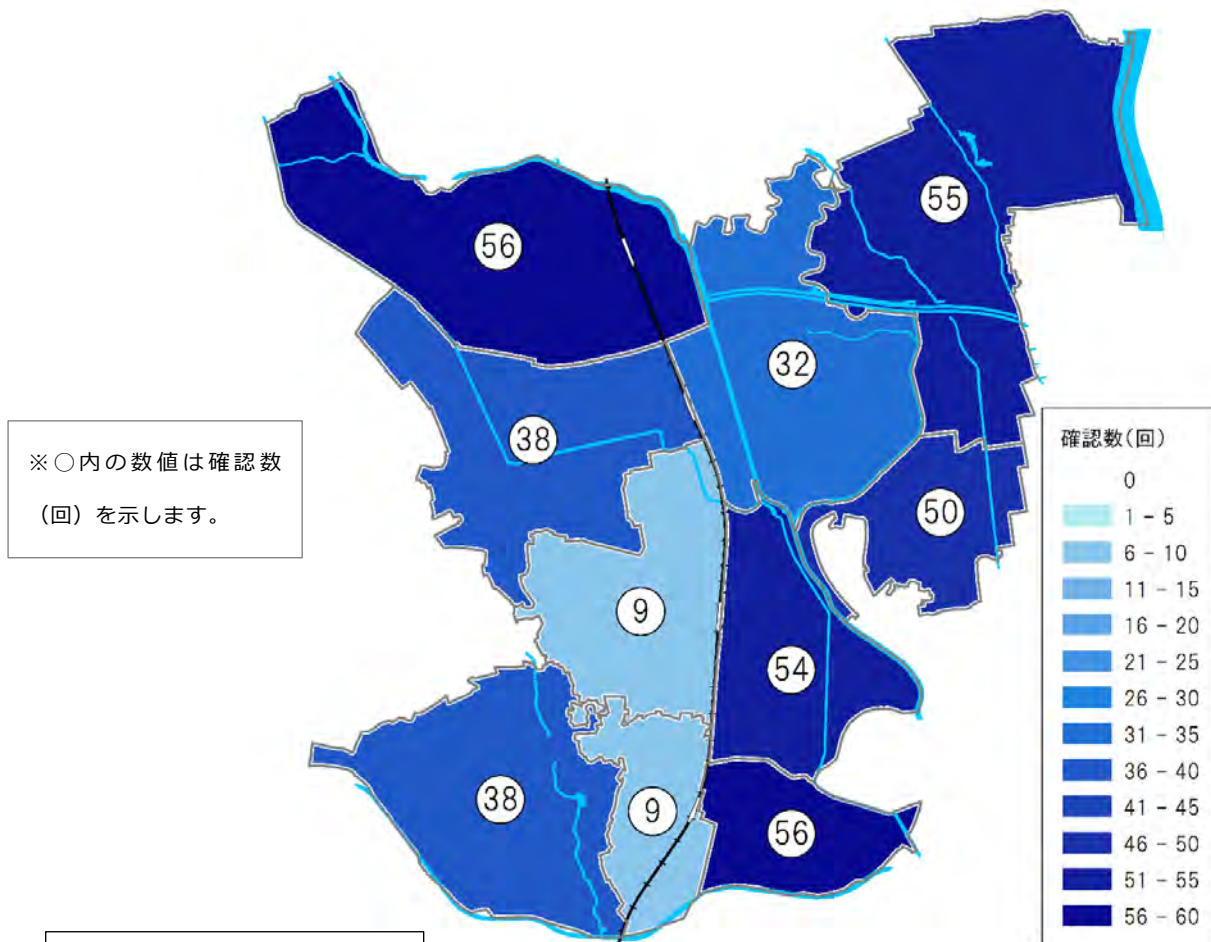


表2-⑳ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	オナガ	9	12	12	12	11	56
2		2	4	2	1	0	9
3		7	11	9	7	4	38
4		9	11	12	11	11	54
5		3	3	1	0	2	9
6		7	12	9	11	11	50
7		1	4	9	8	10	32
8		9	12	12	12	11	56
9		9	12	10	12	12	55
10		7	10	10	5	6	38
合計		63	91	86	79	78	397

図2-⑳ 年度別確認数

⑳ モンシロチョウ チョウ目シロチョウ科



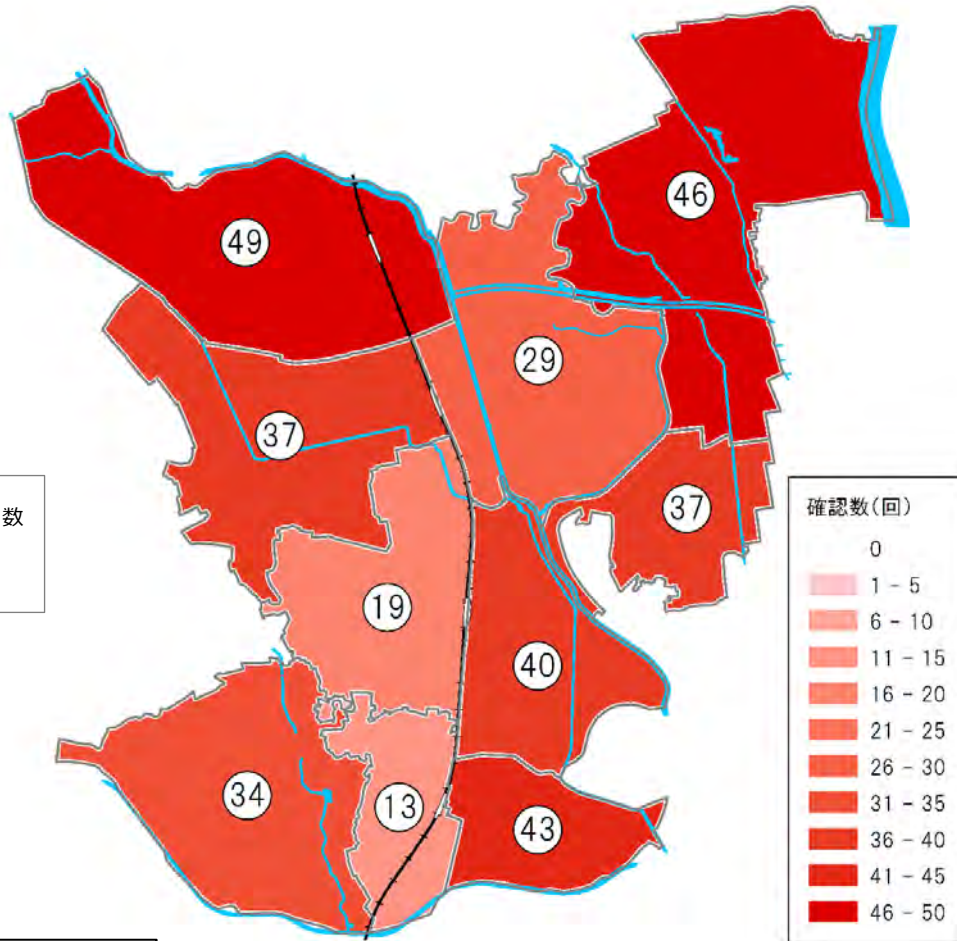
■概要：最も身近なチョウです。幼虫は、青虫とも呼ばれ畑の野菜（キャベツやダイコン等）の葉を食べます。特に、キャベツ畑では、この白いチョウをよく見かけます。翅の筋があまり目立たないのがモンシロチョウの特徴です。

■観察環境：草地や畑など

■観察時期：3～11月

■翅の特徴：白色で大きさ2～3cm

市内全体的に確認されていますが、草加西部及び谷塚中央区域での確認数は、他の区域と比較して少なくなっています。年度ごとの確認数はやや増加傾向にあります。



※○内の数値は確認数(回)を示します。

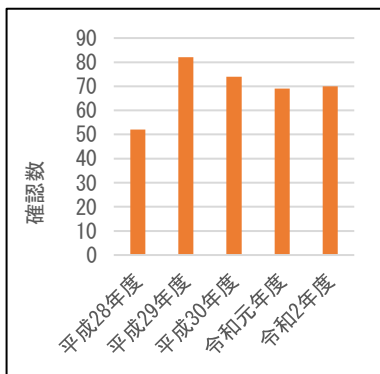
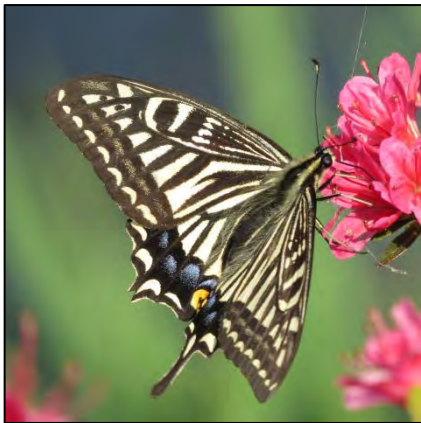


表3-⑳ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	モンシロチョウ	6	10	10	9	8	43
2		5	6	2	0	0	13
3		6	9	7	6	6	34
4		6	8	9	8	9	40
5		5	4	2	4	4	19
6		5	8	8	8	8	37
7		4	7	7	5	6	29
8		7	11	10	10	11	49
9		6	11	10	10	9	46
10		2	8	9	9	9	37
合計		52	82	74	69	70	347

図3-⑳ 年度別確認数

③⑩ アゲハチョウ（ナミアゲハ） チョウ目アゲハチョウ科



■概要：やや黄色っぽいアゲハチョウはキアゲハで、前翅の付け根が黒くなっていることで、ナミアゲハと見分けることができます（ナミアゲハでは縞模様になっています）。

■観察環境：公園など

■観察時期：3～11月

■翅の特徴：黒地に黄白色の斑紋や線があり、後翅にはさらに水色や橙色の斑紋があります。

市東部及び北部区域で多く確認されていますが、草加西部及び谷塚中央区域での確認数は少なくなっています。年度ごとの確認数はやや増加傾向となっています。

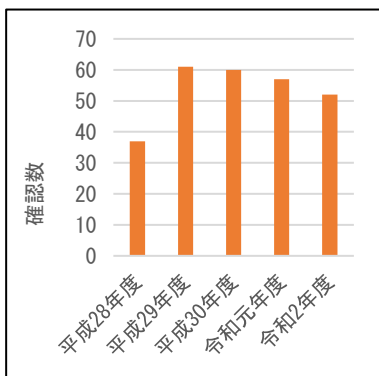
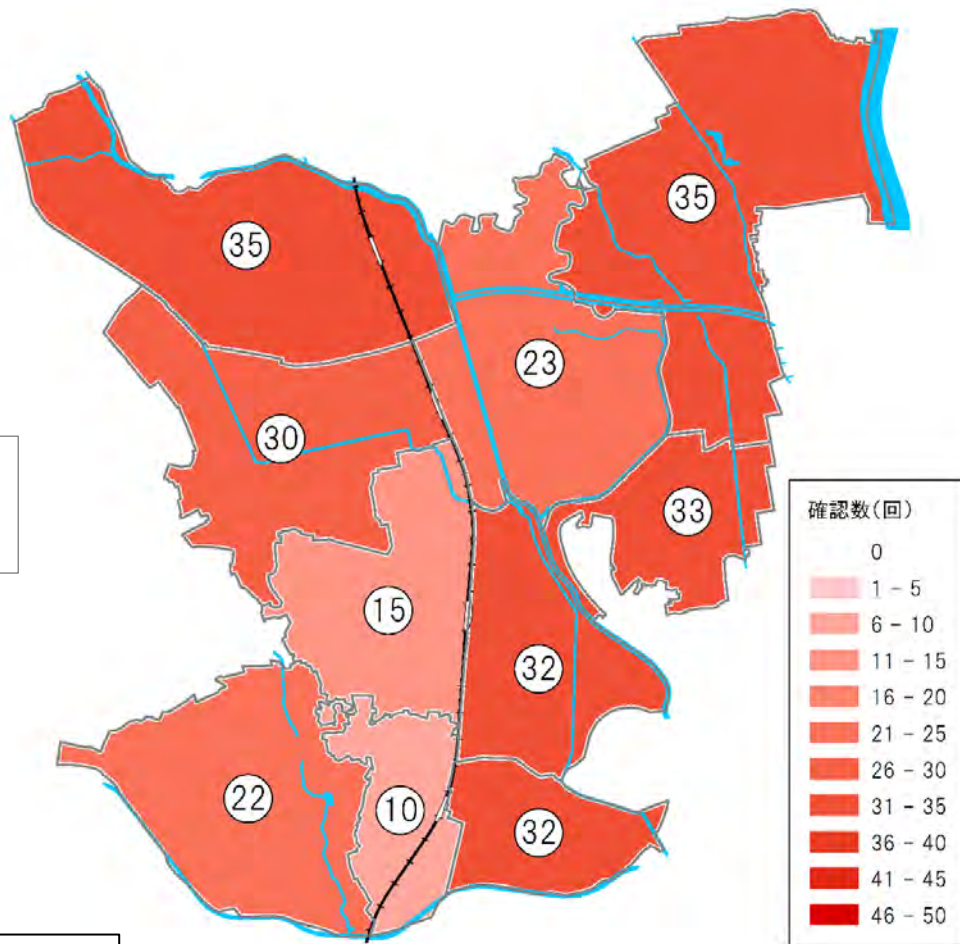
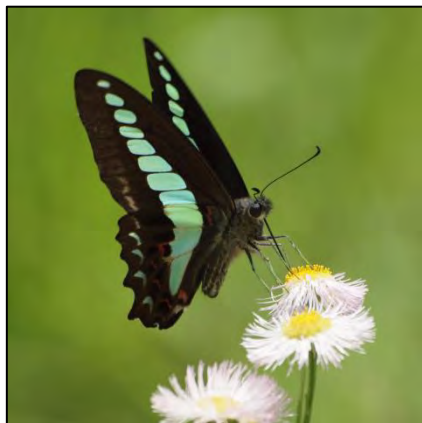


表3-⑩ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	アゲハチョウ	3	6	8	8	7	32
2		3	5	2	0	0	10
3		5	9	5	2	1	22
4		4	7	7	7	7	32
5		3	3	2	4	3	15
6		4	6	8	7	8	33
7		2	5	6	6	4	23
8		4	7	8	7	9	35
9		5	7	7	9	7	35
10		4	6	7	7	6	30
合計		37	61	60	57	52	267

図3-⑩ 年度別確認数

③1 アオスジアゲハ チョウ目アゲハチョウ科



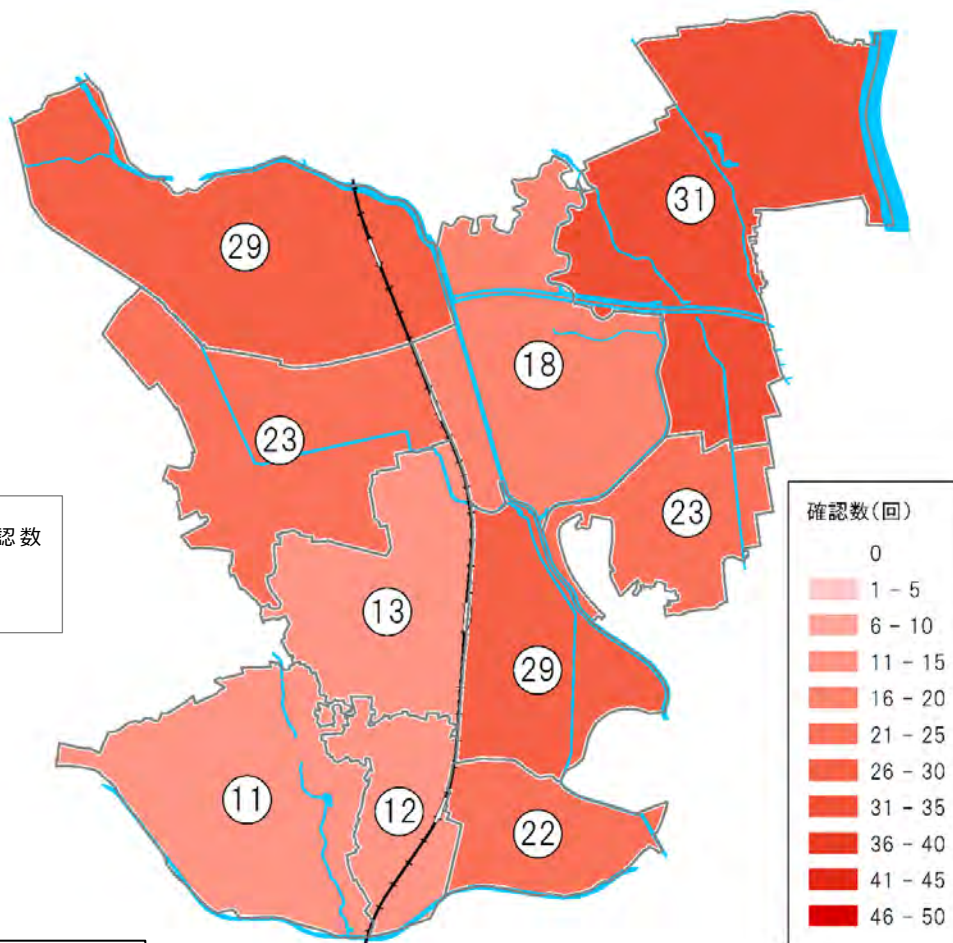
■概要：幼虫はクスノキ科の樹木の葉を食べ、さなぎで冬を越し、春から夏にかけて羽化^{うか}します。飛び方が素早く、花に集まりますが、湿った所などで水を飲んでいることもあり、いろいろな所で見ることができます。

■観察環境：公園など

■観察時期：4～5月、7～8月

■翅の特徴：黒色で中央に青色の広い帯があり、大きさ4～5cm

市東部及び北部区域で多く確認されていますが、草加西部、谷塚中央及び谷塚西部区域での確認数は少なくなっています。年度ごとの確認数はやや減少傾向となっています。



※○内の数値は確認数(回)を示します。

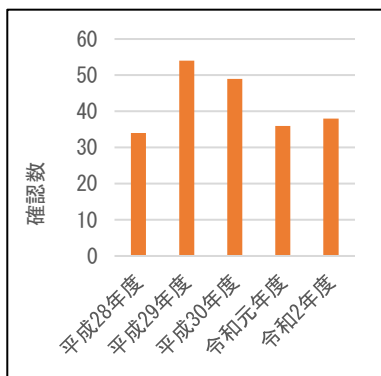


表3-③1 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	アオスジアゲハ	3	5	6	3	5	22
2		4	6	2	0	0	12
3		3	5	1	2	0	11
4		3	6	7	7	6	29
5		3	3	3	2	2	13
6		4	5	7	2	5	23
7		3	5	4	2	4	18
8		4	6	7	6	6	29
9		4	7	7	7	6	31
10		3	6	5	5	4	23
合計		34	54	49	36	38	211

図3-③1 年度別確認数

③② ナガサキアゲハ チョウ目アゲハチョウ科



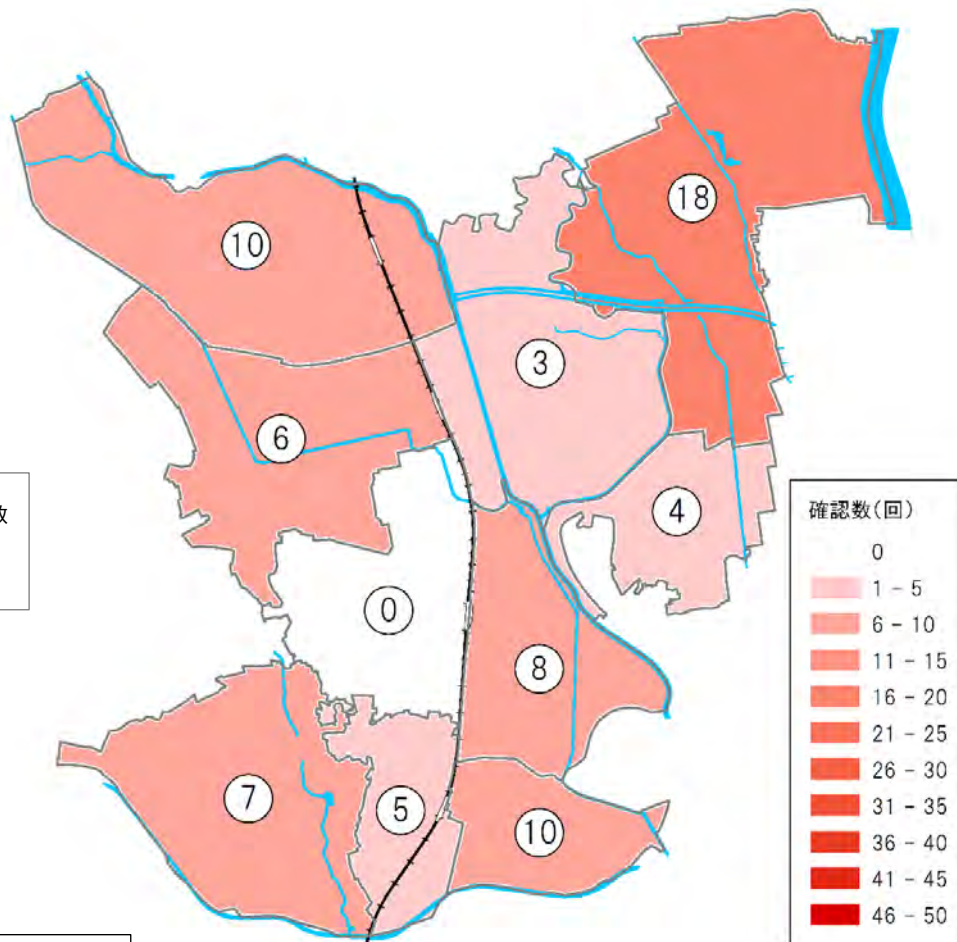
■概要：幼虫はミカンなどのミカン科の栽培品を好んで食べます。国内分布は関西以西とされていましたが、近年関東から東北南部に広げており、市内でも時々見かけます。クロアゲハに似ていますが、後翅の尾状突起がないことや、翅のつけねに赤い斑紋はんもんがあることで区別できます。

■観察環境：樹林地

■観察時期：5～10月

■翅の特徴：黒色でオスは青灰色の鱗粉があり、大きさ6～8cm

草加川柳区域での確認数が最も多くなっています。その他、草加西部区域を除いて、全区域で同程度の確認数となっています。年度ごとの確認数は平成29年をピークに確認数は減少しています。



※○内の数値は確認数(回)を示します。

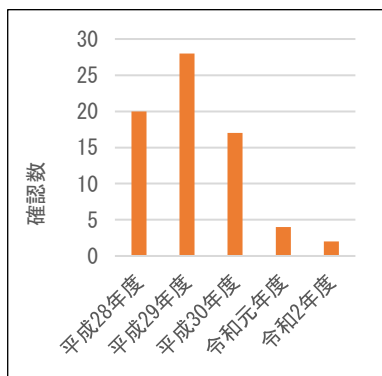


表3-③② 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	ナガサキアゲハ	3	3	4	0	0	10
2		1	3	0	0	1	5
3		2	4	1	0	0	7
4		3	1	3	1	0	8
5		0	0	0	0	0	0
6		1	2	1	0	0	4
7		0	3	0	0	0	3
8		4	3	1	1	1	10
9		4	7	5	2	0	18
10		2	2	2	0	0	6
合計		20	28	17	4	2	71

図3-③② 年度別確認数

③③ ツマグロヒョウモン チョウ目タテハチョウ科



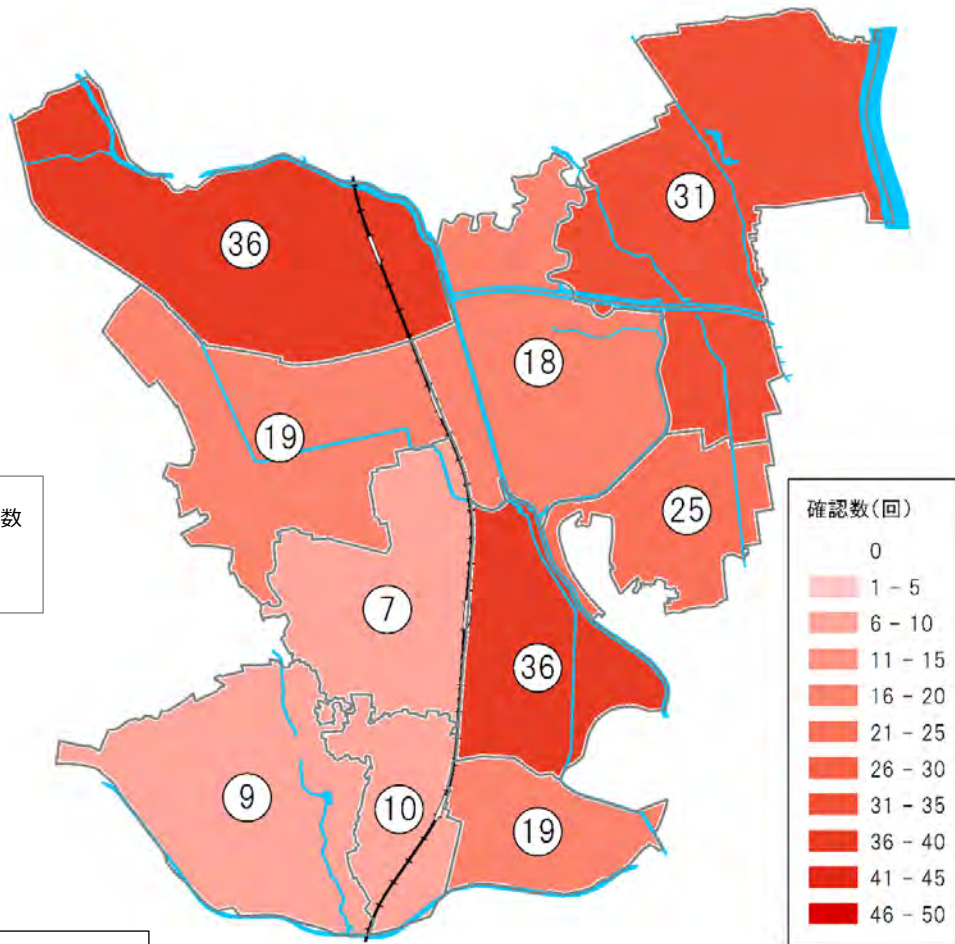
■概要：幼虫はパンジーなどスミレ科の栽培品を好んで食べますが、野生のスミレも被害が目立ちます。終齡幼虫になるとしゅうれいようちゅう黒色で背面に赤い筋が目立ち、とげとげしい幼虫となります。もともとは南方系のチョウとされていましたが、園芸用スミレ類の移動や温暖化の影響などで分布を広げています。

■観察環境：公園や草地など

■観察時期：4～11月

■翅の特徴：ヒョウ柄で後翅の先端は黒くなる。大きさ4～5cm

草加東部、新田西部及び草加川柳区域での確認数が多くなっています。草加西部や谷塚地区等の市街化区域での確認数は少なくなっています。年度ごとの確認数は減少傾向となっています。



※○内の数値は確認数(回)を示します。

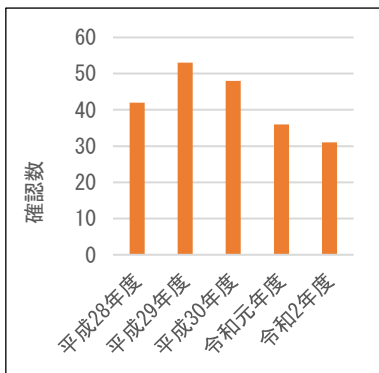
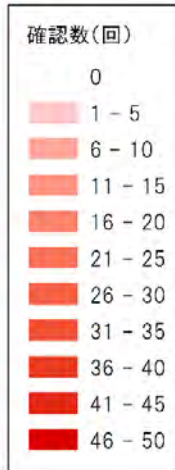


表3-③③ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	ツマグロヒョウモン	4	5	4	2	4	19
2		5	4	1	0	0	10
3		2	0	4	3	0	9
4		5	8	9	8	6	36
5		4	1	1	1	0	7
6		5	8	4	4	4	25
7		1	5	6	3	3	18
8		6	8	8	8	6	36
9		6	8	6	4	7	31
10		4	6	5	3	1	19
合計		42	53	48	36	31	210

図3-③③ 年度別確認数

③④ アカボシゴマダラ チョウ目タテハチョウ科



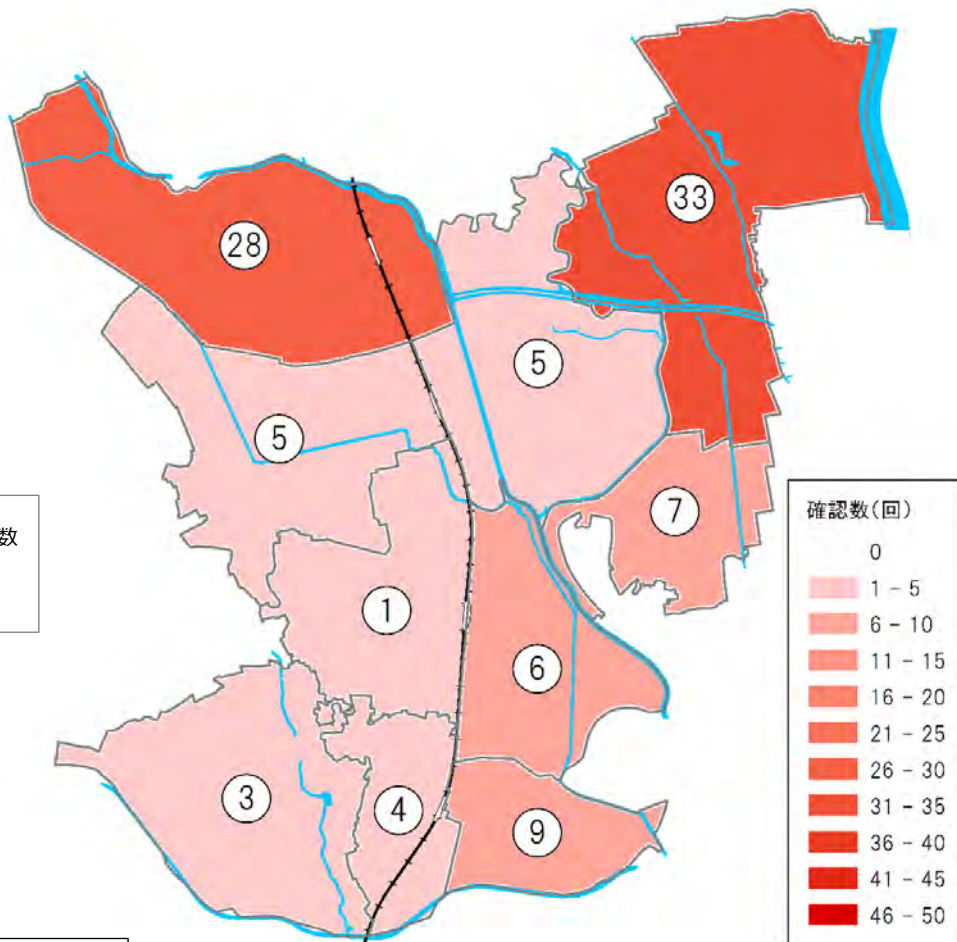
■概要：東アジアの広域分布種。ごまのように見える^{まだら}斑模様があり、夏型には、後翅の外縁に沿って赤斑^{あかぼし}があります。エノキを食草とするので、もともと日本で生息しているゴマダラチョウと生態的に競合するのではないかとされており、「特定外来生物」に指定されています。

■観察環境：草地から市街地にかけて広く見ることができます

■観察時期：4～10月

■翅の特徴：黒色地の白斑が目立つ。大きさ8～10cm

新田西部及び草加川柳区域で最も多く確認されています。市街地でも生育できる環境ですが、本市では草地や樹林地の多い区域で確認されました。年度ごとの確認数は減少傾向となっています。



※○内の数値は確認数(回)を示します。

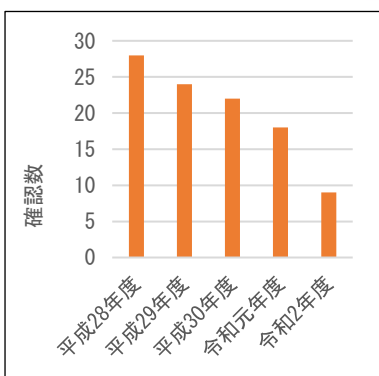


表3-③④ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	アカボシゴマダラ	3	2	2	1	1	9
2		3	1	0	0	0	4
3		2	0	1	0	0	3
4		3	2	1	0	0	6
5		0	0	1	0	0	1
6		3	3	1	0	0	7
7		0	1	2	2	0	5
8		4	6	6	7	5	28
9		8	8	7	7	3	33
10		2	1	1	1	0	5
合計		28	24	22	18	9	101

図3-③④ 年度別確認数

③⑤ カブトムシ コウチュウ目コガネムシ科



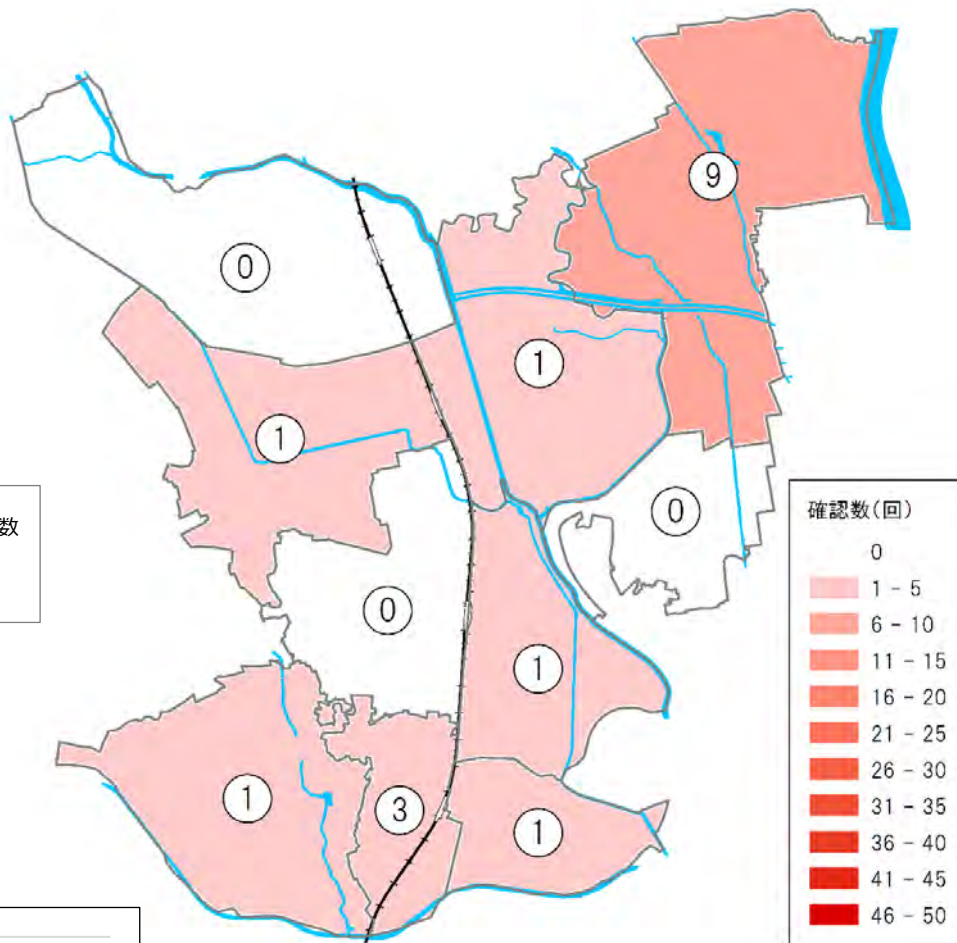
■概要：オスには大きな角があり、さらに胸部にも小さな角があります。メスには角はありませんが、わずかに頭部が尖り、脚が太く、鋭いとげが発達しています。クヌギやナラ、ヤナギなどの樹液を餌にしています。

■観察環境：樹林地など

■観察時期：5～9月

■大きさ：3～6cm

草加川柳区域での確認数が最も多くなっていますが、9回にとどまっています。他区域ではほとんど確認されず、谷塚中央区域で3回、その他確認区域で1回ずつとなっています。年度ごとの確認数は28年度が最多で、それ以降はほぼ横ばいとなっています。



※○内の数値は確認数(回)を示します。

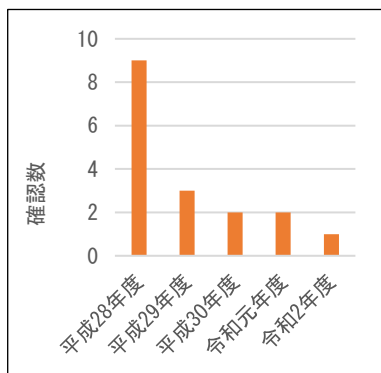


表3-③⑤ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	カブトムシ	1	0	0	0	0	1
2		2	1	0	0	0	3
3		1	0	0	0	0	1
4		1	0	0	0	0	1
5		0	0	0	0	0	0
6		0	0	0	0	0	0
7		0	0	0	1	0	1
8		0	0	0	0	0	0
9		3	2	2	1	1	9
10		1	0	0	0	0	1
合計		9	3	2	2	1	17

図3-③⑤ 年度別確認数

③⑥ ニイニイゼミ カメムシ目セミ科



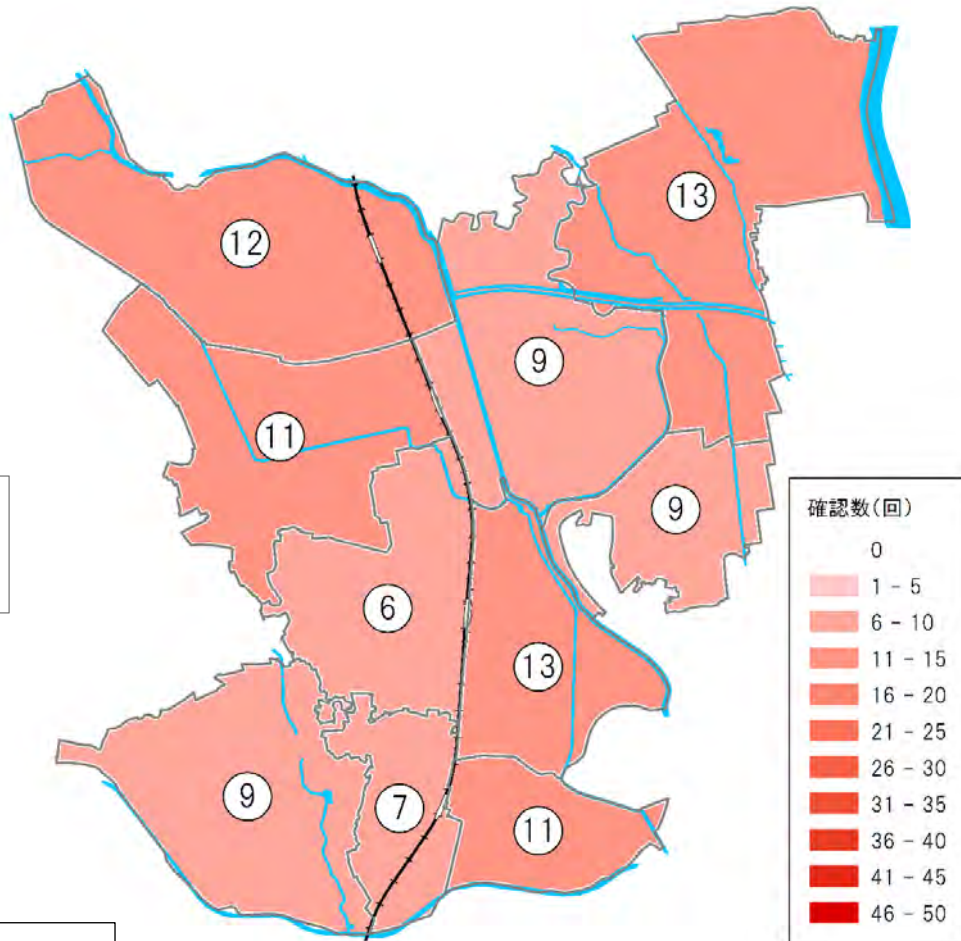
■概要：頭部と前胸部の地色は灰褐色で後胸部と腹部は黒色です。後胸部の背中中央には橙色のW字型の模様があります。他のセミに比べて体型は丸っこく、横幅が広いです。複眼^{ふくがん}と前翅の間に平たい「耳」のような突起があります。

■観察環境：公園や樹林地など。サクラの木に多く見られます

■観察時期：6～9月

■鳴き声：「チー」が数秒、急に音が高く大きくなって「ジー」、数秒ほどで緩やかに「チー」へ戻り、数秒後に再び「ジー」となり、鳴き終わりは「チッチッチ…」となります。

市内全体で確認されており、確認数も概ね同程度となっています。年度ごとの確認数については減少傾向となっています。



※○内の数値は確認数(回)を示します。

表3-③⑥ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	ニイニイゼミ	3	3	1	2	2	11
2		3	2	1	0	1	7
3		3	3	2	0	1	9
4		3	3	3	2	2	13
5		2	2	0	1	1	6
6		1	2	2	2	2	9
7		2	3	3	1	0	9
8		3	3	2	2	2	12
9		3	4	1	2	3	13
10		1	2	4	3	1	11
合計		24	27	19	15	15	100

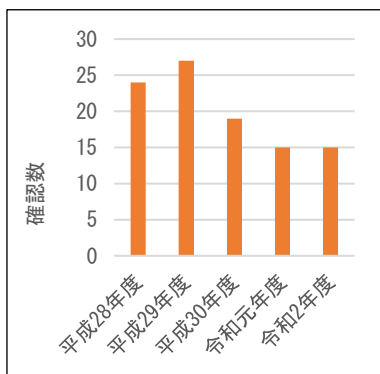


図3-③⑥ 年度別確認数

③⑦ クマゼミ カメムシ目セミ科



■概要：全体が黒い大型のセミで、翅は透明ですが、上半分の脈には緑色が混じります。体には褐色の細かい毛が生えています。午前中だけシャーシャーという機械のような大きな声で鳴くのが特徴です。西日本に多く生息しますが、近年では関東地方でも目撃情報が増えつつあり、地球温暖化の影響などで分布を広げています。

■観察環境：公園や街路樹など

■観察時期：7～9月

■鳴き声：シャーシャー

草加川柳及び草加安行区域で多く確認されています。その他、草加西部区域を除きすべての区域で確認されています。年度ごとの確認数は減少傾向となっています。

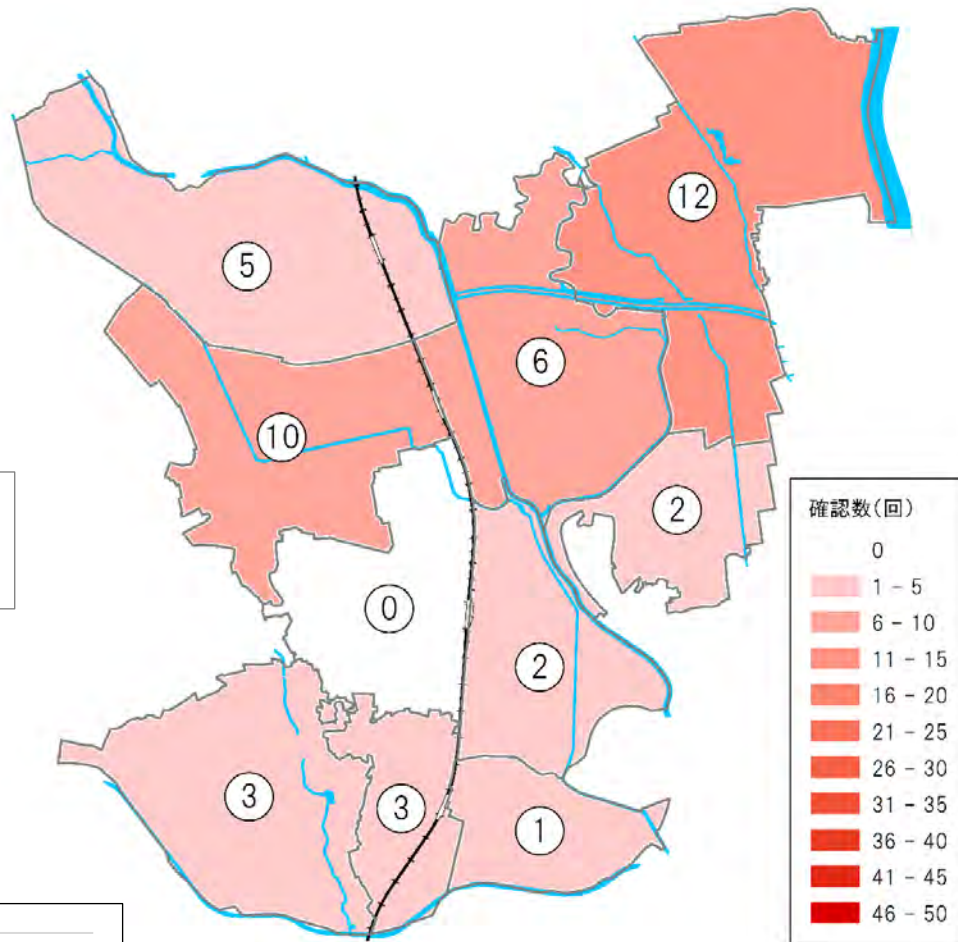


表3-③⑦ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	クマゼミ	0	0	0	0	1	1
2		2	1	0	0	0	3
3		1	2	0	0	0	3
4		1	0	0	1	0	2
5		0	0	0	0	0	0
6		0	1	0	1	0	2
7		2	2	1	1	0	6
8		3	1	0	0	1	5
9		3	3	3	2	1	12
10		3	1	3	2	1	10
合計		15	11	7	7	4	44

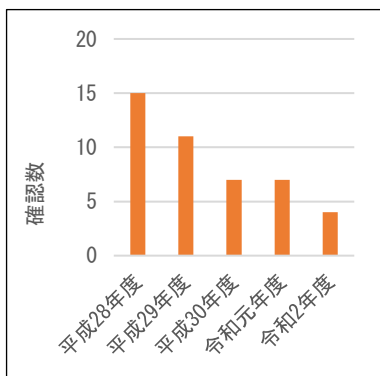


図3-③⑦ 年度別確認数

③⑧ ツクツクボウシ カメモシ目セミ科



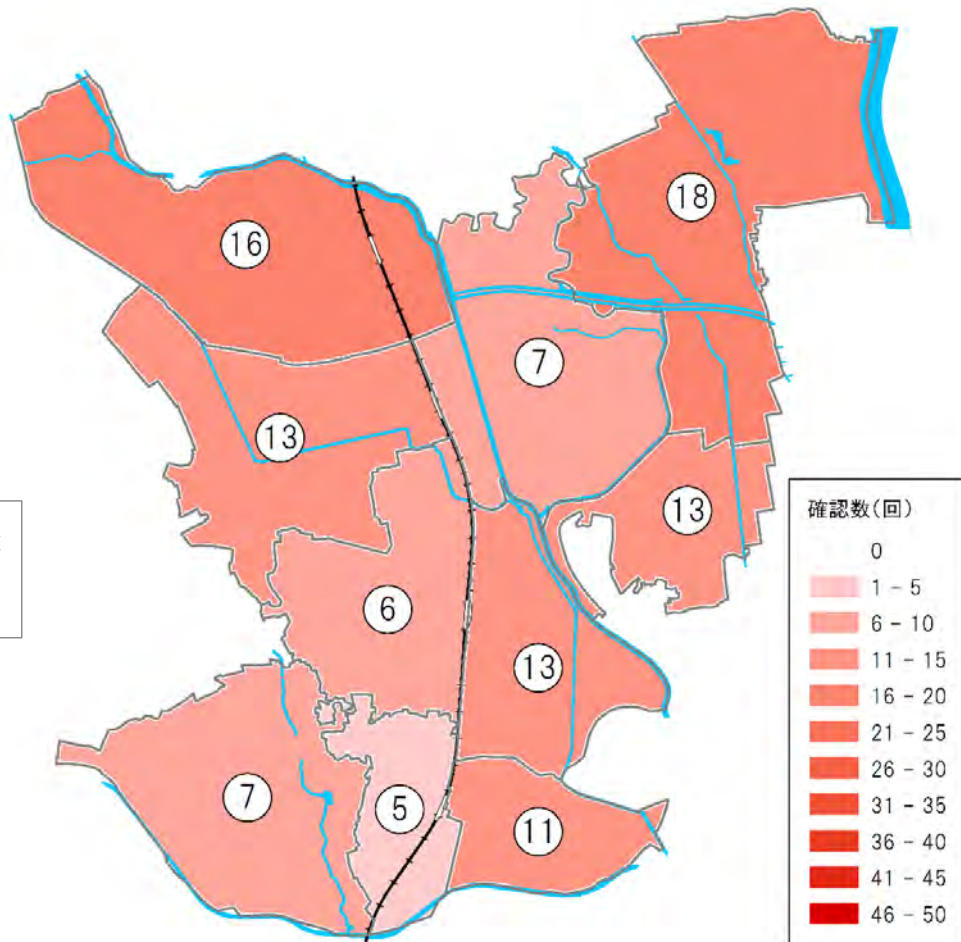
■概要：黒褐色の体に、暗緑色の模様がついた透明な翅を持つ小型のセミです。メスには長い産卵管さんらんかんがあるので、雌雄は簡単に見分けられます。

■観察環境：公園や街路樹など

■観察時期：7～9月

■鳴き声：ジユクジユクジユク・・・オーシン・ツクツクツク・オーシン・ツクツクツク…ウィオーシー・ウィオーシー・ウィオーシー

新田西部及び草加川柳区域で最も多く確認されています。草加西部や谷塚地区等の市街化区域での確認数は少なくなっています。年度ごとの確認数は減少傾向となっています。



※○内の数値は確認数(回)を示します。

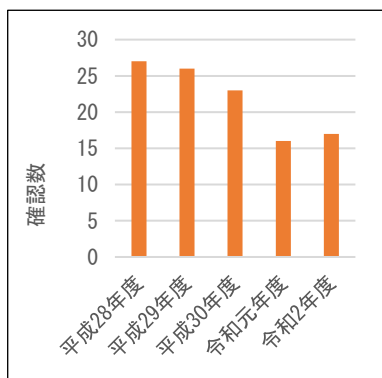


表3-③⑧ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	ツクツクボウシ	2	3	2	2	2	11
2		2	3	0	0	0	5
3		3	2	0	0	2	7
4		3	2	3	2	3	13
5		3	1	1	0	1	6
6		2	3	3	3	2	13
7		2	2	2	0	1	7
8		3	4	4	3	2	16
9		4	4	5	3	2	18
10		3	2	3	3	2	13
合計		27	26	23	16	17	109

図3-③⑧ 年度別確認数

③⑨ オオカマキリ カマキリ目カマキリ科



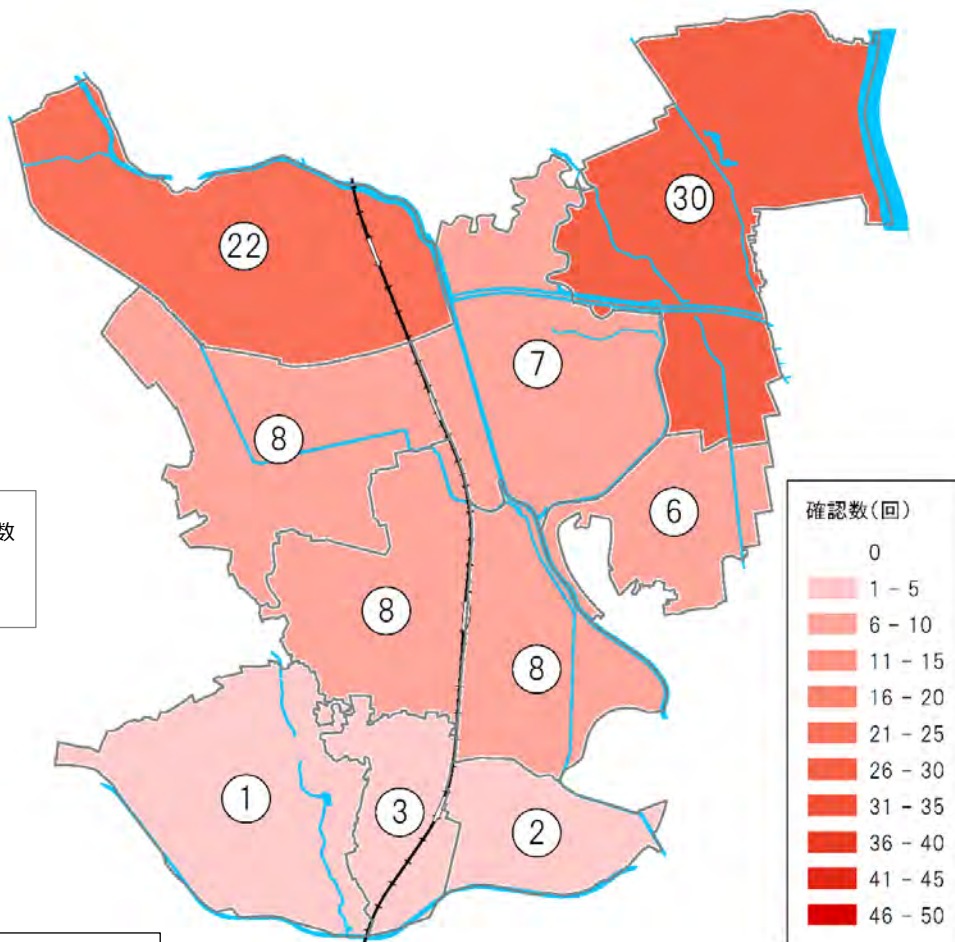
■概要：カマキリの中でも大型で、緑色か薄茶色をしています。人家の生垣、公園の樹木などで見かけます。肉食性で、低い草や木の茎、葉に止まっていて、やってくるチョウやセミなどの獲物を待ちます。冬には枝などについた「麩」のような卵囊が見つかります。

■観察環境：草地や樹木など

■観察時期：8月～11月

■大きさ：7～10cm

新田西部及び草加川柳区域での確認数が最も多くなっており、市街化区域では少ない結果となりました。特に南部区域での確認数は少なくなっています。年度ごとの確認数は、減少傾向にあります。



※○内の数値は確認数(回)を示します。

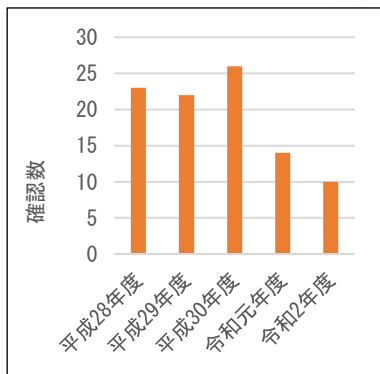


表3-③⑨ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	オオカマキリ	1	0	0	1	0	2
2		2	0	1	0	0	3
3		1	0	0	0	0	1
4		2	3	2	1	0	8
5		4	1	0	0	3	8
6		2	3	1	0	0	6
7		0	2	3	1	1	7
8		4	3	7	6	2	22
9		5	8	9	5	3	30
10		2	2	3	0	1	8
合計		23	22	26	14	10	95

図3-③⑨ 年度別確認数

④ シオカラトンボ トンボ目トンボ科



■概要：池や沼で発生します。羽化したばかりの時は黄色をしています。成熟するとオスは黒化し、白い粉をふいて、いわゆる「塩辛トンボ」になります。メスは黄緑っぽくなり、いわゆる「麦藁トンボ」と呼ばれています。

■観察環境：水田や湿地など

■観察時期：4～10月

■大きさ：5～6cm、翅：8～9cm

新田西部及び草加川柳区域での確認数が最も多くなっているが、その他区域も全体的に確認されており、最も確認数の少なかったのは谷塚中央でした。年度ごとの確認数は横ばいとなっています。

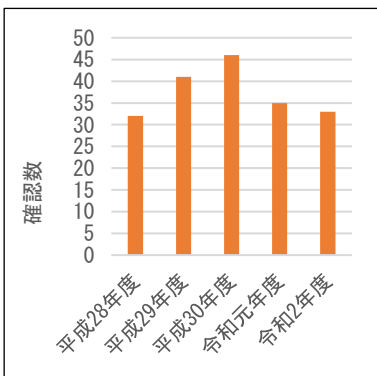
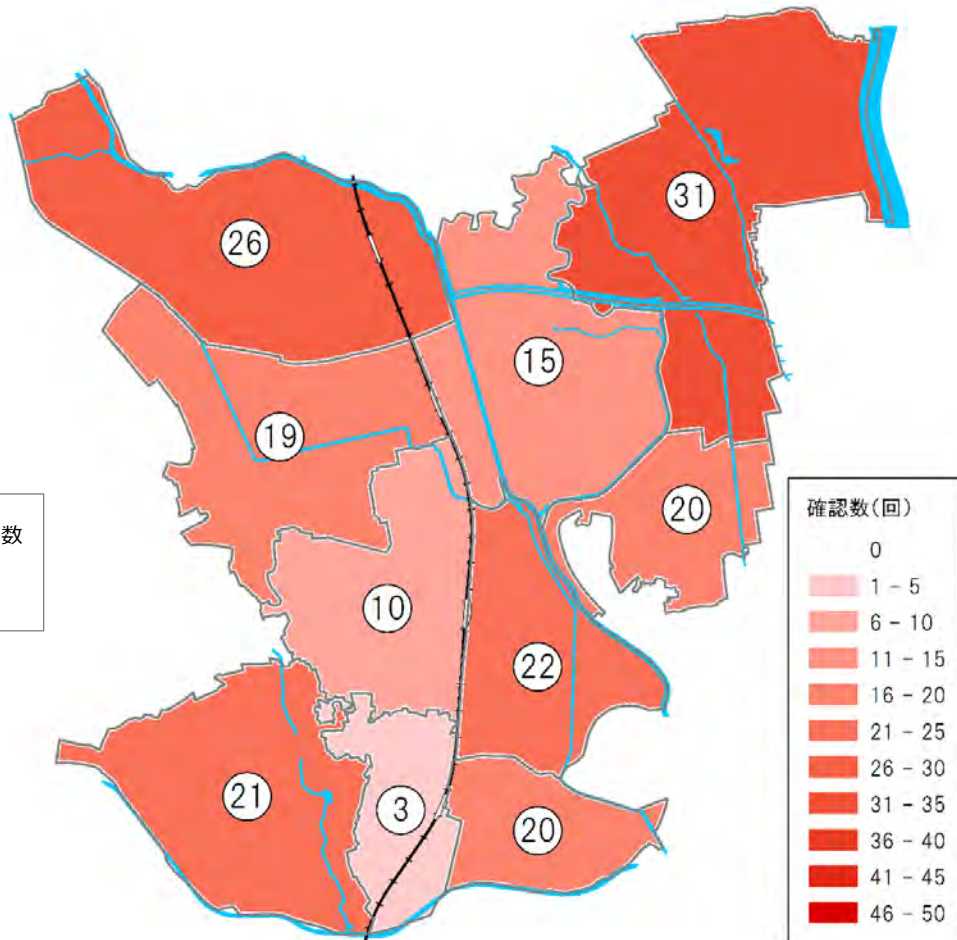


表3-④ 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	シオカラトンボ	4	4	4	4	4	20
2		2	0	1	0	0	3
3		5	6	5	2	3	21
4		3	4	6	4	5	22
5		3	2	2	2	1	10
6		3	4	5	4	4	20
7		1	4	5	3	2	15
8		4	6	6	5	5	26
9		4	7	8	6	6	31
10		3	4	4	5	3	19
合計		32	41	46	35	33	187

図3-④ 年度別確認数

④1 トノサマバッタ バッタ目バッタ科



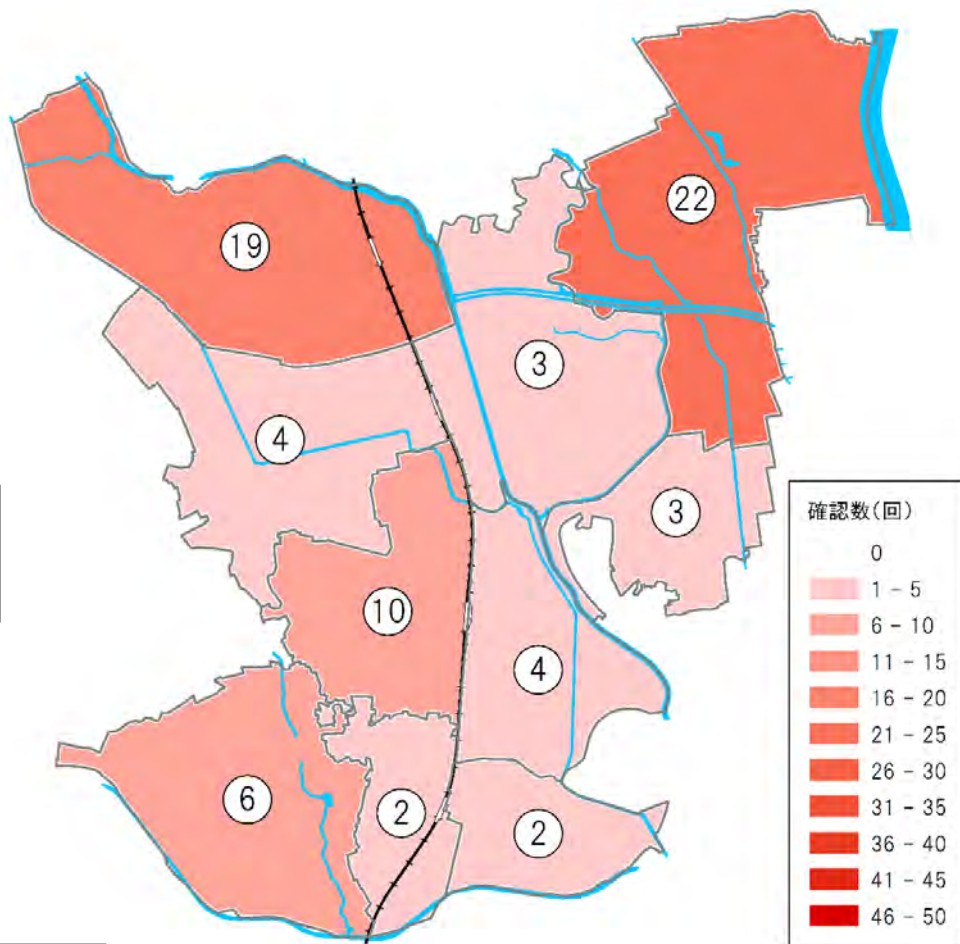
■概要：濃茶色と白色のまだら模様を持った大型のバッタです。空き地など開けた場所の地上にいます。ススキなど、イネ科の植物を好んで食べます。高い飛翔力を持つ^{ひしょうりょく}うえに、人の気配に敏感で、そばに近よるのが難しいバッタです。別名、ダイミョウバッタと呼ばれます。

■観察環境：河原や草地など

■観察時期：7～11月

■大きさ：3.5～7cm

新田西部及び草加川柳区域での確認数が最も多くなっており、市街化区域では少ない結果となりました。年度ごとの確認数は、減少傾向にあります



※○内の数値は確認数(回)を示します。

表3-④1 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	トノサマバッタ	1	0	0	0	1	2
2		2	0	0	0	0	2
3		3	2	1	0	0	6
4		1	3	0	0	0	4
5		5	4	0	1	0	10
6		2	1	0	0	0	3
7		3	0	0	0	0	3
8		4	4	4	4	3	19
9		3	6	6	6	1	22
10		2	1	1	0	0	4
合計		26	21	12	11	5	75

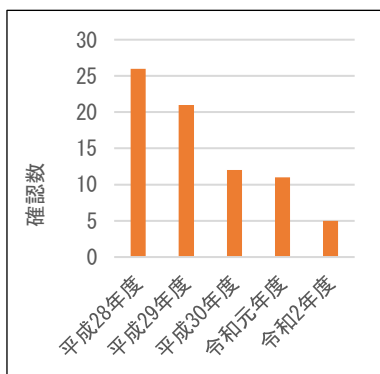


図3-④1 年度別確認数

④2 ニホンアマガエル 無尾目アマガエル科



■概要：鼻筋から目、耳にかけて褐色の太い帯が通っています。体色は腹側が白色で、背中側が黄緑色ですが、背中側は黒っぽいまだら模様の灰褐色にも変えることができます。皮膚はつるつるした粘膜に覆われており、体を細菌などから守るため毒が分泌されています。

■観察環境：公園や草地など

■観察時期：3～11月

■鳴き声：雨を察知すると「グエッグエッグエッ」と鳴きます

新田西部及び草加川柳区域での確認数が最も多くなっており、次いで草加稲荷区域となっています。他区域の確認数はその半分以上となりました。年度ごとの確認数は横ばいとなっています。

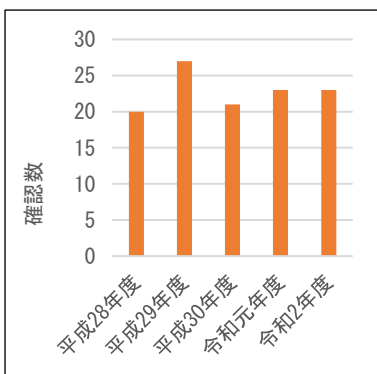
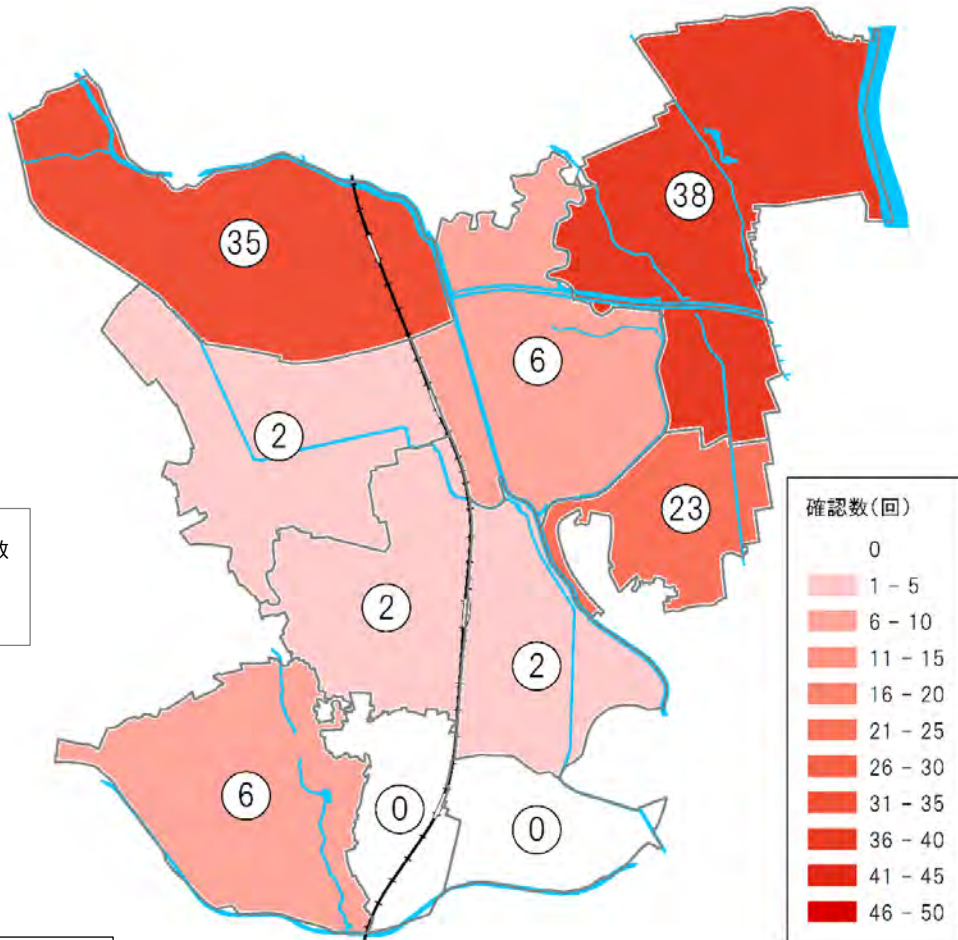


表3-④2 区域・年度別確認数一覧

区域	調査種	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	アマガエル	0	0	0	0	0	0
2		0	0	0	0	0	0
3		2	3	1	0	0	6
4		0	2	0	0	0	2
5		2	0	0	0	0	2
6		1	2	4	9	7	23
7		2	1	2	0	1	6
8		4	10	7	6	8	35
9		8	9	7	8	6	38
10		1	0	0	0	1	2
合計		20	27	21	23	23	114

図3-④2 年度別確認数

第4章 調査指標42種以外の生きものリスト

そうか生きもの調査では、原則、調査指標42種の調査をしていただいておりますが、調査指標以外の生きものも報告していただきました。

植物676種（うち木本類103種、草本類573種）、鳥類125種、昆虫・その他275種の順に、合計1,076種を五十音に掲載しています。

ただし、種の総称を報告していただいたものやいただいた報告だけでは同定が難しい種などの掲載は控えさせていただいております。なお、調査員の皆様からいただいた報告は記録として残しています。

1 植物（木本類）		【カ行】	
種名	科名		
【ア行】		カンツバキ	ツバキ
アオキ	ガリア	カンヒザクラ	バラ
アオツツラフジ	ツツラフジ	キツタ	ウコギ
アカメガシワ	トウダイグサ	キョウチクトウ	キョウチクトウ
アカメヤナギ	ヤナギ	キリ	キリ
アキグミ	グミ	キンシバイ	オトギリソウ
アキニレ	ニレ	キンモクセイ	モクセイ
アケビ	アケビ	クコ	ナス
アジサイ	アジサイ	クサギ	シソ
アセビ	ツツジ	クチナシ	アカネ
アベリア	スイカズラ	クマシデ	カバノキ
アメリカノウゼンカズラ	ノウゼンカズラ	クリ	ブナ
イイギリ	ヤナギ	クルメツツジ	ツツジ
イロハモミジ	ムクロジ	クワ	クワ
ウメ	バラ	コデマリ	バラ
エゴノキ	エゴノキ	コブシ	モクレン
エンジュ	マメ	【サ行】	
オオシマザクラ	バラ	ザクロ	ミソハギ
オニグルミ	クルミ	サザンカ	ツバキ
		サツキ	ツツジ
		サルスベリ	ミソハギ
		サワグルミ	クルミ

種名	科名
----	----

サンゴジュ	レンプクソウ
サンシュユ	ミズキ
シマトネリコ	モクセイ
シモツケ	バラ
シャリンバイ	バラ
ジュウガツザクラ	バラ
シロヤマブキ	バラ
ジンチョウゲ	ジンチョウゲ
スイカズラ	スイカズラ
スイフヨウ	アオイ
センダン	センダン
ソメイヨシノ	バラ

【タ行】

タイサンボク	モクレン
タマサンゴ	ナス
チャノキ	ツバキ
チョウジザクラ	バラ
テイカカズラ	キョウチクトウ
ドウダンツツジ	ツツジ
トウネズミモチ	モクセイ
トキワマンサク	マンサク
トサミズキ	マンサク

【ナ行】

ナギイカダ	キジカクシ
ナツグミ	グミ
ナツツバキ	ツバキ
ナンキンハゼ	トウダイグサ
ナンテン	メギ
ネコヤナギ	ヤナギ
ネズミモチ	モクセイ
ネムノキ	マメ

ノイバラ	バラ
ノウゼンカズラ	ノウゼンカズラ

【ハ行】

ハクチョウゲ	アカネ
ハクモクレン	モクレン
ハナミズキ	ミズキ
ハルニレ	ニレ
ヒサカキ	モッコク
ヒュウガミズキ	マンサク
ビヨウヤナギ	オトギリソウ
フサアカシア	マメ
フジ	マメ
フヨウ	アオイ
ブラシノキ	フトモモ
ボケ	バラ

【マ行】

マサキ	ニシキギ
マテバシイ	ブナ
マメガキ	カキノキ
マンサク	マンサク
ミツバアケビ	アケビ
ミツマタ	ジンチョウゲ
ムクゲ	アオイ
ムラサキシキブ	シソ
モクレン	モクレン
モチノキ	モチノキ
モモ	バラ

【ヤ行】

ヤツデ	ウコギ
ヤブツバキ	ツバキ
ヤマグワ	クワ
ヤマブキ	バラ

種名	科名
----	----

ヤマボウシ	ミズキ
ヤマモモ	ヤマモモ
ユキヤナギ	バラ
ユスラウメ	バラ

【ラ行】

レンギョウ	モクセイ
ロウバイ	ロウバイ

2 植物（草本類）

【ア行】

アイオオアカウキクサ	サンショウモ
アオウキクサ	サトイモ
アオカモジグサ	イネ
アオガヤツリ	カヤツリグサ
アオゲイトウ	ヒユ
アオスゲ	カヤツリグサ
アオチカラシバ	イネ
アオツツラフジ	ツツラフジ
アカカタバミ	カタバミ
アカザ	ヒユ
アカメガシワ	トウダイグサ
アキノウナギツカミ	タデ
アキノエノコログサ	イネ
アキノノゲシ	キク
アキメヒシバ	イネ
アサガオ	ヒルガオ
アサザ	ミツガシワ
アゼガヤツリ	カヤツリグサ
アゼスゲ	カヤツリグサ
アゼテンツキ	カヤツリグサ

アゼナ	アゼナ
アゼナルコ	カヤツリグサ
アマドコロ	キジカクシ
アマナ	ユリ
アメリカアサガオ	ヒルガオ
アメリカアゼナ	アゼナ
アメリカアリタソウ	ヒユ
アメリカイヌホオズキ	ナス
アメリカオニアザミ	キク
アメリカスズメノヒエ	イネ
アメリカセンダングサ	キク
アメリカタカサブロウ	キク
アメリカフウロ	フウロソウ
アヤメ	アヤメ
アライトツメクサ	ナデシコ
アリタソウ	ヒユ
アレチウリ	ウリ
アレチギシギシ	タデ
アレチヌスビトハギ	マメ
アレチノギク	キク
アレチハナガサ	クマツヅラ
イグサ	イグサ
イシミカワ	タデ
イタドリ	タデ
イチゴツナギ	イネ
イチビ	アオイ
イチョウウキゴケ	ウキゴケ
イトモ	ヒルムシロ
イヌカキネガラシ	アブラナ
イヌガラシ	アブラナ
イヌコウジュ	シソ
イヌコハコベ	ナデシコ
イヌゴマ	シソ
イヌサフラン科	イヌサフラン
イヌタデ	タデ

種名	科名
----	----

イヌナズナ	アブラナ
イヌビエ	イネ
イヌビユ	ヒユ
イヌホオズキ	ナス
イヌムギ	イネ
イノコズチ	ヒユ
イノモトソウ	イノモトソウ
イボクサ	ツユクサ
イモカタバミ	カタバミ
イワダレソウ属	クマツヅラ
ウキクサ	サトイモ
ウサギアオイ	アオイ
ウシノシッペイ	イネ
ウシハコベ	ナデシコ
ウスゲチョウジタデ	アカバナ
ウスベニアオイ	アオイ
ウチワゼニクサ	ウコギ
ウマスゲ	カヤツリグサ
ウマノスズクサ	ウマノスズクサ
ウマノチャヒキ	イネ
ウラジロアカザ	ヒユ
ウラジロチチコグサ	キク
エゾノギシギシ	タデ
エノキグサ	トウダイグサ
エノコログサ	イネ
オオアマナ	クサスギカズラ
オオアレチノギク	キク
オオアワガエリ	イネ
オオイヌタデ	タデ
オオイヌノフグリ	オオバコ
オオイヌホオズキ	ナス
オオエノコロ	イネ
オオオナモミ	キク

オオカナダモ	トチカガミ
オオカワヂシャ	オオバコ
オオキバナカタバミ	カタバミ
オオキンケイギク	キク
オオクサキビ	イネ
オオケタデ	タデ
オオジシバリ	キク
オオスズメノカタビラ	イネ
オオセンナリ	ナス
オオトキワツユクサ	ツユクサ
オオニシキソウ	トウダイグサ
オオバコ	オオバコ
オオブタクサ	キク
オオマツヨイグサ	アカバナ
オオトラノオ	サクラソウ
オカルガヤ	イネ
オギ	イネ
オキジムシロ	バラ
オキナグサ	キンポウゲ
オジギソウ	マメ
オシロイバナ	オシロイバナ
オッタチカタバミ	カタバミ
オトメフウロ	フウロソウ
オドリコソウ	シソ
オナモミ	キク
オニウシノケグサ	イネ
オニタビラコ	キク
オニドコロ	ヤマノイモ
オニノゲシ	キク
オニノヤガラ	ラン
オハツキガラシ	アブラナ
オヒシバ	イネ
オヘビイチゴ	バラ
オミナエシ	スイカズラ
オモダカ	オモダカ

種名	科名
----	----

オヤブジラミ	セリ
オランダガラシ	アブラナ
オランダミミナグサ	ナデシコ
【カ行】	
ガガイモ	キョウチクトウ
カキドオシ	シソ
カキネガラシ	アブラナ
カサスゲ	カヤツリグサ
カズノコグサ	イネ
カスマグサ	マメ
カゼクサ	イネ
カタバミ類	カタバミ
カナムグラ	アサ
カニクサ	カニクサ
カニツリグサ	イネ
ガマ	ガマ
カモガヤ	イネ
カモジグサ	イネ
カヤツリグサ	カヤツリグサ
カラクサシュンギク	キク
カラクサナズナ	アブラナ
カラシナ	アブラナ
カラスウリ	ウリ
カラスノエンドウ	マメ
カラスノゴマ	アオイ
カラスビシャク	サトイモ
カラスムギ	イネ
カラムシ	イラクサ
カワヂシャ	オオバコ
カワラスガナ	カヤツリグサ
カワラニンジン	キク
カンエンガヤツリ	カヤツリグサ

カンガレイ	カヤツリグサ
カンスゲ	カヤツリグサ
カンナ	カンナ
キカラスウリ	ウリ
キキョウ	キキョウ
キキョウソウ	キキョウ
キクイモ	キク
キクイモモドキ	キク
キクザキイチゲ	キンポウゲ
キクノハアオイ	アオイ
キクモ	オオバコ
ギシギシ	タデ
キシヨウブ	アヤメ
キジョラン	キョウチクトウ
キツネアザミ	キク
キツネノボタン	キンポウゲ
キツネノマゴ	キツネノマゴ
キバナオドリコソウ	シソ
キバナコスモス	キク
キバナヒメフウチョウ	フウチョウソウ
ギボウシ類	キジカクシ
キュウリグサ	ムラサキ
ギョウギシバ	イネ
キラソウ	シソ
キンエノコロ	イネ
キンゴジカ	アオイ
キンミズヒキ	バラ
クサイ	イグサ
クサソテツ	コウヤワラビ
クサネム	マメ
クサノオウ	ケシ
クサヨシ	イネ
クズ	マメ
クスダマツメクサ	マメ
クマツヅラ	クマツヅラ

種名	科名
----	----

クルマバザクロソウ	ザクロソウ
クワイ	オモダカ
クワクサ	クワ
グンバイナズナ	アブラナ
ケアリタソウ	ヒユ
ケイトウ	ヒユ
ケイヌビエ	イネ
ケキツネノボタン	キンポウゲ
ケチヂミザサ	イネ
ケチヨウセンアサガオ	ナス
ゲンノショウコ	フウロソウ
コアカザ	ヒユ
コイヌガラシ	アブラナ
コウガイゼキショウ	イグサ
ゴウシュウアリタソウ	ヒユ
コウゾリナ	キク
コウホネ	スイレン
コオニタビラコ	キク
コカナダモ	トチカガミ
コガネギシギシ	タデ
コガマ	ガマ
コギシギシ	タデ
ゴキヅル	ウリ
コゴメガヤツリ	カヤツリグサ
コシナガワハギ	マメ
コシロネ	シソ
コシロノセンダングサ	キク
コスズメガヤ	イネ
コスミレ	スミレ
コスモス	キク
コセンダングサ	キク
コタネツケバナ	アブラナ
コツブキンエノコロ	イネ

コナギ	ミズアオイ
コナスビ	サクラソウ
コニシキソウ	トウダイグサ
コヌカグサ	イネ
コハコベ	ナデシコ
コバナキジムシロ	バラ
コバンソウ	イネ
コヒルガオ	ヒルガオ
コブナグサ	イネ
コマツヨイグサ	アカバナ
コミカンソウ	コミカンソウ
コメツブウマゴヤシ	マメ
コメツブツメクサ	マメ
コメヒシバ	イネ
コモチマンネングサ	ベンケイソウ

【サ行】

サギゴケ	サギゴケ
サクラマンテマ	ナデシコ
ザクロソウ	ザクロソウ
ササガヤ	イネ
サジオモダカ	オモダカ
ザゼンソウ	サトイモ
サデクサ	タデ
サナエタデ	タデ
サフランモドキ	ヒガンバナ
サンカクイ	カヤツリグサ
シオン	キク
シシウド	セリ
ジシバリ	キク
シナガワハギ	マメ
シナダレスズメガヤ	イネ
シマスズメノヒエ	イネ
シャガ	アヤメ
シャクチリソバ	タデ

種名	科名
----	----

ジャノヒゲ	キジカクシ
シュウカイドウ	シュウカイドウ
ジュウニヒトエ	シソ
シュウメイギク	キンポウゲ
ジュズダマ	イネ
シュロガヤツリ	カヤツリグサ
ショウジョウソウ	トウダイグサ
ショウブ	ショウブ
ショカツサイ	アブラナ
シラン	ラン
シロイヌナズナ	アブラナ
シロザ	ヒユ
シロツメクサ	マメ
シロバナサクラタデ	タデ
シロバナタンポポ	キク
スイセン	ヒガンバナ
スイセンノウ	ナデシコ
スイバ	タデ
スイレン	スイレン
スカシタゴボウ	アブラナ
スギナ (ツクシ)	トクサ
ススキ	イネ
スズメウリ	ウリ
スズメガヤ	イネ
スズメノエンドウ	マメ
スズメノカタビラ	イネ
スズメノチャヒキ	イネ
スズメノテッポウ	イネ
スズメノヒエ	イネ
スズメノヤリ	イグサ
スズラン	キジカクシ
スベリヒユ	スベリヒユ
セイタカアワダチソウ	キク

セイタカハハコグサ	キク
セイバンモロコシ	イネ
セイヨウアブラナ	アブラナ
セイヨウウツボグサ	シソ
セイヨウオオバコ	オオバコ
セイヨウカラシナ	アブラナ
セイヨウジュウニヒトエ	シソ
セイヨウヒキヨモギ	ゴマノハグサ
セイヨウヒルガオ	ヒルガオ
セッカニワゼキショウ	アヤメ
ゼニアオイ	アオイ
ゼニバアオイ	アオイ
セリ	セリ
センダングサ	キク
センニチノゲイトウ	ヒユ
センニンソウ	キンポウゲ
ソバ	タデ

【タ行】

ダイコンソウ	バラ
タイヌビエ	イネ
タウコギ	キク
タカサゴユリ	ユリ
タガラシ	キンポウゲ
タケニグサ	ケシ
タコノアシ	タコノアシ
タタラカンガレイ	カヤツリグサ
タチアオイ	アオイ
タチイヌノフグリ	オオバコ
タチスズメノヒエ	イネ
タチチチコグサ	キク
タチツボスミレ	スミレ
タツナミソウ	シソ
タネツケバナ	アブラナ
タマガヤツリ	カヤツリグサ

種名	科名
----	----

タマサンゴ	ナス
タマスダレ	ヒガンバナ
ダンドボロギク	キク
チガヤ	イネ
チカラシバ	イネ
チゴザサ	キク
チチコグサ	キク
チチコグサモドキ	キク
チドメグサ	ウコギ
チャガヤツリ	カヤツリグサ
チョウジタデ	アカバナ
チョウセンアサガオ	ナス
ツタバウンラン	オオバコ
ツボミオオバコ	オオバコ
ツメクサ	ナデシコ
ツルニチニチソウ	キョウチクトウ
ツルボ	キジカクシ
ツルマメ	マメ
ツルマンネングサ	ベンケイソウ
テンツキ	カヤツリグサ
トウダイグサ	トウダイグサ
トウバナ	シソ
トキワツユクサ	ツユクサ
トキワハゼ	サギゴケ
トキンソウ	キク
ドクダミ	ドクダミ

【ナ行】

ナガバギシギシ	タデ
ナガハグサ	イネ
ナガボノアカワレモコウ	バラ
ナガボノシロワレモコウ	バラ
ナガミヒナゲシ	ケシ

ナズナ	アブラナ
ナツズイセン	ヒガンバナ
ナデシコ	ナデシコ
ナヨクサフジ	マメ
ナルコビエ	イネ
ナワシロイチゴ	バラ
ニガナ	キク
ニシキソウ	トウダイグサ
ニラ	ヒガンバナ
ニワゼキショウ類	アヤメ
ニワホコリ	イネ
ヌカキビ	イネ
ヌスビトハギ	マメ
ヌマトラノオ	サクラソウ
ネコハギ	マメ
ネジバナ	ラン
ネズミノオ	イネ
ネズミムギ	イネ
ノアサガオ	ヒルガオ
ノアザミ	キク
ノイバラ	バラ
ノウルシ	トウダイグサ
ノカンゾウ	ススキノキ
ノキシノブ	ウラボシ
ノゲシ	キク
ノヂシャ	スイカズラ
ノハカタカラクサ	ツユクサ
ノハラナデシコ	ナデシコ
ノビル	ヒガンバナ
ノブドウ	ブドウ
ノボロギク	キク
ノミノツヅリ	ナデシコ
ノミノフスマ	ナデシコ

種名	科名
----	----

【ハ行】

ハイアオイ	アオイ
ハイミチヤナギ	タデ
ハキダメギク	キク
ハゴロモモ	ジュンサイ
ハス	ハス
ハゼラン	ハゼラン
ハタケニラ	ヒガンバナ
ハタザオガラシ	アブラナ
ハナイバナ	ムラサキ
ハナカタバミ	カタバミ
ハナショウブ	アヤメ
ハナダイコン	アブラナ
ハナタデ	タデ
ハナトラノオ	シソ
ハナニラ	ヒガンバナ
ハナハッカ	シソ
ハナヤエムグラ	アカネ
ハハコグサ	キク
ハマスゲ	カヤツリグサ
ハラン	キジカクシ
ハルジオン	キク
ハルシャギク	キク
ハンゲショウ	ドクダミ
ハンゴンソウ	キク
ヒエ	イネ
ヒエガエリ	イネ
ヒガンバナ	ヒガンバナ
ヒゲシバ	イネ
ヒシ	ミソハギ
ヒデリコ	カヤツリグサ
ヒナガヤツリ	カヤツリグサ
ヒナキキョウソウ	キキョウ

ヒナタイノコズチ	ヒユ
ヒマワリ	キク
ヒメイワダレソウ	クマツヅラ
ヒメウズ	キンポウゲ
ヒメオドリコソウ	シソ
ヒメガマ	ガマ
ヒメカンスゲ	カヤツリグサ
ヒメキンセンカ	キク
ヒメクグ	カヤツリグサ
ヒメコバンソウ	イネ
ヒメサルダヒコ	シソ
ヒメジソ	シソ
ヒメジョオン	キク
ヒメスイバ	タデ
ヒメスマレ	スマレ
ヒメツルソバ	タデ
ヒメヒオウギズイセン	アヤメ
ヒメフウロ	フウロソウ
ヒメマツバボタン	スベリヒユ
ヒメミカンソウ	コミカンソウ
ヒメミズワラビ	イノモトソウ
ヒメムカシヨモギ	キク
ヒメムツオレガヤツリ	カヤツリグサ
ヒメリュウキンカ	キンポウゲ
ビヨウヤナギ	オトギリソウ
ヒヨドリジョウゴ	ナス
ヒルガオ	ヒルガオ
ヒルザキツキミソウ	アカバナ
ヒレタゴボウ	アカバナ
ヒレハリソウ	ムラサキ
ビロードモウズイカ	ゴマノハグサ
ヒロハウシノケグサ	イネ
ヒロハホウキギク	キク
フウセンカズラ	ムクロジ
フキ	キク

種名	科名
----	----

フクジュソウ	キンポウゲ
ブタクサ	キク
ブタナ	キク
フトイ	カヤツリグサ
フユアオイ	アオイ
フヨウカタバミ	カタバミ
フラサバソウ	オオバコ
ブラジルコミカンソウ	コミカンソウ
ヘクソカズラ	アカネ
ベニバナボロギク	キク
ヘビイチゴ	バラ
ヘラオオバコ	オオバコ
ヘラオモダカ	オモダカ
ヘラバヒメジョオン	キク
ペラペラヨメナ	キク
ハウキギク	キク
ホオズキ	ナス
ホシアサガオ	ヒルガオ
ホソアオゲイトウ	ヒユ
ホソエガラシ	アブラナ
ホソバオオアマナ	キジカクシ
ホソバヒメミソハギ	ミソハギ
ホソミキンガヤツリ	カヤツリグサ
ホソムギ	イネ
ホタルイ	カヤツリグサ
ホタルブクロ	キキョウ
ボタンクサギ	シソ
ホテイアオイ	ミズアオイ
ホトケノザ	シソ
ホトトギス	ユリ
ホナガイヌビユ	ヒユ

【マ行】

マコモ	イネ
マスクサ	カヤツリグサ
マツカサススキ	カヤツリグサ
マツバウンラン	オオバコ
マツバゼリ	セリ
マツモ	マツモ
マツヨイグサ	アカバナ
ママコノシリヌグイ	タデ
マメアサガオ	ヒルガオ
マメカミツレ	キク
マメグンバイナズナ	アブラナ
マルバアサガオ	ヒルガオ
マルバアメリカアサガオ	ヒルガオ
マルバツユクサ	ツユクサ
マルバハッカ	シソ
マルバマンネングサ	ベンケイソウ
マルバルコウ	ヒルガオ
マンテマ	ナデシコ
マンネングサ類	ベンケイソウ
ミコシガヤ	カヤツリグサ
ミズアオイ	ミズアオイ
ミズオオバコ	トチカガミ
ミズハコベ	オオバコ
ミズハナビ	カヤツリグサ
(ヒメガヤツリ)	
ミズヒキ	タデ
ミゾカクシ	キキョウ
ミソハギ	ミソハギ
ミチタネツケバナ	アブラナ
ミチヤナギ	タデ
ミツバアケビ	アケビ
ミドリハカタカラクサ	ツユクサ
ミドリハコベ	ナデシコ
ミノボロ	イネ

種名	科名
----	----

ミノボロモドキ	イネ
ミヤマナルコユリ	キジカクシ
ムギクサ	イネ
ムシクサ	オオバコ
ムシトリナデシコ	ナデシコ
ムスカリ	キジカクシ
ムラサキカタバミ	カタバミ
ムラサキケマン	ケシ
ムラサキサギゴケ	サギゴケ
ムラサキツメクサ	マメ
ムラサキツユクサ	ツユクサ
ムラサキネズミノオ	イネ
メキシコマンネングサ	ベンケイソウ
メグサハッカ	シソ
メドハギ	マメ
メハジキ	シソ
メヒシバ	イネ
メマツヨイグサ	アカバナ
メリケンガヤツリ	カヤツリグサ
メリケンカルカヤ	イネ
モトタカサブロウ	キク
モミジバヒメオドリコソウ	シソ

【ヤ行】

ヤエムグラ	アカネ
ヤガミスゲ	カヤツリグサ
ヤセウツボ	ハマウツボ
ヤナギタデ	タデ
ヤナギハナガサ	クマツヅラ
ヤナギバルイラソウ	キツネノマゴ
ヤノネボンテンカ	アオイ
ヤハズソウ	マメ
ヤブカラシ	ブトウ

ヤブカンゾウ	ススキノキ
ヤブジラミ	セリ
ヤブタビラコ	キク
ヤブツルアズキ	マメ
ヤブニンジン	セリ
ヤブヘビイチゴ	バラ
ヤブマオ	イラクサ
ヤブマメ	マメ
ヤブミョウガ	ツユクサ
ヤブラン	キジカクシ
ヤマノイモ	ヤマノイモ
ヤマブドウ	ブドウ
ヤワラスゲ	カヤツリグサ
ユウゲショウ	アカバナ
ユキノシタ	ユキノシタ
ヨウシュヤマゴボウ	ヤマゴボウ
ヨシ	イネ
ヨツバヒヨドリ	キク
ヨモギ	キク

【ラ行】

ランタナ	クマツヅラ
リュウノヒゲ	キジカクシ
ルコウソウ	ヒルガオ
ルリハコベ	サクラソウ

【ワ行】

ワスレナグサ属	ムラサキ
ワルナスビ	ナス
ワレモコウ	バラ

3 鳥類

種名	科名
----	----

【ア行】

アオサギ	サギ
アオジ	ホオジロ
アオバト	ハト
アカウソ	アトリ
アカエリカイツブリ	カイツブリ
アカゲラ	キツツキ
アカハラ	ヒタキ
アトリ	アトリ
アマサギ	サギ
アマツバメ	アマツバメ
アメリカヒドリ	カモ
アリスイ	キツツキ
イカル	アトリ
イカルチドリ	チドリ
イソシギ	シギ
イソヒヨドリ	ヒタキ
ウグイス	ウグイス
ウミネコ	カモメ
エゾビタキ	ヒタキ
エゾムシクイ	ムシクイ
エナガ	エナガ
エリマキシギ	シギ
オオジュリン	ホオジロ
オオタカ	タカ
オオバン	クイナ
オオムシクイ	ムシクイ
オオルリ	ヒタキ
オカヨシガモ	カモ
オシドリ	カモ
オジロビタキ	ヒタキ

オナガガモ

カモ

【カ行】

カイツブリ	カイツブリ
カケス	カラス
カシラダカ	ホオジロ
カッコウ	カッコウ
ガビチョウ	チメドリ
カワウ	ウ
カワラヒワ	アトリ
カンムリカイツブリ	カイツブリ
キアシシギ	シギ
ククイタダキ	ククイタダキ
キジ	キジ
キセキレイ	セキレイ
キビタキ	ヒタキ
キレンジャク	レンジャク
キンクロハジロ	カモ
クイナ	クイナ
クサシギ	シギ
クロジ	ホオジロ
クロツグミ	ヒタキ
クロハラアジサシ	カモメ
ケリ	チドリ
コアジサシ	カモメ
ゴイサギ	サギ
コガモ	カモ
コサメビタキ	ヒタキ
コチドリ	チドリ
コミミズク	フクロウ
コムクドリ	ムクドリ
コルリ	ヒタキ

種名	科名
----	----

【サ行】

サシバ	タカ
サメビタキ	ヒタキ
サンコウチョウ	カササギヒタキ
サンショウクイ	サンショウクイ
シマアジ	カモ
シメ	アトリ
ジョウビタキ	ヒタキ
シロハラ	ヒタキ
スズガモ	カモ
スズメ	スズメ
セグロカモメ	カモメ
セグロセキレイ	セキレイ
セッカ	セッカ
センダイムシクイ	ムシクイ
ソウシチョウ	チメドリ

【タ行】

ダイサギ	サギ
タゲリ	チドリ
タシギ	シギ
タヒバリ	セキレイ
チュウサギ	サギ
チュウシャクシギ	シギ
チュウヒ	タカ
チョウゲンボウ	ハヤブサ
ツツドリ	カッコウ
ツミ	タカ
トウネン	シギ
ドバト (カワラバト)	ハト
トビ	タカ
トモエガモ	カモ
トラツグミ	ヒタキ

【ナ行】

ノゴマ	ヒタキ
ノスリ	タカ
ノビタキ	ヒタキ

【ハ行】

ハイタカ	タカ
ハシビロガモ	カモ
ハシブトガラス	カラス
ハシボソカラス	カラス
ハチジョウツグミ	ヒタキ
ハヤブサ	ハヤブサ
バン	クイナ
ヒガラ	シジュウカラ
ヒクイナ	クイナ
ヒドリガモ	カモ
ヒバリ	ヒバリ
ヒヨドリ	ヒヨドリ
ビンズイ	セキレイ
ベニマシコ	アトリ
ホオアカ	ホオジロ
ホオジロ	ホオジロ
ホシハジロ	カモ
ホトトギス	カッコウ

【マ行】

マガモ	カモ
マヒワ	アトリ
マミチャジナイ	ヒタキ
ミコアイサ	カモ
ミサゴ	ミサゴ
ムクドリ	ムクドリ
ムナグロ	チドリ
メボソムシクイ	ムシクイ

種名	科名
----	----

【ヤ行】

ヤマガラ	シジュウカラ
ヤマシギ	シギ
ユリカモメ	カモメ
ヨシガモ	カモ

【ラ行】

ルリビタキ	ヒタキ
-------	-----

【ワ行】

ワカケホンセイインコ	インコ
------------	-----

4 昆虫・その他

【ア行】

アオイトトンボ	アオイトトンボ
アオオビハエトリ	ハエトリグモ
アオクサカメムシ	カメムシ
アオダイショウ	ナビヘビ
アオドウガネ	コガネムシ
アオハダトンボ	カワトンボ
アオバハゴロモ	アオバハゴロモ
アオマツムシ	コオロギ
アオメアブ	ムシヒキアブ
アオモンイトトンボ	イトトンボ
アカエグリバ	ヤガ
アカガネコハナバチ	コハナバチ
アカサシガメ	サシガメ
アカシジミ	シジミチョウ
アカスジカメムシ	カメムシ
アカスジキンカメムシ	キンカメムシ
アカタテハ	タテハチョウ

アカハラゴマダラヒトリ	ヒトリガ
アカビロウドコガネ	コガネムシ
アカホシテントウ	テントウムシ
アキアカネ	トンボ
アケビコノハ	ヤガ
アサギマダラ	タテハチョウ
アサマシジミ	シジミチョウ
アジアイトトンボ	イトトンボ
アシナガグモ	アシナガグモ
アズマヒキガエル	ヒキガエル
アダンソンハエトリ	ハエトリグモ
アブラコウモリ	ヒナコウモリ
アブラゼミ	ゼミ
アミガサハゴロモ	ハゴロモ
アミメアリ	アリ
アメリカザリガニ	アメリカザリガニ
アメリカジガバチ	アナバチ
アメリカシロヒトリ	ヒトリガ
アメリカミズアブ	ミズアブ
アメンボ	アメンボ
アリグモ	ハエトリグモ
アワダチソウグンバイ	グンバイムシ
イエオニグモ	コガネグモ
イセリアカイガラムシ	ワタフキカイガラムシ
イチモンジセセリ	セセリチョウ
イチモンジチョウ	タテハチョウ
イトカメムシ	イトカメムシ
イボバッタ	バッタ
イラガ	イラガ
イラガセイボウ	セイボウ
ウシガエル	アカガエル
ウスイロササキリ	キリギリス
ウスカワマイマイ	オナジマイマイ
ウスバカゲロウ	ウスバカゲロウ
ウスバキトンボ	トンボ

種名	科名
----	----

ウチワヤンマ	サナエトンボ
ウマオイ	キリギリス
ウメスカシクロバ	マダラガ
ウラギンシジミ	シジミチョウ
ウラギンヒョウモン	タテハチョウ
ウラナミアカシジミ	シジミチョウ
ウラナミシジミ	シジミチョウ
ウリハムシ	ハムシ
エビガラスズメ	スズメガ
エンマコオロギ	コオロギ
オオアオイトトンボ	アオイトトンボ
オオイトトンボ	イトトンボ
オオクチバス	サンフイッシュ
オオクモヘリカメムシ	ヘリカメムシ
オオシオカラトンボ	トンボ
オオスカシバ	スズメガ
オオスズメバチ	スズメバチ
オオチャバネセセリ	セセリチョウ
オオハキリバチ	ハキリバチ
オオハナアブ	ハナアブ
オオミズアオ	ヤママユガ
オオモノサシトンボ	モノサシトンボ
オオヤマトンボ	エゾトンボ
オオヨコバイ	ヨコバイ
オカダンゴムシ	オカダンゴムシ
オツネトンボ	アオイトトンボ
オニグモ	コガネグモ
オニヤンマ	オニヤンマ
オンブバッタ	オンブバッタ
【カ行】	
カダヤシ	カダヤシ
カナブン	コガネムシ

カネタタキ	カネタタキ
カノコガ	ヒトリガ
カバキコマチグモ	フクログモ
カブトエビ	カブトエビ
カラスアゲハ	アゲハチョウ
カワラバッタ	バッタ
カンタン	コオロギ
キアゲハ	アゲハチョウ
キイトトンボ	イトトンボ
キイロテントウ	テントウム
キタキチョウ	シロチョウ
キタテハ	タテハチョウ
キボシカミキリ	カミキリムシ
キマダラカメムシ	カメムシ
キマダラセセリ	セセリチョウ
ギンブナ	コイ
ギンヤンマ	ヤンマ
クサガメ	イシガメ
クサギカメムシ	カメムシ
クサキリ	キリギリス
クサグモ	タナグモ
クツワムシ	キリギリス
クビアカツヤカミキリ	カミキリムシ
クビキリギス	キリギリス
クマネズミ	ネズミ
クマバチ	ミツバチ
クロアゲハ	アゲハチョウ
クロアナバチ	アナバチ
クロイトトンボ	イトトンボ
クロウリハムシ	ハムシ
クロゴキブリ	ゴキブリ
クロスジギンヤンマ	ヤンマ
クロベンケイガニ	イワガニ
クワカミキリ	カミキリムシ
ケブカスズメバチ	スズメバチ

種名	科名
----	----

ケラ	ケラ
ゲンゴロウブナ	コイ
コアオハナムグリ	コガネムシ
コイ	コイ
ゴイシジミ	シジミチョウ
コガネグモ	コガネグモ
コガネムシ	コガネムシ
コカマキリ	カマキリ
コクヌストモドキ	ゴミムシダマシ
コクワガタ	クワガタムシ
コシアキトンボ	トンボ
コジャノメ	タテハチョウ
コチャバネセセリ	セセリチョウ
コバネイナゴ	バッタ
コフキトンボ	トンボ
ゴマダラカミキリ	カミキリムシ
ゴマダラチョウ	タテハチョウ
ゴミグモ	コガネグモ
コミスジ	タテハチョウ
コムラサキ	タテハチョウ

【サ行】

サカマキガイ	サカマキガイ
ササグモ	ササグモ
サトキマダラヒカゲ	タテハチョウ
シオヤアブ	ムシヒキアブ
ジグモ	ジグモ
シマヘビ	ナビヘビ
ジャコウアゲハ	アゲハチョウ
ショウジョウトンボ	トンボ
ショウリョウバッタ	バッタ
ショウリョウバッタモドキ	バッタ
ジョロウグモ	ジョロウグモ

シラヒゲハエトリ	ハエトリグモ
シロテンハナムグリ	コガネムシ
シロホシテントウ	テントウムシ
スジエビ	テナガエビ
スズキ	スズキ
スズムシ	コオロギ
スッポン	スッポン
セイタカアワダチソウヒ	アブラムシ
ゲナガアブラムシ	
セイヨウミツバチ	ミツバチ
セグロアシナガバチ	スズメバチ
セスジイトトンボ	イトトンボ
セスジスズメ	スズメガ
セスジツユムシ	キリギリス
セマダラコガネ	コガネムシ
ソウギョ	コイ

【タ行】

タイリクバラタナゴ	コイ
タケノホソクロバ	マダラガ
タマムシ	タマムシ
チャドクガ	ドクガ
チャバネアオカメムシ	カメムシ
チャバネセセリ	セセリチョウ
チョウセンカマキリ	カマキリ
チョウトンボ	トンボ
ツチイナゴ	イナゴ
ツツレサセコオロギ	コオロギ
ツバメシジミ	シジミチョウ
ツマキチョウ	シロチョウ
ツヤアオカメムシ	カメムシ
ツユムシ	キリギリス
テナガエビ	テナガエビ
テングチョウ	タテハチョウ
トウキョウダルマガエル	アカガエル

種名	科名
----	----

トノサマガエル	アカガエル
トノサマバッタ	バッタ
トビイロシワアリ	アリ
ドブガイ	イシガイ
ドヨウオニグモ	コガネグモ
トラフシジミ	シジミチョウ

【ナ行】

ナガコガネグモ	コガネグモ
ナガメ	カメムシ
ナツアカネ	トンボ
ナナホシテントウ	テントウムシ
ナマズ	ナマズ
ナミテントウ	テントウムシ
ニゴイ	コイ
ニジュウヤホシテントウ	テントウムシ
ニホンイシガメ	イシガメ
ニホンイタチ	イタチ
ニホンカナヘビ	カナヘビ
ニホンカブラハバチ	ハバチ
ニホンヤモリ	ヤモリ
ノコギリクワガタ	クワガタムシ
ノシメトンボ	トンボ

【ハ行】

ハクビシン	ジャコウネコ
ハクレン	コイ
ハグロトンボ	カワトンボ
ハサミムシ	ハサミムシ
ハナグモ	カニグモ
ハネナガイナゴ	バッタ
ハラオカメコオロギ	コオロギ
ハラビロカマキリ	カミキリ

ハラビロトンボ	トンボ
ハリブトシリアゲアリ	アリ
ヒカゲチョウ	タテハチョウ
ヒグラシ	セミ
ヒシバッタ	ヒシバッタ
ヒトスジシマカ	カ
ヒトリガ	ヒトリガ
ヒバカリ	ナミヘビ
ヒメアカタテハ	タテハチョウ
ヒメクロホウジャク	スズメガ
ヒメジャノメ	タテハチョウ
ヒラタクワガタ	クワガタムシ
ビロウドハマキ	ハマキガ
フタモンアシナガバチ	スズメバチ
フナ	コイ
ブルーギル	サンフイッシュ
ベニシジミ	シジミチョウ
ベニスズメ	スズメガ
ベンケイガニ	ベンケイガニ
ハウネンエビ	ハウネンエビ
ホオズキカメムシ	ヘリカメムシ
ボクトウガ	ボクトウガ
ホシハラビロヘリカメムシ	ヘリカメムシ
ホシホウジャク	スズメガ
ホソヒラタアブ	ハナアブ
ホソヘリカメムシ	ホソヘリカメムシ
ホソミオツネトンボ	アオイトトンボ
ホタルガ	マダラガ
ボラ	ボラ
ホンドタヌキ	イヌ

【マ行】

マイマイガ	ドクガ
マエアカスカシノメイガ	メイガ
マダラスズ	コオロギ

種名	科名
----	----

マダラバッタ	バッタ
マツモムシ	マツモムシ
マハゼ	ハゼ
マミジロハエトリ	ハエトリグモ
マメコガネ	コガネムシ
マメハンミョウ	ツチハンミョウ
マルカメムシ	マルカメムシ
ミシシippiaアカミミガメ	ヌマガメ
ミズイロオナガシジミ	シジミチョウ
ミズオオトカゲ	オオトカゲ
ミスジチョウ	タテハチョウ
ミツカドコオロギ	コオロギ
ミナミメダカ	メダカ
ミヤマアカネ	トンボ
ミヤマカラスアゲハ	アゲハチョウ
ミンミンゼミ	ゼミ
ムラサキシジミ	シジミチョウ
ムラサキツバメ	シジミチョウ
モクスガニ	イワガニ
モツゴ	コイ
モンキアゲハ	アゲハチョウ
モンキチョウ	シロチョウ
モンシロチョウ	シロチョウ
モンシロドクガ	ドクガ

【ヤ行】

ヤマトシジミ	シジミチョウ
ヨコズナサシガメ	サシガメ
ヨトウガ	ヤガ
ヨモギハムシ	ハムシ

【ラ行】

ライギョ	タイワンドジョウ
ルリシジミ	シジミチョウ
ルリタテハ	タテハチョウ

【ワ行】

ワスレナグモ	ジグモ
--------	-----

■ 謝辞

本冊子を作成するにあたり、そうか生きもの調査員の皆さまから多くの報告をいただきました。また、そうか生きもの調査運営委員の皆さまからは写真提供や編集等、多大なご協力をいただきました。御礼申し上げます。

■ 調査・執筆・写真協力

[1]平成28年度～令和2年度 そうか生きもの調査員の皆さま

[2]そうか生きもの調査運営委員会（令和3年1月19日現在、敬称略・順不同）

委員長：加納 正行

副委員長：菅 藤男・矢島 民夫

委員：石井 実・岩崎 真佐子・河村 恵子・小松 庸男・坂庭 みつ江・島田 寿々子・清水 ヨシ子・近岡 勝夫・綱藤 敏郎・
彦坂 正治・宮腰 敏幸・村木 浩一・草野 美津枝

■ 参考文献

[1]埼玉県レッドデータブック2008動物編（埼玉県）

[2]埼玉県レッドデータブック2011植物編（埼玉県）

[3]草加市史 自然・考古編 1988年（草加市）

[4]そうかの自然観察ガイド—身近な動植物たち— 1988年（草加市）

[5]草加市野鳥・植生調査—報告書— 2002年（草加市）

[6]そうかの自然—身近な動植物たち— 2003年（草加市）

[7]山溪カラー名鑑日本の樹木 1989年（山と溪谷社）

[8]改訂新版フィールドで使える 図説植物検索ハンドブック[埼玉2998種類]
2020年（さきたま出版会）

[9]日本帰化植物写真図鑑 2018年（全国農村教育協会）

[10]増補改訂日本帰化植物写真図鑑第2巻 2015年（全国農村教育協会）

[11]日本の野鳥590 2000年（平凡社）

[12]街・野山・水辺で見かける野鳥図鑑 2019年（日本文芸社）

[13]トンボのすべて 2002年（トンボ出版）

そうか生きもの調査報告書 2016-2020

編集 そうか生きもの調査運営委員会／草加市市民生活部環境課

令和4年（2022年）5月発行 草加市市民生活部環境課

〒340-8550 埼玉県草加市高砂一丁目1番1号

TEL：048-922-1519／FAX：048-922-1030

Eメール：kankyoka@city.soka.saitama.jp

